六日〇正德三年閏五月。

一、御徒目付成瀨又八郎米野彌兵衛、人參座銀吹替御用被仰付之。

——柳營日次記〇正德三錄同。

六日〇正德三年閏五月。目付の屬吏に、人參の事並に銀改鑄の事命ぜらる。

——有章院殿御實紀

廿三日〇正德三年十月〇中略。

一、銀吹替御用被仰付ゐ輩、

大目付 中川淡路守〇成慶。
御目付 大久保甚右衛門〇忠位。
同 萩原源左衛門〇美雅。
御勘定奉行 水野因幡守〇忠順。
御勘定吟味役 杉岡彌太郎〇能連。

於芙蓉間老中列座豐後守申渡之。

但、右御用但馬守〇秋元喬知。へ可相伺之旨、是又相達之。

——柳營日次記

廿三日〇正德三年十月〇中略。

銀吹替御用被仰付輩、

大目付 中川淡路守 水野因幡守
大久保甚右衛門 杉岡彌太郎

萩原源左衛門

——正德三錄

廿三日〇正德三年十月〇中略。大目付中川淡路守成慶勘定奉行水野因幡守忠順、目付大久保甚右衛門忠位勘定吟味役杉岡彌太郎能連、萩原源左衛門美雅、銀改鑄の事を命ぜらる。このことすべて秋元但馬守喬知の指揮をうくべしとなり。

——有章院殿御實紀

四年ニハ、

一、二月〇正德四年二月〇中略。

一、金銀吹替御用朽木彌五左衛門代被仰付之。

一、二月〇正德四年四月。銀吹替御用被仰付之。

御徒目付 星野加右衛門
御目付 仙波七郎左衛門
同 野呂六右衛門
御小人目付四人。

一、四月〇正德四年六月〇中略。

一、銀吹替御用被仰付之。

御老中 秋元但馬守
若年寄 大久保山城守
大目付 中川淡路守
御勘定奉行 水野因幡守

股昌期

御目附　大久保甚右衛門
吟味役　杉岡彌太郎
同　萩原源右衛門
御勘定組頭　細井助九郎
御勘定　古郡孫太夫
同　堀内源右衛門
同　羽田藤左衛門
御徒目付　星野加右衛門
同　野呂六右衛門
同　中山藤太夫

一、四日（〇正徳四年九月。）銀吹替并引替御用被仰付之。

御勘定組頭　小出加兵衛
御勘定　河野彌一郎
同　庵原八兵衛
同　小林孫四郎
支配御勘定　佐藤甚太夫

一、十九日（〇正徳四年九月〇中略。）

一、銀座御用　御勘定　赤坂孫七郎

一、十五日（〇正徳四年十月〇中略。）

一、銀吹替御用　大久保甚右衛門代り　稻生二郎左衛門

——天享吾妻鑑

十二日（〇正徳四年六月〇中略。）

銀吹替御用被仰付。

御勘定組頭　細井助九郎
御勘定　古那孫太夫
　　　　堀内源右衛門
支配勘定　西田藤左衛門
徒目付　星野加右衛門
　　　　野呂六右衛門
　　　　中山藤太夫

廿五日（〇正徳四年八月。）

銀吹出し御用被仰付。

御目付　丸毛五郎兵衛（〇正徳四録同。）

朔日（〇正徳四年九月。）

右女御御殿御普請御用、并銀吹替御用ニ付京都に可被遣旨。

御勘定奉行　水野因幡守

殷昌期

御目付　大久保甚右衛門　御勘定吟味役　萩原源左衛門

右銀吹替爲御用京都江可被遣旨。○正德四年九月。四錄同。

四日

一、銀吹替并引替方御用被仰付之輩、

御勘定組頭　小出嘉兵衛　御勘定　河野彌一郎

同　庵原八兵衛○正親。同　小林孫四郎

支配勘定　佐藤甚太夫○正德四錄同。

御勘定　長坂孫七郎

十九日○正德四年九月○中略。

銀座御用被仰付。

右被仰付之。○正德四錄同。

十五日○正德四年十月○中略。

御勘定奉行　水野因幡守

御目付　丸毛五郎兵衛

御勘定吟味役　萩原源左衛門

金十枚。時服。三。羽折。　御用之付京都罷越ゐこ付御暇。

十。枚。二。羽織。

五枚。二。羽折。

廿六日○正德四年十二月○中略。

同。（○金三枚時服貳羽折。）

銀吹替御用　同（○大目付）　中川淡路守

同。

御勘定奉行　水野因幡守

——柳營日次記

この月○正德四年六月。銀改鑄の事奉はる人々を命ぜらる。官老秋元但馬守喬知、少老大久保山城守教寛、大目付中川淡路守成廣、目付大久保甚右衛門忠位、勘定奉行水野因幡守忠順吟味役杉岡彌太郎能連、萩原源左衛門美雅、その外勘定、目付の屬吏あまたあり。

廿五日○正德四年八月○中略。目付丸毛五郎兵衛利雄鑄銀の事にあづかるべしと命ぜらる。

十五日○正德四年十月○中略。勘定奉行水野因幡守忠順、女御の第宅構造并に銀改鑄の事奉はり、目付丸毛五郎兵衛利雄勘定吟味役萩原源左衛門美雅、銀改鑄の事により、ともに西上のいとま給はる。

——有章院殿御實紀

利雄○三太夫。五郎兵衛。美濃守。從五位下。丸毛。

四年○正德。十月十五日白銀更造の事をうけたまはりて京師にいたり、○略。下

美雅○善次郎。三左衛門。源右衛門。伯耆守。從五位下。萩原。

二年○正德。七月朔日御勘定吟味役にすゝみ、二百石を加賜せられ、これまでの廩米を改めて采地をたまひ、安房國平、上總國天羽兩郡のうちにをいて、すべて五百石を知行し、十二月布衣を着する事をゆるさる。四年九月朔日白銀の制度を改めらるゝにより、仰をうけたまはりて、京師に赴く。のちまたこの事及び女御御所の普請にあづかりて彼地にいたり、○略。下

是時銀貨ノ多クハ、京都ニ於テ改鑄シタル者歟。

正德小判金　重サ四匁八分

右古金小判重サ四匁八分。正德四年五月十五日金銀ノ品慶長ノ法ノ如ニ成シ返サルヘキトノ事ニテ、慶長金ノ位ニ改メ鑄ラル。添極印等ナシ、是ヲ世ニ正德新金ト云。今是ヲ古金ト云。

同上　佐字小判金(二品)　重サ四匁八分。其佐ノ字ハ佐渡ニテ吹ク所ナリ。

同上　壹分判金　重サ壹匁二分。

同上　佐字壹分判金(二品)　重サ同上。

同上　丁銀

同上　豆板銀

甲安今吹金壹分(三品)

正德四年甲斐守吉里朝臣(○柳澤。)吹替ナリ。新金ニ准テ之ヲ造ル。金ノ位中金ニ優レリ。俗ニ中安甲金ト云、俗ニトヅ金ト名ツク。今モ山方ノ樵夫ハ、銀壹匁五分ヲトブ壹朱ト云。(三匁ヲハ新金壹朱ト云。)重サ壹匁。

同上　貳朱(三品)　重サ五分。

同上　壹朱(二品)　重サ貳分五厘。

正德四年甲子五月、金銀の品悉く改鑄せられ、慶長の舊規に復せらる。添極印等なし、是を正德金銀といふ。又金をは武藏判といふ。享保新銀出來後も、取交通用す。元文元年丙辰に至て通用止む。此間二十二年。(○中略。)

金銀品位の事(○中略。)

正德小判金　一枚重サ四匁七分六厘。(正金一匁一厘二毛。)位同上。(○五十二匁二分。)

同一歩判金　一枚重サ一匁一分二厘。(正金一匁三毛。)位同上。(○五十二匁二分。)

金銀新古吹立高之事

享保金　八百四十九萬千六百兩餘。

內、武藏判　二十一萬三千兩餘

四年(○正德。)金銀貨ヲ改鑄シ、慶長ノ制ニ復ス。(○中略。)

是歲、金銀貨ヲ改鑄ス。(貨幣吹方手續書○中略。)

武藏小判金ハ、慶長小判金ト同品位ナリ。(○中略。)

謹案。武藏判ト之レヲ名クルハ、此トキ慶長ノ舊ニ復シタルニヨル。而シテ慶長金貨ハ、元ト文祿年中武藏ニテ鑄造シタル武藏墨判トイフモノヲ基本トセシナリ。是レ武藏判ノ名アル所以ナリ。(○中略。)

武藏壹分判ハ、卽チ慶長壹分金ト同品位ナレハ、價格ヲ記セサルナリ。

謹案舊貨幣表ニ據レハ、右小判壹分判金鑄造ノ總額二十一萬三千五百兩ナリ。後チ舊幕ニテ改鑄シタル額十九萬七千七百零四兩三分ナリ。

正德四年中ヲ武藏小判壹分判鑄造ノ時限トス。

享保丁銀○略。圖

享保豆板銀○略。圖

謹啓。右ニ載スル銀貨ハ正德四年ヨリ鑄造セシトコロナレトモ、之レヲ享保銀ト云ヒ傳フ。其鑄造ノ總額三十三萬千四百二十貫目ナリ。其貨率ハ大凡百分中銀八十分銅二十分ナリト、舊貨幣表ニアリ。

正德四年ヨリ元文元年マテヲ享保銀鑄造ノ年限トス。

正德四年新古金銀貨比較法ノ令アリ。舊記ニ載ス。卽チ左ノ如シ。

一、慶長古金　今通用ノ金○乾字金。ニ十割增。

右慶長古金往古金ト壹兩ニハ、今通用金二兩ヲ用ユベシ。今回ノ新鑄金ハ則其品位古金ニ同シ。其割增亦是レニ同シ。但今通用金ト元祿金トハ其品位高下アリトイヘトモ、其形大小アレハ、別ナク用ユベシ。但今通用金ト元祿金トヲ引替ルコト元祿金百兩ニ歩金トシテ今通用金二兩二分ヲ增加スルヲ例トス。故ニ今其法ヲ改ムルトキハ、元祿金ヲ藏スルモノ艱苦スヘシ。因テ以後亦其例ニ從テ、二品ノ金ヲ交換セシム。

一、慶長古銀　今通用ノ銀ニ十割增。

右慶長古銀往古銀ト壹貫目ニハ、新通用銀二貫目ヲ用ユヘシ。今回ノ新鑄銀ハ、其品位古銀ニ同シキヲ以テ、其割增亦是レニ同シ。但今通用銀凡、寶永七年以後鑄ル所ノ銀中銀○頭註、中銀トハ、永字銀○ナリ。三寶四寶等ト稱スハ、其別ナク用ユベシ。

一、元祿銀　今通用ノ銀ニ六割增。

右元祿銀元寶字ト稱ス。壹貫目ニハ、今通用銀壹貫六百目ヲ用ユベシ。

一、寶永初ノ銀　今通用ノ銀ニ三割增。

右寶永初ノ銀寶字銀ト稱ス。壹貫目ニハ、今通用ノ銀壹貫三百目ヲ用ユヘシ。但、今回新鑄ノ金銀貨普ク流布スルニ至ルマテハ、新古ヲ擇ハス通用セシム。今通用ノ貨幣ハ慶長ノ古貨ニ比スレハ品位大ニ下レリ。故ニ其品ヲ計テ割增ヲ制ス。新鑄ノ金銀貨ハ、慶長ノ古貨ニ同クシタレトモ、人民損失アルヲ免レス。故ニ僅カニ十割增ノ法ヲ定ム。不足ノ分ハ、政府ノ費用ヲ以テ之レヲ償フ。人民宜シク此意ヲ體スヘシ。

——大日本貨幣史

同年○正德四年。五月より小判金、壹分判金、丁銀、及ひ豆板銀を鑄造發行し、慶長の幣制に復す。武藏判金及ひ享保銀これなり。

武藏小判金

武藏壹分判金

武藏判の名あるは、此時慶長の幣制に復したるによる。而して慶長金は文祿中武藏國に於て初めて鑄造したる武藏墨判を基本として鑄造したるなり。

享保丁銀

享保豆板銀

享保銀は、正德四年の創鑄に係るも、これを享保銀といふ。主として享保年間に鑄造したるためならん。

〔參考〕

一、十三日〇正德四年五月。浅草町」〇文露叢此間「訛訪町」下有り。銅吹座ニテ銀樣シ吹改被申付。

——日本貨幣史

極印　二ツ寶　（銅銀三十目。）

同　三ツ寶　（銅銀廿五匁。七十五匁。）

極印　四ツ寶　（銅銀二十目。八十匁。）

右吹申候者、

江戸　大坂屋　久左衛門

京　丸金屋　次郎兵衛

追テ吹替申候者、

江戸　藏田七郎兵衛

京　谷長左衛門

七日〇正德四年九月〇中略。——天享吾妻鑑〇文露叢同。

屋鋪受授

六月三日癸酉〇正德四年（紀元二三七四年）〇癸酉、三正綜覽。屋鋪預有リ。外ニ若干屋鋪是月〇正德四年（紀元二三七四年）六月。受授セラル。〇屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

——柳營日次記

屋鋪受授事蹟

小笠原長邕

屋鋪受授　左ニ列擧スル各屋鋪ハ、正德四年六月ノ受授ニ係ル。

圖〇（宋）略。九月二日〇正德四年）中山牛之助ヲ渡ス。割替預替ル。

小石川　西與一左衛門上り屋鋪　坪數五百四拾貳坪七合。

東南道。坂治郎兵衛、齋藤半左衛門。西北道。十長貳間五尺。貳十貳間貳尺。三十壹間貳尺五寸。

內、六十貳坪、百六十六坪　與一左衛門建家。地借リ豐島平八郎建家。

小石川牛天神下、西與一左衛門殿上り屋鋪、小笠原造酒介〇長邕。ゟ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、建家立具疊長屋塗垂植木等迄、御目錄ヲ以相改、幷地借り豐島平八郎殿上り建家立具長屋土藏塗垂迄、御帳面ヲ以相改貳ケ所共相違無御座御預り申ゟ。爲後日仍如件。

正德四甲午年六月三日

小笠原造酒介內田村武兵衛印

朽木彌五左衛門內山瀨又次郎。長尾茂左衛門。

右立合相改預レ之。

殷昌期

牧野康重

圖○略。（朱）六月十五日（○正德四年）土肥源四郎を渡す。

小川町　建部彦次郎上ケ屋鋪　坪數三百貳拾三坪。内、建家百四十坪五合。

東　小川李左衛門。西　道。
南　大久保庄右衛門。北　大柴源五右衛門。

南東　十六間壹尺。西　十八間五尺。
南　十九間壹尺。北　十八間四尺。

小川町稲荷小路建部彦治郎殿上ケ屋鋪牧野周防守○康重。に御預ケ被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具疊長屋塗垂等迄、御帳面ヲ以相改、相違無御座御預り申い。爲後日仍如レ件。

正德四甲午年六月三日　　牧野周防守内　石黑武兵衛印

朽木彌五左衛門内山瀨又次郎。長尾茂左衛門。

建部彦次郎上ケ屋鋪建家立具疊目錄

一、門扉　但、錠鎖有。ゑゝ宅共。　三枚。
一、戸　但、半戸共。　八十四本。
一、障子　但、半障子共。　貳十八本。
一、襖　但、小襖共。　貳十本。
一、疊　但、半疊共。　百貳十三疊。

以上。　午○正德四年。六月

福田武成

紅葉山修復小屋場

圖○略。

小石川　福田辰之助○武成。屋敷　坪數貳百五十坪。

東　大林源四郎。西　尾崎傳十郎。
南　樫田作十郎。北　道。

東西　貳十五間貳尺六寸。
南北　九間五尺。

小石川御殿地之内、福田辰之助今度屋鋪拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如レ件。

正德四甲午年六月九日　　福田辰之助内　吉田吉兵衛印

嶋田佐渡守内渥美茂左衛門。
右立合相改渡レ之。　服部勘左衛門。吾孫子丈助。

圖○略。

銀冶橋御門の内　紅葉山御修復小屋場　坪數五百四拾三坪。

東　土手。西　道。
南　道。北　道。

東　六十九間。西　五十四間、十五間。
南　七間、三間半。北　八間。

紅葉山御宮并御供所御修覆爲小屋場、銀冶橋御門之内廣道之所ニ而、小普請方に御渡被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如レ件。

正德四甲午年六月十一日　　鳥井金左衛門支配小普請方手代　福見小助印

殷昌期

松平近朝

嶋田佐渡守内小倉半内。
右立合相改渡レ之。

圖○略。（朱）九月三日○正德四年ノ荻原源八郎ヘ渡ス。

市谷加賀屋敷　細井和泉守上ヶ屋敷　坪數五百貳拾坪。内建家貳百七坪。
東南道。大久保四郎右衞門、道。西北波田野左源太、大久保四郎右衞門。
東南貳十七間。十九間四尺。西北貳十六間。十九間三尺。

市谷加賀屋敷細井和泉守殿上ヶ屋敷、松平隼人正○近朝。に御預ヶ被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、幷建家立具疊長屋塗垂植木等迄、御目錄ヲ以相改、相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如レ件。

正德四甲午年六月十二日　松平隼人正内　小林彌三右衞門印

嶋田佐渡守内小倉半内。渥美茂左衞門。
右立合相改預レ之。

細井和泉守上ヶ屋敷建家立具疊植木石目錄。

一、門扉　四枚。　但、錠鎖有。ゑゝ共。
一、戸　百十七本。　但、半戸共。
一、障子　七十九本。　但、半障子共。
一、襖　四十三本。　但、小襖を除共。
一、疊　百六十三疊。　但、半疊共。
一、梯子　四挺。
一、植木　三拾本。　大小。
一、石　以上。

午○正德四年。六月

圖○略。

駒込　猪瀨政右衞門屋鋪　坪數百坪。
東南道。櫛田正有。西北道。渡部喜永。
東南四間三尺三寸。西北貳十壹間四尺五寸。四間三尺九寸。

駒込丸山新町味岡久朴上ヶ地、今度願之通り拙者屋敷拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如レ件。

正德四甲午年六月十三日　猪瀨政右衞門印
奥山三阿彌・山本傳阿彌支配御小納戸口上番

朽木彌五左衞門内長尾茂左衞門。宇野小兵衞。安川清兵衞。
右立合相改渡レ之。

圖○略。

小川町　土肥源四郎○元成屋鋪　坪數三百貳拾三坪。内建家百四十坪五合。
東南道。小川李左衞門。大久保庄右衞門。西北道。大柴源五右衞門。

土肥元成

殷昌期

東南十六間壹尺。西十八間五尺。
南十九間壹尺。北十八間四尺。

糀町土肥源四郎元屋鋪差上、小川町稲荷小路建部彦次郎殿上ヶ屋敷御引替被下ハ付、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、幷建家立具疊長屋塗垂等迄、御帳面ヲ以相改、相違無御座請取申ハ、爲後日仍如件。

正德四甲午年六月十五日　　土肥源四郎内　伊勢村喜左衛門印

右立合相改渡之。　宇野小兵衛。平野善三郎。安川清兵衛。原五郎左衛門。

——屋鋪渡預繪圖證文

松井宗要

屋鋪受授

正德四甲午年

六月九日渡。御殿地跡之内
一小石川御殿跡貳百五拾坪

六月十三日渡。味岡久朴上ヶ地
一駒込丸山新町百坪

六月十五日渡。建部彦次郎上ヶ屋敷
一小川町稲荷小路三百貳拾三坪
一木之但建家立具疊長屋塗垂共。

但、糀町屋敷差上、爲代地被下。

六月廿三日改。稲富求馬屋敷
一北本所二三ノ橋間通四百坪

但、右同斷。○屋敷相對替いたし付改之上、抗打替渡ス。

同（役名不知）福田辰之助
御小納戸口上番役名不知　猪瀬政右衛門
土肥源四郎

松井佐太夫。○宗要。

——屋敷書拔

七月四日癸卯　○正德四年（紀元二三七四年）○癸卯、三正綜覽。屋鋪受授有リ。外ニ是月○正德四年（紀元二三七四年）

七月。若干屋鋪受授セラル。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授　正德四年七月左ノ各屋鋪受授セラル。

圖○略。

玉置直之

濱町　玉置治右衛門。○直之。屋敷　坪數四百坪。
東南　秋山九左衛門。西北　割殘。道。
南　十八間九寸。西　貳十二間壹尺五寸。北　貳十壹間五尺。

濱町金丸四郎兵衛殿上リ屋鋪之内玉置治右衛門拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ、爲後日仍如件。

正德四甲午年七年四日　　玉置治右衛門内　龜田市兵衛印

朽木彌五左衛門内八田長左衛門。長尾茂左衛門。

右立合相改渡之。

圖○略。

濱町　金丸四郎兵衛上リ地割殘り　坪數七拾坪。
東　秋山九左衛門。西　北　道。玉置治右衛門。
南　伊藤新兵衛。
東南　三間壹寸。貳十貳間壹尺五寸。西北　三間二尺壹寸。貳十貳間壹尺五寸。

濱町金丸四郎兵衛殿上リ屋鋪割殘り、玉置治右衛門ハ御預ヶ被成、四方間數坪數右御

圖司末眞

繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年七月四日　　玉置治右衛門内 龜田市兵衛印

朽木彌五左衛門内八田長左衛門。長尾茂左衛門。

棟梁吾孫子丈助。服部勘右衛門。市川孫左衛門。

右立合相改預レ之。

圖略。

淺草鳥越　圖司半兵衛末眞屋鋪　坪數四百坪。

東南道。松浦伊右衛門。　北西御藏衆御役屋敷上ケ地。

東南十五間四尺八寸。　北西十五間四尺。

南十五間三尺。　北西十五間貳尺八寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋敷八人分上ケ地之内ニ、圖司半兵衛屋敷拜領仕い。御渡被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年七月五日　　圖司半兵衛内 太田十内印

朽木彌五右衛門内山瀨又治郎。長尾茂左衛門。

右立合相改渡レ之。

平野善三郎。宇野小兵衛原五郎左衛門。

圖略。

淺草鳥越　淺草御藏衆御役屋鋪　坪數千六百七拾四坪。

柳澤時睦

大井昌全

東南道。　西北道。

南東道。　北西六十五間壹尺。

南東六十五間。　北西貳十五間。

同　淺草御藏衆御役屋鋪三人分上ケ地　坪數千貳百四拾壹坪。

東南道。圖司半兵衛。　北西松平下總守。

東南四十八間三尺七寸。　北西四十七間四尺。

南貳十五間二尺八寸。　北西貳十三間三尺。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪七人分上ケ地道ヲ隔貳ケ所、松平式部少輔○柳澤時睦。ニ御預ケ被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年七月五日　　松平式部少輔内 水上孫兵衛印

朽木彌五左衛門内山瀨又次郎。長尾茂左衛門。

右立合相改預レ之。

圖略。

赤坂築地　大井七郎兵衛全。昌屋鋪　坪數五百八坪。

東南筒井佐治右衛門。　西北瀧川主馬。

東南三十七間四尺。　北西三十六間。

南十三間五尺五寸。　北西十三間四尺五寸。

赤坂築地白井平右衛門殿上り地、大井七郎兵衛拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年七月六日　　大井七郎兵衛内 横田一八印

殷昌期

朽木彌五左衛門渡レ之。

八田長左衛門、長尾茂左衛門、原五郎左衛門、清水喜兵衛。
市川孫左衛門。

圖略。

權田原元御屋敷　清左衛門上ケ御長屋　坪數七坪三合。空地共。

東西　貳間三尺。　南北　貳間。　南東　御長屋中嶋澤右衛門。　西　同道。草乙女仲右衛門。　北

權田原元御屋敷北御長屋之內御露次之者清左衛門上ケ御長屋、拙者共兩人ゟ御預ケ被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如レ件。

法心院樣御六尺玉田忠四郎支配
草乙女仲右衛門印
吹上御花畑番入村松彦四郎支配
芦山李兵衛印

正德四甲午年七月十三日

嶋田佐渡守內渥美太左衛門。
右立合相改預レ之。

草乙女仲右
芦山李兵

圖略。

淺草鳥越　宇垣貞右衛門屋鋪　坪數四百坪。

東南　道。圖司半兵衛。　西北　松平下總守。淺井兵四郎。

東南　十五間四尺五寸。貳十五間貳尺八寸。　西北　十五間四尺七寸。貳十五間貳尺三寸。

宇垣貞右

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡之內ニ〆、宇垣貞右衛門屋鋪拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申い。爲後日仍如レ件。

御膳奉行宇垣貞右衛門內
住谷六右衛門印

正德四甲午年七月廿二日

嶋田佐渡守內小倉半內。
右立合相改渡レ之。

覺

一、枯木　八本。
一、石　大小。　百六拾。
一、鳥居　壹ケ所。

右ゟ今度拜領仕屋鋪ニ有レ之い〻ニ付、請取申い。以上。

宇垣貞右衛門內
住谷六右衛門印

午〇正德四年。七月廿二日

嶋田佐渡守內小倉半內。
右立合相ニ渡之。

圖略。

淺草　御藏衆御役屋鋪　坪數千六百七十四坪。

東南　道。西北　道。　六十五間。貳十六間三尺。　西北　六十五間。壹尺。貳十五間。

柳澤時睦

諏訪頼安
佐々木彦十郎

浅草　御藏衆御役屋敷上ケ地割殘　坪數四百四拾壹坪

東道。浅井兵四郎。西松平下總守。南道。北西

東十七間七寸。西十六間四寸、二間一尺五寸。南貳十五間貳尺三寸。北貳十三間三尺。

浅草鳥越御藏御役屋敷割殘共、松平式部少輔○柳澤時睦。ゟ御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無ㇾ御座ㇾ御預り申い。爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

正德四甲午年七月廿二日

嶋田佐渡守内小倉半内。

松平式部少輔内
水上孫兵衛印

右立合相改預ㇾ之。

圖○略。

麻布市兵衛町　玉置治右衛門上ケ地　坪數三百拾三坪五合。

東道。西佐々木彦十郎。南道。北道。

東貳十九間貳尺、此ゟ道地形ゟ五尺程高シ。西貳十八間三尺。南貳十三間壹尺。北八間五尺。

麻布市兵衛町松平信濃守殿上ケ地之内玉置治右衛門殿上ケ地、諏訪伊織佐々木彦十郎兩人ゟ御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無ㇾ御座ㇾ御預り申い。爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

正德四甲午年七月廿二日

諏訪伊織内
金庄左衛門印

佐々木彦十郎内
向山作太夫印

浅井教信

朽木彌五左衛門内八田長左衛門。長尾茂左衛門。

右立合相改預ㇾ之。

圖○略。

浅草鳥越　浅井兵四郎○教信。屋敷　坪數四百坪。

東道。西松平下總守。南東宇垣貞右衛門。北浅草御藏衆上ケ地割殘り。

東十五間四尺五寸。西十五間四尺九寸。南北貳十五間二尺三寸。

赤坂築地浅井兵四郎屋鋪ゟ浅草御藏衆御役屋鋪跡、浅井兵四郎屋鋪拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座ㇾ請取申い。爲後日ㇾ仍如ㇾ件。

正德四甲午年七月廿二日

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改

奥御祐筆浅井兵四郎内
木村

覺

一、枯　木　壹

大小。

一、石　百

右ゟ今度拜領仕い屋敷ゟ有ㇾ之

午○正德四年。七月廿二日　中い。以上。

浅井兵四郎内
木村

殷　昌　期

島田佐渡守内小倉半内。
右立合渡レ之。

圖○略。

權田原元御屋敷　前田長右衞門長屋　坪數七坪三合。空地共。
東南御長屋道。中島澤右衞門。西北草乙女伸右衞門。
東西南北貳間。三尺

權田原元御屋鋪跡御長屋之内、御露路之者清左衞門上ヶ御長屋、願之通拙者ゟ御借渡被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座請取申ゝ。爲後日仍如件。

小坂長左衞門支配御風呂屋方小間遣
前田長右衞門印

正德四甲午年七月晦日

嶋田佐渡守内渥美太左衞門。

右立合相改渡レ之。

——屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

一、濱町四百坪　七月四日渡。金丸四郎兵衞上リ地之内　同（○役名不レ知）玉置治右衞門
一、濱町七拾坪　七月四日預。金丸四郎兵衞上リ地割殘　役名不レ知。玉置治右衞門預地。
一、淺草鳥越四百坪　七月五日渡。御藏業御役屋敷八人分上ヶ地之内　役名不知圖司半兵衞
一、赤坂築地五百八坪　七月六日渡。白井平右衞門上ヶ地　同大井七郎兵衞

一、淺草鳥越四百坪　七月廿二日渡。御藏業御役屋敷之内　御膳奉行宇垣貞右衞門　奥御右筆淺井兵四郎
同日渡。同斷
一、同所四百坪
但、赤坂築地屋敷ゟ引替被レ下。
七月晦日渡。北御長屋之内御露次之者清右衞門上ヶ御長屋　御風呂屋方小間遣前田長右衞門
一、權田原元御屋敷内七坪三合　○一本抹消。

——屋敷書拔

正德五年七月十一日晴。

一、屋敷被レ下レ之。

右麹町裏元山王ニ而横山藤兵衞上ヶ屋敷四百坪建家共被レ下レ之、於御膳立間、越前守間○部登。中渡之。中務大輔○本多忠良。列座。　御小性松前求馬○道廣。

通定○初主馬助。吉左衞門。御手洗。

——間部日記

正德四甲卯年七月廿八日本多因幡守組之節、拜預屋敷愛宕下佐久間小路坪數八百坪、分部隼人○光忠。下屋敷之内麻布白金三百坂坪數八百坪相對替願之通被仰付元屋敷拜領仕ゝ。年月日不レ知。

——寛政呈譜

領地城宅表

領地城宅	場所	廣袤又ハ祿高	所有年月	時代	沿革	現今推定地
抱屋敷	芝增上寺中門前二丁目	不明	正德四年七八月（○毛利吉元代）兩度	入江清兵衞、氏川勝兵衞邸買入	不明	芝區中門前二丁目一番地附近

——毛利のたけ記

本多忠良其他屋鋪受授

八月二日辛未○正德四年(紀元二三七四年)○辛未、三正綜覽。古河○下總國。城主本多忠良○中務大輔。小川町中屋鋪○市内神田區。ヲ賜フ。外ニ若干屋鋪ヲ是月○正德四年(紀元二三七四年)八月。受授ス。○屋鋪渡預繪圖證文。間部日記。屋敷書拔。寛政呈譜。

本多忠良其他屋鋪受授事蹟

本多忠良其他屋鋪受授　正德四年七月中ノ屋敷受授ヲ列擧ス。

○正德五年八月二日晴中略○

本多忠良

一、中屋敷被下之。

本多中務大輔○忠良。

右之家來差置ゆゑ居屋敷狹、其上御役をも相勤ゆゑ付、小川町護持院差上ゆ庭之内三千坪餘之處被下之旨、於御用部屋老中越前守○詮房。間部正齋。阿部列座、佐渡守○申渡之。

○正德四年八月晦日雨。

本目正房

御小性本目讃岐守○正房。

小川町奥山交竹院上ケ屋敷建家共ニ、只今記之屋敷ヶ替被下之。

但、坪數千四百廿八坪。建家四百四拾六坪。

右之通於御膳立之間、越前守申渡之。中務大輔○本多忠良。列座。

圖○略。

——間部日記

本多信正小宮山昌滿

小林祐良

赤坂　淺井兵四郎上ケ地　坪數三百坪。

東南　小宮山新八郎。西北　小林新八郎、井上傳八郎。本多新五郎。

東南　十間三尺五寸。西北　十間四尺貳十八間貳尺。一尺。

赤坂築地淺井兵四郎殿上ケ地、本多新五郎○正信。小宮山新八郎○滿。昌。兩人ニ御預ケ被成、四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如件。

小普請大久保淡路守組本多新五郎内三浦定右衛門印

正德四甲午年八月二日

小普請大久保淡路守内小宮山新八郎内渡部安左衛門印

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改預之。

圖○略。

淺草鳥越　小林貞右衛門○祐良。屋鋪　坪數三百坪。

東南　淺草御藏衆御役屋敷上ケ地割殘り。西北　道。同上。

東南　十壹間三尺三寸。十壹間三尺五寸。西北　貳十六間六寸。貳十五間五尺四寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡之内ニ、今度小林貞右衛門屋鋪拜領仕、御渡被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

小林貞右衛門内高橋兵七印

正德四甲午年八月十一日

殷昌期

朽木彌五左衛門内山瀬又次郎長瀬茂左衛門。
右立合相改渡レ之。
平野善三郎。中村三左衛門。我孫子丈助服部勘右衛門。

圖○略。

麹町天神裏門前　益池勘右衛門屋鋪　坪數貳百七坪五合。
東　町屋。　西　曾雌次郎右衛門。
南　植木藤助。　北　道。
東　貳十四間。　西　貳十貳間壹尺
南　十貳間五尺五寸。　北　五間三尺。

麹町天神裏門前土肥源四郎上ケ屋鋪拙者願之通拜領仕、御渡被レ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無二御座一請取申い。爲二後日一仍如レ件。

二丸御膳所組頭　益池勘右衛門　印

正德四甲午年八月十一日

島田佐渡守内小倉半内。
右立合相改渡レ之。

圖○略。

淺草鳥越　淺草御藏衆御役屋鋪上ケ地割殘　坪數九百貳拾四坪。
東　道。　西　道。
南　小林貞右衛門。　北　道。
東　三十六間貳尺。　西　三十六間貳尺五寸。
南　貳十五間五尺四寸。　北　貳十五間。

同　淺草御藏衆御役屋鋪上ケ地割殘　坪數四百四拾壹坪。
東　道。　西　松平下總守。
南　淺井兵四郎。　北　道。
東　十七間七寸。　西　十六間四寸、貳間一尺五寸。
南　貳十五間二尺三寸。　北　貳十三間三尺。

同　淺草御藏衆御役屋鋪上ケ地割殘　坪數四百五拾坪。
東　道。　西　道。
南　道。　北　小林貞右衛門。
東　十七間七寸。　西　十七間壹尺。
南　貳十六間三尺。　北　貳十六間六寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡割殘り道を隔三ケ所、松平式部少輔○柳澤時睦。に御預ケ被レ成、四方間數坪數右御繪圖之面、相違無二御座一御預り申い。爲二後日一仍如レ件。

松平式部少輔内　水上孫兵衛　印

正德四甲午年八月十一日

朽木彌五左衛門内山瀬又次郎。長尾茂左衛門。
右立合相改預レ之。

圖○略。

淺草鳥越　堀儀左衛門屋鋪　坪數貳百五拾坪。
東　淺草御藏衆御役屋敷跡割殘。　西　道。
南　明地。　北　道。
東　十八間五尺。　西　十八間五尺壹寸。
南　十三間一尺八寸。　北　十三間一尺八寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡に為、私屋鋪拜領仕い。御渡被レ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無二御座一請取申い。爲二後日一仍如レ件。

小普請方改役　堀儀左衛門　印

正德四甲午年八月十八日

殷昌期

小宮山長右

朽木彌五右衞門内山瀨又次郎。長尾茂左衞門。
右立合相改渡レ之。　棟梁六人。

圖〇略。

淺草鳥越　小宮山長右衞門屋鋪　坪數四百五拾坪。
東南道。小林貞右衞門。　西北道。割殘り、堀儀左衞門。
東十七間三尺四寸。南貳十五間五尺四寸。　西十七間三尺四寸。北貳十五間貳尺六寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋敷跡ニあ、小宮山長右衞門屋鋪拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

小宮山長右衞門内　高橋仲右衞門印

正德四甲午年八月十八日

朽木彌五右衞門内山瀨又治郎。長尾茂左衞門。
右立合相改渡レ之。

宇野小兵衞原五郎左衞門。中村半治。安川清兵衞。清水喜兵衞。
市川孫左衞門。

圖〇略。

淺草鳥越　淺草御藏衆御役屋鋪上ヶ地割殘　坪數四百四拾壹坪。
東南道。淺井兵四郎。　西北道。松平下總守。
東十七間七寸。南貳十五間貳尺三寸。　西十六間四寸、二間一尺五寸。北貳十三間三尺。

同　淺草御藏衆御役屋敷上ヶ地割殘り　坪數貳百貳拾四坪。
東南道。明地。　西北道。堀儀左衞門。
東十八間四尺八寸。南十貳間八寸。　西十八間五尺。北十壹間四尺二寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡割殘り道ヲ隔テ、二ヶ所、松平式部少輔〇柳澤時睦。ニ御預ケ被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

松平式部少輔内　水上孫兵衞印

正德四甲午年八月十八日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。長尾茂左衞門。
右立合相改預レ之。

柳澤時睦

圖〇略。

淺草鳥越　石原清左衞門〇正利。屋鋪　坪數四百五拾坪。
東南道。西北道。小林貞右衞門。
東十七間七寸。南貳十六間三尺。　西十七間一尺。北貳十六間六寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡ニあ、石原清左衞門屋敷拜領仕、御渡し被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

石原清左衞門内　川瀨軍太夫印

正德四甲午年八月十八日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。長尾茂左衞門。
右立合相改渡レ之。

石原正利

宇野小兵衛。原五郎左衛門。中村半治。安川清兵衛。清水喜兵衛。市川孫左衛門。

圖○略。

牛込　逢坂割殘　坪數七百貳坪。

東南　山田平助。　西　新道。がけなさゝ。

南　十貳間三尺七寸。　北　西　五十三間三尺、北ニテ欠込三間。十間貳尺、二間。

牛込逢坂元御用屋敷割殘り、山口兵庫○安。直。に御預ケ被ル成、四方間數坪數右御繪圖之面相違無ニ御座一御預り申ゝ。爲ニ後日一仍如レ件。

正德四甲午年八月十九日　山口兵庫内　松宮段右衛門印

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。

右立合相改預レ之。

山口直安

圖○略。

三田元御屋鋪之内　比田野市郎兵衛小屋跡上ケ地

坪數拾九坪。

東南　河野勘兵衛。　東　道。　南　道。　北　西　道。

東南　四間三尺、南方貳間。貳間、中央ニテ二間三尺。　北　西　六間。三間三尺。

三田元御屋敷之内、御數寄屋方御露次之者比田野市郎兵衛小屋跡上ケ地、拙者に御預ケ被ル成、四方間數坪數右御繪圖之面相違無ニ御座一御預り申ゝ。爲ニ後日一仍如レ件。

正德四甲午年八月十九日

朽木彌五左衛門内長尾茂左衛門。

右立合相改預レ之。

棟梁、安川清太夫。市川孫左衛門。

小林定右衛門・岡田利左衛門・小坂長左衛門支配一位樣御憂所人　河野勘兵衛印

河野勘兵

圖○略。

牛込逢坂　八木清五郎時○茂屋敷　坪數三百坪。

東南　新見勘三郎。村田右衛門八。　北　西　新道。新道。

東南　十七間。十五間。一尺、四間五尺。　北　西　十貳間。十貳間。三尺。

同　村田右衛門八屋鋪　坪數三百坪。

東南　山口兵庫。山田治右衛門。　北　西　新道。八木清五郎。

東南　十八間貳寸。十四間貳尺三寸。　北　西　貳十三間五尺四寸。十五間一尺。

同　山田治右衛門○邦政屋敷　坪數三百坪。

東南　山口兵庫。塚原賴母。　北　西　新道。村田右衛門八。

東南　貳十間五尺八寸。十四間二尺三寸。　北　西　貳十間五尺八寸。十四間二尺三寸。

牛込逢坂元御用屋敷之内ニ為、八木清五郎・村田右衛門八・山田治右衛門右三人屋鋪拜

領仕、御渡被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無ニ御座一銘々請取申い。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

正德四甲午年八月十九日　　御勘定八木清五郎内　同村田右衞門八内

嶋田佐渡守内　渥美太左衞門。　　筒井吉兵衞　原田儀太夫

右立合相改渡レ之。棟梁三人。　　同山田治右衞門内　加藤數右衞門

圖○略。

小石川御殿近所　坪井源右衞門添地。

東南　道。　西北　宮下作右衞門。
南　道。　北　坪井源右衞門。

東西　三間三尺。　北　十七間三尺。
南　十七間貳尺五寸。

小石川元御殿近所坪井源右衞門屋敷續預り地、今度願之通源右衞門添地ニ拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無ニ御座一請取申い。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

正德四甲午年八月十九日　　新御番松平主馬頭組坪井源右衞門内

嶋田佐渡守内　渥美太左衞門。　　内藤助右衞門印

右立合相改渡レ之。

棟梁、中村三左衞門。吾孫子丈助。

圖○略。

柳澤時睦

淺草鳥越　淺草御藏衆御役屋鋪上ケ地割殘り　坪數四百四拾壹坪。

東南　道。　淺井兵四郎。　西北　松平下總守。　道。

東南　十七間七寸。　十五間二尺三寸。　西北　十六間四寸、北ノ角二間一尺五寸。　貳十三間三尺。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡割殘り、松平式部少輔○柳澤時睦。に御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無ニ御座一御預り申い。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

正德四甲午年八月廿三日　　松平式部少輔内　水上孫兵衞印

嶋田佐渡守内　小倉半内。

右立合相改預レ之。

圖○略。

小田切庄藏

淺草鳥越　小田切庄藏屋鋪　坪數貳百貳拾四坪。

東南　道。　小宮山長右衞門。　西北　堀儀左衞門。　道。

東南　十八間四尺八寸。　十貳間八寸。　西北　十八間五尺。　十壹間四尺貳寸。

淺草鳥越御藏衆御役屋鋪跡割殘ニ付、今度拙者屋鋪拜領仕、御渡被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無ニ御座一請取申い。爲ニ後日一仍如ㇾ件。　支配勘定

正德四甲午年八月廿三日　　小田切庄藏印

嶋田佐渡守内　小倉半内。

右立合相改渡レ之。棟梁三人。

圖○略。

權田原　青木權藏屋鋪　坪數七拾坪。

東南　山下九八郎屋鋪。木村八左衞門。　西北　道。割殘。

同　東西　六間四尺。南北　十間三尺。

山下九八郎屋敷　坪數七拾坪。

東南　道。木村八左衞門。　西北　青木權藏。割殘り。

東西　六間四尺。南北　十間三尺。

權田原元御屋敷之內御土藏跡ニ〆、拙者共兩人屋敷拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無ニ御座一請取申ゆ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

吹上御花畑御植木方下杖突村松彥四郎・三浦十右衞門支配

山下九八郎印

右同斷。同支配

青木權藏印

正德四甲午年八月廿五日

朽木彌五左衞門內山瀨又次郎。長尾茂左衞門。

右立合相改渡ㇾ之。棟梁三人、

覺

一、松木　壹本。

一、搗木　壹本。

右私拜領屋鋪ニ有ㇾ之、請取申ゆ。以上。

午○正德四年。八月廿五日

圖○略。

權田原元御屋敷　石原庄左衞門屋敷　坪數八拾四坪。

東南　道。山岡喜知五郎。　西北　道。大嶋新平。

東南　五間四尺八寸。十四間三尺。　西北　五間四尺四寸。十五間壹尺。

同　大島新平屋敷　坪數八拾四坪。

東南　道。石原庄左衞門。　西北　道。奥村茂左衞門、岩村六右衞門、芦山杢兵衞。

吹上御花畑御植木方下杖突山下九八郎印

石原庄左

大島新平

奥村茂左

岩村六右

芦山杢兵

同　奥村茂左衞門屋敷　坪數七拾坪。

東南　五間貳尺六寸。十五間壹尺。　西北　五間三尺。十五間五尺。

南東　道。大島新平。　西北　岩村六左衞門。道。

東西　十三間壹尺七寸。南北　五間壹尺六寸。

同　岩村六右衞門屋敷　坪數七拾坪。

東南　奥村茂左衞門。大島新平。　西北　芦山杢兵衞。道。

東西　十三間壹尺六寸。南北　五間壹尺六寸餘。

同　芦山杢兵衞屋鋪　坪數七拾坪。

東南　岩村六右衞門。大島新平。　西北　布下八三郎。道。

東西 十三間壹尺六寸。
南北 五間壹尺六寸餘。

權田原元御屋鋪之内戸田助太夫上ヶ地之内、拙者共五人屋鋪拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座銘々請取申い。爲後日仍如ㇾ件。

正德四甲午年八月廿五日

同所御掃除之者組頭同支配 石原庄左衛門印　同所御花畑入口番人同支配 大嶋新平印
同斷同支配 岩村六右衛門印　同斷同支配 芦山李兵衛印
朽木彌五左衛門内山瀨又治郎。長尾茂左衛門。
右立合相改渡ㇾ之。 棟梁六人。

熊谷李左

圖○略。

權田原元屋敷内割殘　坪數貳拾貳坪六合。

東南道。青木權藏、山下九八郎。　西北道。御土藏熊谷李左衛門預り。
北 番所伏見十兵衛預り。
東南 一間一尺七寸。貳十壹間。　西北 三尺貳寸。十五間六間。

權田原元御屋敷之内御土藏跡わり殘り、拙者に御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如ㇾ件。

御廣敷添番 熊谷李左衛門印

正德四甲午年八月廿五日

朽木彌五左衛門内山瀨又治郎。長尾茂左衛門。

末木兵左

圖○略。

三田元御屋敷之内　末木兵左衛門屋鋪　坪數七拾六坪。

東南道。土屋半右衛門。　西北道。

東南 八間四尺。十間貳尺。　西北 三間壹尺、三間。十一間。

三田元御屋鋪之内江渡三郎兵衛殿上ヶ地、拙者拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如ㇾ件。

三浦十右衛門・村松彦四郎支配吹上御花畑御座敷方 末木兵左衛門印

正德四甲午年八月廿五日

朽木彌五左衛門内山瀨又次郎。長尾茂左衛門。
右立合相改渡ㇾ之

吾孫子文助。市川孫左衛門。服部勘右衛門。

野澤右衛門八

圖○略。

内藤宿　野澤右衛門八屋敷　坪數七拾五坪。

東南 天野内膳。道。　西北 新道。
東西 七間三尺。十間。　南北 鈴木伴右衛門。

同　鈴木伴右衛門屋鋪　坪數七拾五坪。

東南 天野内膳。野澤右衛門。　西北 新道。青木彦七。

鈴木伴右

青木彦七　伊藤八郎兵衛　淺川園右　近藤定右　山下直右

同　南東七間。西北十間。三尺。

同　青木彦七屋鋪　坪數七拾五坪。
南東天野内膳。西新道。
南鈴木伴右衛門。北伊藤八郎兵衛。

同　南東七間。西十間。三尺。
北

同　伊藤八郎兵衛屋鋪　坪數七拾五坪。
南東青木彦七。西増山藤兵衛。
天野内膳。北新道。

同　南東七間。西十間。三尺。
北

同　淺川園右衛門屋鋪　坪數七拾五坪。
南東溝口右近上り地。
道。西近藤定右衛門。
北

同　南東七間五尺四寸餘。
北西九間貳尺九寸。

同　近藤定右衛門屋鋪　坪數七拾五坪。
南東新道。淺川園右衛門。西溝口右近。
北西七間五尺四寸餘。
南東九間貳尺九寸餘。
北西山下直右衛門。

同　山下直右衛門屋敷　坪數七拾五坪。
南東新道。近藤定右衛門、西溝口右近上り地。
北割殘り。
南東七間五尺四寸餘。
北西九間貳尺九寸餘。

内藤宿鵜殿源之丞上り地之内ニ〆、拙者共八人屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座銘々請取申い。爲後日仍如件。

三浦十右衛門・村松彦四郎支配吹上御花畑下役

正月四甲午年八月廿七日

同斷　近藤定右衛門印　同斷　青木彦七印
同斷　鈴木伴右衛門印　同斷　伊藤八郎兵衛印
同斷　山下猶右衛門印　同斷　増山藤兵衛印
同所入口番人　淺川薗右衛門印　吹上御花畑杖突　野澤右衛門八印

朽木彌五左衛門内八田長左衛門。長尾茂左衛門。
右立合相改渡ル之。　棟梁六人。

圖略。

牛込逢坂　板倉九左衛門叙。惇屋鋪　坪數四百貳拾六坪。内、八拾坪がけなゞ。
南東新道。西多田新五左衛門、佐山源兵衛。
山田平介。北今井五郎右衛門。
東西十七間五尺五寸。北十五間六寸。
南西貳十五間貳尺七寸。

牛込逢坂御用屋鋪跡割殘之内ニ〆、今度板倉九左衛門拜領仕、御渡し被ル成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元方御納戸組頭板倉九左衛門内

正德四甲午年八月廿八日　朽木彌五左衛門内山瀨又治郎。　松浦伊右衛門印

右立合相改渡レ之。

平野善三郎。中村三左衞門。安川清兵衞。清水喜兵衞。

圖○略。

牛込逢坂　今井五郎右衞門○信興。屋鋪　坪敷四百貳拾六坪。内、七十坪がけなさゝ。

東　新道。　西　小島市右衞門、多田新五右衞門。
南　板倉九左衞門。　北　新道。

東　貳十八間五尺五寸。　西　貳十六間五寸、三間。
南　十五間六寸。　北　十間貳尺、四間四尺。

牛込逢坂御用屋鋪跡割殘之内ニ〆、今度今井五郎右衞門ゟ屋鋪拜領仕、御渡被レ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申レ。爲後日仍如レ件。

元方御納戸組頭今井五郎右衞門内　石橋幾右衞門印

正德四甲午年八月廿八日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。

右立合相改渡レ之。

平野善三郎。中村三左衞門。安川清兵衞。清水喜兵衞。

屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

一、赤坂築地三百坪　八月二日預。淺井長四郎上ヶ地

小普請大久保淡路守組　本多新五郎

同　小宮山新八郎預地。

役名不レ知　小林貞右衞門

二丸御膳所組頭　益池勘右衞門

一、淺草鳥越三百坪　八月十一日渡。御藏業御役屋敷跡之内

一、麹町天神裏門前貳百七坪五合　八月十二日渡。土肥源四郎上ヶ地

一、淺草鳥越貳百五拾坪宛　八月十八日渡。御藏業御役屋敷跡之内

同日渡。同斷

一、同所四百五拾坪宛

一、牛込逢坂三百坪宛　八月十九日渡。元御用屋敷之内

一、小石川元御殿近所六拾壹坪壹合　八月十九日渡。屋敷續預り地

一、三田元御屋敷之内拾九坪　八月十九日預。比田野市郎兵衞小屋跡上ヶ地

一、淺草鳥越貳百貳拾四坪　八月廿三日渡。御藏業御役屋敷跡割殘

一、權田原元御屋敷内七拾坪宛　八月廿五日渡。御土藏跡

一木ニ外ニ植木共。

一、同所八拾四坪宛　八日渡。戸田助太夫上リ地之内

一、同所七拾坪宛　八日渡。

一、三田元御屋敷内七拾六坪　八月廿五日渡。江渡三郎兵衞上ヶ地

殷昌期

小普請改役　堀儀左衞門

役名不レ知　小宮山長右衞門

同　石原清左衞門

御勘定　木清五郎

同　村田右衞門八

同　山田治右衞門

新御番松平主馬組　坪井源右衞門

一位樣御臺所人　河野勘兵衞預地。

支配勘定　小田切庄藏

吹上御花畑御植木方下杖突　山下九八郎

同　青木權藏

同御植木方世話役　大島新平

同御掃除之者組頭　石原庄左衞門

同御花畑入口番人　奥村茂左衞門

同　岩村六右衞門

同　芦山杢兵衞

吹上御花畑塀敷方○一木ニ、「三浦十右衞門」村松彦四郎支配」

末木兵左衞門

一、權田原元御屋敷内貳拾貳坪六合（八月廿五日頃。御土藏跡割殘）

一、内藤宿七拾五坪宛（八月廿七日渡。鵜殿源之丞上り地内）

一、牛込逢坂四百貳拾六坪宛（八月廿八日渡。御用屋敷跡割殘之内）

廣敷添番　熊谷李左衛門

同（〇吹上御花畑御座敷方）下役　青木彦七　頂地。

同　近藤定右衛門

同　伊藤八郎兵衛

同　鈴木伴右衛門

同　増山藤兵衛

同　山下猶右衛門

同杖突　野澤右衛門八

同入口番人　浅川薗右衛門

元方御納戸組頭　板倉九左衛門

同　今井五郎右衛門

——屋敷書拔

正利（清左衛門。〇石原。）

同年（〇寶永二年。）在府中於江戸表屋敷拜領仕度段奉願ゆ處、十二月十五日願之通被下ゆ間、追ゐ場所見立可相願旨。正德四午年八月十二日江戸淺草元鳥越御藏奉行屋敷跡坪數四百五十坪如願賜之。

——寛政呈譜

新金銀貨引換

是日（〇正德四年（紀元二三七四年）八月二日。）新鑄金銀貨引換ヲ開始ス。（〇正寶事錄。）

新金銀貨引換事蹟

新金銀貨引換　正寶事錄ニ據ル。

覺

金銀引換場

右ゑ當月二日ゟ新金銀引替始申ゆ。此段町中ゟ可觸知ゆ。

八月四日（〇正德四年。）　日本橋南大工町　谷長左衛門

右之通被仰渡ゆ間、町中不殘可相觸ゆ。以上。

八月四日（〇正德四年。）　町年寄　三人

チヨキ舟停止事蹟

十八日丁亥（〇正德四年（紀元二三七四年）八月〇丁亥、三正綜覽。）チヨキ舟停止ヲ申令ス。（〇正寶事錄。）

チヨキ舟停止　正寶事錄ニ、

覺

ちよき舟之義當夏中令停止、不殘解舟ニ申付ゆ所、今以ちよき舟有之由相聞、不屆之至りゆ。名主共支配限り、入念遂吟味、ちよき舟持ゆ者有之ゆハヽ、番所まで可申出ゆ。解可申付ゆ人を廻し相改ゆ間、不訴出隱置ゆ者有之ゆハヽ、船持主ゑ急度曲事申付、家主まで可爲越度ゆ間、此旨町中可相觸ゆ。以上。

八月（〇正德四年。）

右御觸、八月十八日（〇正德四年。）喜多村ニゐ寫物。町中連判。

殷昌期

右御觸之當夏御停止解舟被仰付い義、數遍繰い得共、相見不申い。尤去巳年〇正德三年。三月、二挺立三挺立之船御停止解舟ニ可仕御觸有之い。

附記　白山權現祭禮

〔附記〕白山權現祭禮

廿一日〇正德四年八月。

一、今日白山權現祭禮ニ付、如例御初尾銀十枚御徒目付持參。

但、九月廿一日雖爲定日、當年ゟ根津權現の祭禮九月廿一日有之、筈ニ付て也。

——柳營日次記

廿日〇正德四年八月。白山權現祭祀なれば、銀十枚を進薦せらる。

——有章院殿御實紀

救助願

廿六日乙未〇正德四年（紀元二三七四年）八月〇乙未、三正綜覽。米價昂騰シ、細民困窮スルヲ以テ、市民町奉行所ニ救助願ヲ出ス。十一月〇正德四年（紀元二三七四年）。ニモ再願スル所有リ。〇正寶事錄。續談海。

救助願事蹟

救助願　前年夏ヨリ屢物價引下施設ノ出願有リ。正德四年八月全町民ヨリ救助願ヲ提出スルニ至リ、十一月再願シ、翌五年七月頃マデ出願スル所有リ。救濟篇ヲ參照セヨ。

年恐以書付御訴訟奉申上い。

一、近年米諸色高直ニ罷成、取分頃日ニ至り、米高直ニ罷成いニ付、町中家持共、困窮難儀仕い其日過之者共、先年を違、日用抔取い者ゑ賃錢等も多ク取い故、非人ゑ出不申い得共、下人壹人ゑ召仕い躰之者共、取分困窮仕い間、如何樣とも御救被爲仰付被下い樣ニ奉願上い。以上。

正德四年午八月廿六日

御番所

惣町中
名主　町人　共

右之通惣年番名主相談之上、書付相認、坪內能登守樣御番所ゟ御訴訟申上い由、年番名主通達。

年恐以書付御訴訟奉申上い。

一、惣町中名主町人共申上い。近年諸色高直ニ罷成、困窮付い所、別ゑ當秋中ゑ米諸色高直ニ御座いニ付、諸問屋御吟味被遊被下置い所、舟間故高直ニ御座い樣申上い。左いハゝ入舟仕いハゝ、諸色ゑ下直ニ可罷成い樣奉存い。家持借屋店借之者共、米下直ニ罷成い迄取續申度、朝夕粥雜穀給來申い所於、今米諸色次第高直ニ罷成候得共、下直ニ不罷成、裏々之もの共、店仕舞申者多、夫故近キ頃ゑ、非人ゑ多罷出申い。只今まで雜穀等給申いニ付、漸々取續仕い得共、此上如何樣ニ仕取續可致方ゑ無御座、次第ニ困窮仕い御慈悲を以、如何樣共御救奉願い。以上。

正德四年午十一月廿二日

惣町中
名主

殷昌期

右書付を以、御月番坪内能登守様御番所に、惣町中名主共幷町人、壹町ヨリ五人宛、明ケ七ツ時罷出、御訴訟申上い。

同（末ツ）○正德四年十一月。廿三日、松野壹岐守様御番所に右之通り罷出、同廿四日中山出雲守様御番所に右之通罷出、同廿六日ゟ北方ゟ出雲守様御番所、南方日本橋ゟ京橋まで八丁堀靈岸島筋ゟ能登守様御番所、京橋ゟ南方同久保町筋赤坂邊ゟ壹岐守様御番所、右之通三御番所に別を御訴訟ニ可罷出い、猶まゝ相談之上、右別を罷出い義相止、惣町中一同ニ

同廿九日壹岐守様御番所に罷出、同十二月三日出雲守御番所に罷出い。

——正寶事錄

一、霜月（四年。）○正德の頃に至り、非人大分出申い。中橋の廣小路に集居り申い。千人餘之よし

淺草馬場邊、柳原へ出申いも千人餘屋敷方町方よりも施行有之。

一、五六月（五年。）○正德の頃、江戸米直段兩に貳斗八升位ひ屋敷之米三斗五六升位。前代無之義ニい。

——續談海

廿九日戊戌（○正德四年（紀元二三七四年）八月○戊戌、三正綜覽。）新貨幣ノ通用ニ關シ、武家ニ曉諭スル所有リ。十一月廿九日丁卯（○正德四年）○丁卯、三正綜覽。更ニ諸國商人殊ニ兩替屋ニ諭達ス。（○柳營日次記。正德四錄。有章院殿御實紀。）

新貨幣通用ニ關スル諭達

新貨幣通用ニ關スル諭達事蹟

新貨幣通用ニ關スル諭達　新發行貨幣ニ關シテ諭達スル所有リ、通用ヲ滯澁スル如キコト無カラシム。

廿九日（○正德四年八月。）

大目付中川淡路守（○成慶。）相渡い書付、

覺

先頃被仰付い如く、上金銀吹出され、引替所ゟをひそ段々引替い。此由未ゟ武家方ニ不相聞由歟、武家方之引替幷兩替等無之依之、兩替所共引替取い所、通用無之由ニい。

先頃被仰出い如く、此沙汰之事、天下後代迄之を免ゟいをもつて、世上に於ゟいさゝかも損失不可有之い處を、御詮義之上、公儀御費をい不被願いゟ被仰出い事ニい。町々在々ニゟも通用ゟ及ひい處ニ、若武士方通用相滯いをもつて、事之難澁出來いゟおいゟゑ不可然事ニい。最初被仰出い旨、能々被心得、引替爲替等無滯可被申付い。已上。（○正德四錄同。）

午（○正德四年。）八月。

廿九日（○正德四年十一月。）出い御書付。

去頃新金銀通用之法被仰出い時、數度之御書付を出され、就中諸國商人兩替を業としい輩ゟハ、別しての御書付有之い所ニ、商人等みゝより新金銀の品を評論し、兩替の增歩を望ミ、剩武家におゐて新金銀不被用い故ゟ、世の通行相滯い由申なしい事

等、其風聞ゆ。急度御穿鑿を遂ふれ、其御沙汰有へき事ゆといへとも、當時御法事打續キ赦宥の御沙汰も有」之付ゑ、むらく其事ニ及むれすゆ。此後ゆ至ゑも最初御書付之次第ニ違背しゆ輩有」之ゆおゐてハ、其罪を糺され、重犯之科ゆ行むるへき事ゆ間、或ハ法に背きそ兩替の増分を出させ、或ハ故なく諸物の直段を高くしゆ等の事ハいふゆ及ハも、何事ゆよふを金銀の通行を相妨ゆものゝ事申出ゆものハ、よろしく御褒美あるへくゆ。もしさしあさる處の難儀ゆよりて、新金銀の増歩を出し、又ハこれら違法の事を存ゆて申出るゆ及むに、後日ニ至そ相顯ハるゝゆおゐてハ、其罪科犯人ゆ同しかるゑき者也。十一月正德四年。

右町奉行へ渡」之。

——柳營日次記

廿九日正德四年八月。　令せらるゝは、さきに仰出されしごとく、上品金銀鑄造せられ、引替所にて次第にひきかふるといへども、武家にてはいまだその事聞ざるか、武家の引かへ并にかはせ等もなきにより、兌銀鋪のやからひきかへても通行なしと聞ゆ、先に令せらるゝごとく、この事は天下後代までの爲なれば、人々いさゝかも損失あるまじき所を考覈られしうへ、官費は顧たまはず仰出されし事なり。既に市井村落にては通用するに、武家通用滯るをもて、ことの妨ともならんには、尤ゑかるべからず。よく前令の旨を心得、引替かはせとゞこほることあるべからずとなり。

廿九日正德四年十一月中略。　けふ令せらるゝは、さきに新金銀通用の制を令せられしとき、條令數通を示され、中にも國々の兌貨をすぎはひとするものには、別の條令下されしに、商人等みだりに新金銀の品格を評論し、兌貨の増歩をのぞみ、あまつさへ武家にて新金用ひざるにより、通貨とゞこほるよし、流言するの聞えあり、嚴に査撿せられ、その罪を糺さるべけれど、今御法會さしつゞき、赦行はるゝときなるをもて、ゑばしその事に及ばれず、この後もし前令にそむくものあらば、その罪を正され、重犯の咎に處せらるべきにより、或は法にそむきて兌貨の増歩を出させ、或は故なく諸物の價をたとくするはいふに及ばず、すべて金銀通行のさまたげなすものゝ事訴出ば、褒賜あるべし、もしさしあたる事のむづかしきをいとひ、新金銀の増歩を出し又はひがごとしりながら、うたへいでず後日にあらはれば、その罪犯人に同じかるべしとなり。

——有章院殿御實紀

〔附記〕　寺社門前私倡

寺社境内取締ノ令有リタルコト、上記ノ如シ。正德四年八月晦日永代寺ニ門前町屋私倡ノ嚴禁ヲ命ジ、九月三日護國寺住職ヲ遠慮セシメ、廿九日根津社祀官ヲ戒飭ス。

晦日正德四年八月。

申渡

永代寺門前町茶屋ゆ遊女を抱置間敷之由、爲御制禁之處ゆ、其旨を相背き、抱置不屆股昌期

之至ニゆ。永代寺事も御咎可ㇾ有ㇾ之といへとも、兼ゐ門前町屋ニ遊女不ㇾ抱置様ニ申付置ゆへ共、隠し差置ゆ段致ㇾ迷惑、之由先達ゐ奉行所迄訴出ニ付ゐ、此度ハ御構無ㇾ之ゆ。自今以後彌門前町屋ニ遊女を不ㇾ抱置様ニ堅可ㇾ申付ㇾ者也。　午〇正德四年。八月

三日〇正德四年九月。

護國寺門前町茶屋ゑ遊女を不ㇾ抱置様ニ於ㇾ奉行所ㇾ再往申渡處ニ、不ㇾ用ㇾ之隠し抱置ゆ段、不屆ニ付ゐ、其者共御仕置ニ申付ゆ。護國寺事も、門前町屋之儀ニゆへハ、兼ゐ奉行所ゐ申渡ゆ旨を堅相守ゆ様ニ申付、彌可ㇾ遂ㇾ吟味ㇾ之處ニ、無ㇾ其儀ゆ。依ㇾ之遠慮被ㇾ仰付ㇾ者也。

護國寺僧正

廿九日〇正德四年九月。

根津神主伊吹左京

根津門前之輩ハ、制禁を相背、遊女差置ゆ事常々吟味をも不ㇾ仕不屆之至ニゆ。雖ㇾ然當年ハ初度之祭禮有ㇾ之、格別之事ニ有ㇾ之を以、御沙汰ニハ不ㇾ及ゆ。自今以後、門前之事無ㇾ油斷ㇾ可ㇾ申付ㇾ者也。

根津門前町屋遊女差置し者共

根津門前町屋之輩、御制禁を相背き、遊女差置ゆ事、其罪科護國寺永代寺等門前之者共ゑ相同しといへ共、當年ハ御祭禮初度之時節ゐるを以て、御宥免有ㇾ之、出牢之上門前を拂ハれゆ者也。

同所門前町屋大屋共

右同斷之趣ニ付遊女屋共門前拂ハれゆへ共、大屋ニおゐてハ何之御構無ㇾ之ゆ。自今以後違犯無ㇾ之様、急度可ㇾ相慎ㇾ者也。

三日〇正德四年十月。

護國寺僧正

門前町屋之儀ニ付、先頃遠慮被ㇾ仰付ㇾゆ。未間も無ㇾ之ゆへ共、此度就ㇾ御法事、遠慮御免被ㇾ成ゆ旨、寺社奉行へ達。

——柳營日次記

廿九日〇正德四年八月〇中略。深川永代寺門前の茶肆、禁にそむきて私窩を設けしは、寺にもとがめらるべけれど、寺よりは兼ていましめ置しかど、また、たがはざるよし、さきに奉行所へうたへ出しをもて、こたびはとがめられず、よりて今よりのちいよ〳〵嚴禁すべしと令せらる。

三日〇正德四年九月〇中略。此日護國寺尊祐、遠慮を命ぜらる。これは門前の茶肆ひそかに娼婦を置きしによれり。

廿九日〇正德四年九月〇中略。根津の社門前の地、兼ての令にたがひ遊女を置しに、常に査撿もせず、いとひがごとなり、また、かれどもことしはじめて祭祀をさまはれしことなれば寛宥もてとがめられず、從來の事をこたらずいましむべしと祠官伊吹左京昌明に

仰下さる。

屋鋪受授

九月二日辛丑○正德四年(紀元二三七四年)○辛丑、三正綜覽。屋鋪受領者有り。外ニ是月(○正德四年九月。)若干屋鋪受授セラル。○屋敷書拔。柳營日次記。正德四錄。公餘付錄。問部日記。寛政呈譜。松平家譜。

屋鋪受授事蹟

中山守宣
萩原乘秀
大久保右衞門
大河原兵左
小林勘平
皆川平藏
福田伊左
山邊平左
土方保江
本目正房

屋鋪受授 正德四年九月受授スル所ノ屋鋪ヲ擧グ。

正德四甲午年

一小石川牛天神下三百四拾貳坪七合。
一本ニ、但、建家長屋幷立具共。
九月二日渡。西興左衞門上ケ屋敷之內

一市谷加賀屋敷五百貳拾坪
一本ニ、但、建家立具疊長屋塗垂植木共。
九月三日渡。細井和泉守上ケ屋敷

一虎御門外八百八拾五坪
一本ニ、但、建家立具疊長屋土藏植木共
同日渡。鈴木能登守上ケ屋敷

一小石川御殿跡貳百坪
九月五日渡。御殿地跡之內

一下谷根津近所貳百坪
○一本抹消。
九月五日預。小宮山長右衞門上ケ地

一同所○北本所。一二ノ橋間通貳百五拾坪
九月五日渡。

一芝新堀端貳百坪
九月七日渡。多田新左衞門上ケ地之內

一芝新堀端三百拾四坪
○一本抹消。
九月五日預。多田新左衞門上ケ地御殘

一小川町千四百貳拾八坪
一本ニ、但、建家立具長屋塗垂植木石共。
九月十五日渡。奥山交竹院上ケ屋敷

役名不知中山牛之助○守宣。
同 萩原源八郎○乘秀。
同 大久保右衞門
大島肥前守組小普請 大河原兵左衞門
猪飼次兵衞組御草履取 小林勘平
御納戸小遣之者 皆川平藏。預地。
御鑒所方 福田伊左衞門
大久保淡路守組小普請 山邊平左衞門
土方采女○保江。預地。
役名不知本目讃岐守○正房。

一市谷長淵寺谷貳千七百四拾三坪。
一本ニ、幷ニ建家立具長屋土藏植木共。
九月十五日渡。大久保右衞門上ケ屋敷幷預り地共

但、小川町屋敷差上爲代地被下。

一小石川新小川町百五拾七坪
○一本抹消。
九月十六日預。酒匂勝右衞門上ケ地

一同所貳百坪
○一本抹消。
同日預。平井新五右衞門上ケ屋

一小日向五軒町百貳拾九坪貳合
九月廿五日預。原田仁兵衞上ケ地幷預り地共

一小川町七千五拾坪
一本ニ、建家立具疊土藏植木石共。
九月廿八日渡。元御用屋敷幷本目讃岐守・中根直次郎上ケ地

但、當所元屋敷差上爲代地被下。

○正德四年脫○九月六日中略。

一屋敷替被仰付之。

大久保加賀屋敷、
秋元伊賀守屋敷、
河內守屋敷、
豐後守屋敷ハ、
水野監物屋敷、

役名下知中根直次郎○正直。
役名不知眞田小源太○信清。預地。
二丸火之番荒井藤太夫
松前伊豆守組小普請 小林左五右衞門 預地。
松平主計頭支配小普請 小野庄兵衞
大久保淡路守支配小普請 池野谷理兵衞
松平伯耆守○本庄資俊。

——屋敷書拔

中根正直
眞田信清
荒井藤太夫
小林佐五右
小野庄兵
池野谷理兵
本庄資俊

井上正岑
阿部正喬
松平信庸
戸田忠眞
森川俊胤

河內守○井上正岑。
豐後守○阿部正喬。
紀伊守○松平信庸。
山城守○戸田忠眞。
森川出羽守○俊胤。

右於御用部屋同人（○問部詮房。）申達之。列座同前。（○本多忠良列座。）

一、表向屋敷替有之。

小川町ニあ七千百四拾八坪。

小川町御用屋敷貳千六百坪、
建家共ニ、中根直次郎上屋敷
建家共ニ、本目讃岐守上屋敷
建家共ニ。

小川町松平伯耆守上屋敷建家有。
但、壹萬八百六十八坪之内ニて西丸屋敷
元坪之通。

七千貳百八拾八坪、

日比谷御門近所山城守上ケ屋敷、
增上寺切通し加藤和泉守上屋敷、
愛宕下紀伊守上ケ屋敷、

○正德四年九月廿七日晴○中略。

一、阿部豐後守（○正喬。）今度被下之居屋敷家來差置い長屋等狹ニ付、井上河内守（○正岑。）常盤橋之上ケ屋敷被下之旨、於御用部屋、越前守（○問部詮房。）申渡之。中務大輔（○本多忠良。）列座。

——間部日記

六日（○正德四年九月。）

一、屋敷入替被仰付。

内櫻田大久保加賀守屋敷へ、
秋元伊賀守屋鋪へ、
井上河内守屋敷へ、（大手下馬後口）
水野和泉守屋敷へ、（西丸下北之方）
加藤和泉守屋敷へ、（芝切通）
阿部豐後守屋敷へ、（日比谷之内）
戸田山城守屋敷へ、（小川町）
松平伯耆守屋敷へ、
小川町御用屋敷へ、
松平紀伊守屋敷へ、
本目讃岐守ト入替、

右申渡之。

十九日（○正德四年九月。）

殷昌期

大久保忠方（○忠方。）
秋元喬房（○喬房。）
水野忠之（○忠之。）
加藤嘉矩（○嘉矩。）

平岡資明
内藤左太
新庄直道
大久保清三郎

東京市史稿

森川出羽守元屋敷被下之。

廿五日〇正德四年九月。

一、御目付平岡市左衞門〇資明。小日向屋敷ト、内藤左太郎小川町屋鋪ト相對替。

一、新庄伊織〇直道。屋敷ト大久保清三郎駿河臺屋敷ト相對替。

——柳營日次記〇正德四錄同。

一、六日〇正德四年九月〇中略。

一、屋布替被仰付之。

大久保加賀守屋布へ、　井上河内守

秋元伊賀守屋布へ、　阿部豐後守

井上河内守屋布へ、　松平紀伊守

阿部豐後守屋布へ、　戸田山城守

加藤和泉守屋布へ、　水野和泉守

水野和泉守屋布へ、　森川出羽守

森川出羽守屋布へ、　松平伯耆守

右ノ通被仰付之。

「本目讃岐守屋布、

中根直次郎屋布、

一ツ橋御用屋布、

松平伯耆守屋布へ、

松平紀伊守屋布へ、

右之通被仰付之。

松平伯耆守資俊。〇初宗俊。初太郎三郎。太郎兵衞。安藝守。豐後守。

一、同年〇正德四年。九月六日屋敷替被仰付、於小川町、御用屋鋪并本目讃岐守中根直次郎上ケ屋鋪家作共被下置ゆ。

——寛政呈譜

信庸〇松平。

正德四甲午年九月六日、藪小路ノ館ヲ轉メ龍ノ口居宅賜フ。

——松平家譜〇藩山。

一、正德四年甲午九月六日西丸下秋元伊賀守樣御屋敷御拜領。同十二日御請取。十五日御移徙。十八日一橋御屋敷御渡。廿七日常盤橋井上河内守樣御跡御拜領。道三河岸。〇阿部正喬。〇

——公餘付錄

附記、一唯念寺領

〔附記、一〕　唯念寺領

淺草新寺町唯念寺ニ寺領ヲ寄セ、兼テ境内ニ添地ス。

三日〇正德四年九月。

今度新規之寺領百石被遊御寄附ゆ。并寺内狹ゆニ付ア、隣正定寺添被下之。且又裏之

淺草新寺町唯念寺

殷昌期

方成就院内も少々添被下之旨。

三日○正德四年九月○中略。淺草唯念寺清壽あらたに寺領百石をたまはり居地をもまし下さる。

——有章院殿御實紀

一、至心山觸光院唯念寺○略。中

當寺月光院樣御父叡壽院殿御母轉入院殿御菩提所ニ付有章院樣○德川家綱。御代正德四午年九月三日新規寺領百石、并境内添地被下置ハ旨被仰渡、同年十月十五日於御白書院御目見被仰付ハ。○略。中

一、御朱印正德四年九月三日新規寺領百石頂戴可仕旨被仰渡、享保三戌年十月廿日伊奈半左衞門殿ゟ鄕村帳面等引渡御座ハ。

——續府内備考

附記〔二〕町奉行所修理

〔附記〕〔二〕 町奉行所修理

十二日○正德四年九月。

金弐百兩。博本八千挺。

右御役屋敷修復料被下ハ。只今迄建家も多有之ハニ付、料簡有之、無益之場所減ハ、殘ハ分修復可被仕ハ。

同文言。

町奉行 松野壹岐守○助義。

坪内能登守○定鑑。

中山出雲守○時春。

——柳營日次記

附記〔三〕小川町和田倉用屋鋪廢止

十二日○正德四年九月○中略。町奉行松野壹岐守助義・坪内能登守定鑑・中山出雲守時春に、金二百兩博本八千挺給はり、官宅修理の料とせらる。

——有章院殿御實紀

〔附記〕〔三〕 小川町和田倉用屋鋪廢止

十三日○正德四年九月。

和田倉御用屋敷相止候ニ付、小普請入。

同御書院番へ歸番。

和田倉小石川(○小川町歟)御屋敷奉行 渡邊七郎兵衞

御書院木多主水組 同 渥美太郎八

御小性秋元隼人組 皆川宇右衞門

和田倉小川町御用屋敷奉行支配 松崎甚之丞

同心四十四人

右御用屋敷相止ハニ付、小普請へ入ハ。其段可被申聞ハ。

一、十三日○正德四年九月。小川町和田倉御用屋布相止ハニ付御免。

小普請入。 渡邊七郎兵衞。 渥美太郎八。

御書院番。 皆川宇右衞門。 松崎甚之丞。

——天享吾妻鑑○甘露雜同。

深川築地橋梁波除杭修理民營

廿日己未○正德四年(紀元二三七四年)九月○己未、三正綜覽。深川築地○市内深川區。ノ橋梁ノ内及波除杭修

深川築地橋梁波除杭修理民營事蹟

理ヲ民費負擔トス。○大成令。

深川築地橋梁波除杭修理民營 ハ、

正德四午年九月廿日

覺

一、深川築地之內橋、只今迄ハ不殘公儀より御修復有之ゆ得ども、今度吟味之上、彌御修復可龍成分、又ハ自今以後、向寄次第修復可仕分、相定ゆ間、武士方町方屋敷并抱屋敷所持之面々、可存其趣ゆ事。

一、同所海裏石垣外波除之亂杭只今迄ハ御入用ゐて申付ゆへとも、向後ハ武士方町方屋敷并抱屋敷付之分、亂杭流失ゆハヽ、其向寄より打ゑし可申ゆ。且又兼て心を付流失等無之樣可仕ゆ事。

右之趣武士方屋敷有之分へ、可被相達ゆ。町方ハ町奉行中より申渡ゆ。兩樣共ニ委細ハ町奉行へ承合ゆ上、むき〳〵へ可被相達ゆ。以上。九月○正德四年。

廿日○正德四年九月○中略。この日令せらるゝは、深川築地の橋、是までみな官費もて修理ありしが、こたびいよ〳〵官費たるべきと、又その地人はかり合せて修理すべきとを定めらる。よりて武家市井の宅地、あるは私に宅地買てもてるものら、この旨心得あるべし、同所海岸石壁外波除杭これまで官費もて命ぜられしが、この後は武家市井の宅も、私に買得しも、流しうせなば、そのほとり補ふべし、兼て流失せざるやう心付べしとなり。

——大成令

寛永錄ニ據レバ、深川獵師町橋梁ニ關シテ左ノ如ク傳フ。

——有章院殿御實紀

一、深川橋々御調有之、獵師町之內、御入用橋九ケ所、正德三巳年

獵師町地內九橋內譯

佐賀町　上橋長貳拾間。幅三間。

同　町　中橋長六間。幅三間。

同　町　下橋長拾壹間。幅三間。

右三橋共先年ハ元木置場ゟ懸來、元祿十二卯年築地分御入用橋。正德三巳年町御奉行所御懸りニ相成。

富吉町ゟ北川町ゟ　福島橋長七間。幅貳間。

右元祿十六未三月二日石川吉太夫殿御懸り御懸替。寶永四年亥八月十二日都筑權左衞殿御懸り御懸替。寶永六年丑八月原佐一右衞門殿御懸替。

黑江町ゟ中島町ゟ　八幡橋七間。二間。

右元祿十六年未三月三日石川吉太夫殿御掛御懸替。寶永四年亥八月九日都筑權左衞門殿御懸替。寶永六年丑八月原佐一右衞門殿御懸替。

大島町ゟ中島町ゟ　長七間。幅九尺。

右寶永二年酉二月中石川吉太夫殿御懸り御懸替。寶永六年丑八月中原佐一右衞門殿

御懸りニゐ御懸替。

黑江町　久中橋（幅長六間。九尺。）

右延寶六年申八月中長田五郎助殿御懸り御掛替有之い。天和二年戌十二月中類火ニゐ橋燒失。元祿二巳年御懸替有之。元祿十七年申二月中石川吉太夫殿御懸りニゐ御懸替。

（相川町中島町）間之橋（横長七間。九尺。）

右ゑ寛文元丑年岡田五郎助殿御懸りニゐ御掛替有之旨言傳之。其後寶永二酉年二月中石川吉太夫殿御懸りニゐ假橋懸渡同五子年六月十日都筑權左衞門殿御懸りニゐ橋臺石垣初ゐ御普請。同六丑年八月中原佐一右衞門殿御懸ニゐ掛直ニ相成。

（黑江町之内）黑江橋（幅長八間。三間。）

右ゑ正德四午年九月十八日中山出雲守様御内寄合に被召出向後町々向寄模合所入用ニゐ懸渡修復共可致旨被仰渡。

〔參考〕寛永錄前書後尾ニ左ノ文書ヲ載ス。

一、正德三年巳七月八日加藤武次右衞門殿此度町々橋々不殘町御奉行所ゟ御引渡ニ付橋懸りい年月役人衆委細書上明九日持參い様被仰付左之通書上出ス。

御入用橋書上

（八幡通り北川町）一、（富吉町）間之橋壹ケ所（長七間。横貳間。）

右ゑ五年巳前午八月中原佐一右衞門殿御懸りニゐ御掛替被遊被下い。

（八幡通り黑江町）一、（中島町）間之橋壹ケ所（長七間。横貳間。）

右同所。〇同斷歟。

（大川口）一、（中島町）間之橋壹ケ所（長七間。横九尺。）

右同所。〇同斷歟。

（大川口）一、（相川町中島町）間之橋壹ケ所（長七間。横九尺。）

右同所〇同斷歟。

一、黑江町中之橋壹ケ所（長六間。横九尺。）

是ハ元祿十七申年石川吉太夫殿御懸りニゐ御懸替被遊被下い。

右五ケ所御橋先年ゟ修復懸替共御公儀様御入用橋ニ紛無御座い。此度御改ニ付、書上仕い處相違無御座い。以上。

正德三年巳七月九日

（相川町名主）新兵衞
（富吉町名主）助十郎
（銀井町名主）利右衞門
（黑江町名主）助兵衞

御代官様

新錢鑄造

廿一日庚申（〇正德四年（紀元二三七四年）九月〇庚申三正綜寛。）幕府勘定奉行水野守美（〇伯耆守。）目付村殷昌期

瀬房矩（伊左衛門。）山岡景寛（助左衛門。）勘定吟味役杉岡能連（彌太郎。）萩原美雅（源左衛門。）ニ命ジテ、新錢ヲ鑄造セシム。廿二日辛酉（正德四年（紀元二三七四年）九月○辛酉、三正綜覽。）吳服商六人之ヲ引請ケ、龜戸錢座（市内城東區。）ニ之ヲ鑄ル。十二月廿二日丙寅（正德四年（紀元二三七四年）○丙寅、三正綜覽。）吳服町壹町目吳服會所（市内日本橋區。）ニ於テ、之ヲ發行ス。（柳營日次記。）

新錢鑄造事蹟

新錢鑄造　顚末左ノ如シ。

掛員任命ハ、

廿一日（正德四年九月。）　御勘定奉行水野伯耆守（守美。）山岡助右衛門（景寛。）萩原源左衛門（美雅。）

右新錢鑄立御用、被仰付之。（正德四錄同。）

廿五日（正德四年九月○中略。）　御目付村瀬伊左衛門（房矩。）御勘定吟味役（正德四錄御勘定組頭。）杉岡彌太郎（能連。）

新錢鑄立御用可相勤旨。

廿六日（正德五年八月。）　小山與右衛門　高倉孫三郎

右只今迄相勤ゆ新錢鑄立御用御免之旨、阿部豐後守被傳之。（町奉行勘定奉行吟味役ねむ、御目付方懸り御免ニ付彌可入レ念旨申渡。）

——柳營行次記

一、廿三日（正德四年九月○中略。）　御目付村瀬伊左衛門　同山岡助右衛門

一、錢座御用　御徒目付小宮與右衛門　高倉孫三郎

一、十五日（正德四年十月○中略。）

一、錢座御用　永井三郎右衛門　仙波七郎左衛門。

——天享吾妻鑑

廿一日（正德四年九月○中略。）勘定奉行水野伯耆守守美、自付村瀬伊左衛門房矩、山岡助左衛門景寛勘定吟味役杉岡彌太郎能連、萩原源左衛門美雅に、新錢鑄造の事命ぜらる。

——有章院殿御實紀

廿五日（正德四年九月○中略。）　新錢鑄立御用

右於燒火之間長門守申渡之。

十八日（正德四年十月○中略。）　御勘定石尾彦四郎　奈佐三左衛門　（小山與右衛門　高倉孫三郎）

右ゑ新錢鑄立御用於御右筆部屋緣頰豐後守（阿部正春。）申渡之。

殷昌期

廿六日〇正德五年八月〇中略。

右新錢御用懸御免之旨、於羽目間豐後守傳達。出羽守〇森川俊胤。侍座。　村瀨伊左衞門　山岡助右衞門

十八日〇正德五年九月。

新錢鑄立御用。

右於御右筆部屋緣頰豐後守申渡之。　御勘定祖父江作右衞門

——正德遺錄

吳服商引請　八、

覺

一、新錢座被仰付ゐ間、望之者ゑ來ル十二日兩日之內、御添奉行小野田左兵衞殿御宅ゑ被越、御注文寫之、同十五日入札敷金相添、右御宅ゑ持參ゐ樣ニ町中不殘可被相觸ゐ。以上。

五月七日〇正德四年。

町年寄三人

——正寶事錄

廿二日〇正德四年九月〇中略。此日吳服匠後藤縫殿助、茶屋四郎次郎、龜屋源太郎、三島吉之進、上柳平次郎、茶屋長曾に令せらるゝは、このたび寶永錢の法を以て、新錢鑄事命せらるゝにより、寬文の例にまかせられ、こたびも吳服商等にその事命ぜらる。鑄造の事は、有司に告て、指揮をうけつかふまつるべしとなり。

——有章院殿御實紀

廿二日〇正德四年九月。

御書付、

今度寬永錢之法を以て、新錢鑄ゐ樣ニ被仰出ゐニ就て、寬文之例ニ任せられ、六人之吳服師共へ被仰付ゐ間、新錢鑄出しゐ次第等、御用掛之面々へ委細相達し、差圖をうけ宜相勤者也。

午〇正德四年。九月廿二日

後藤縫殿助　茶屋四郎次郎
龜屋源太郎　三嶋吉之進
上柳平次郎　茶屋長曾

右ための間ニあ、老中列座、御勘定奉行并吟味役へ河內守〇井上正岑。達し之。

——柳營日次記

一、廿三日〇正德四年九月〇中略。

一、吳服師共錢座被仰付之。

後藤縫殿介　茶屋四郎次郎
龜屋源太郎　三嶋吉之助
上柳平次郎　茶屋長雪

——天享吾妻鑑

新錢發行　正德四年十二月廿二日ヨリ之ヲ發行ス。

廿二日〇正德四年十二月。

阿部豐後守〇喬。正被二相渡一御書付之趣、

新錢出來いゐ付ゐ、來ル廿二より吳服町壹町目吳服師會所ゑて賣出ゐくいゐ。武家并町方望次第賣渡いゐ筈ニいゐ。但當年無二餘日一錢數多出來合不レ申いゐニ付、小形金壹分ゑ壹兩まその間を賣わゑをへくいゐ。金之事ハ新金又ハ小形金勝手次第用ひらるへくいゐもの也。

——柳營日次記〇正德四錄同。

十二月〇正德四年。

覺

新錢出來いゐ付ゐ、明廿二日ゑ吳服町壹丁目吳服師會所ゑ可二賣渡一いゐ。〇中略。上ニ同ジ。右之通被二仰付一いゐ間、町中裏々迄不レ殘早々可レ被二相觸一いゐ。以上。

町年寄　三人

十二月廿一日〇正德四年。

——正寶事錄

龜戸村〇中略。

錢座蹟〇略。上古今泉貨鑑ト云書ニ、龜戸村ニテ鑄錢アリシハ、元祿十年ヨリ寶永元年マテ、又同五年ヨリ正德二年マテ、同四年ヨリ享保三年マテ、元文三年、明和二年、同五年ト載セタレド、夫ヨル前寛文十一年施行ノ江戸圖ニ、當所ニ錢座ト書アレハ、元祿以後ニ始リシト云ハ誤レリ。廢セラレシハ、安永二年ト云。

——新編武藏風土記稿

〔參考〕吹塵錄ニ、

手覺之儘奉レ入二御覽一いゐ書付

一、寛文元丑年龜戸ニ於て、吳服所之內重立いゐ者六人、鑄錢引請、拾三箇年間文錢吹上有レ之。

一、元祿十四午年紀伊國屋文右衛門鑄錢引請、寶永通寶、裏ニ世用永久之文字有レ之十文之大錢、龜戸前同所に於て吹立有レ之、又寶永五子年丸屋三郎左衛門、樋口善兵衛引請鑄錢有レ之。

一、正德四午年、龜戸同所ニ於テ、吳服所六人之者引請、鑄錢有レ之。

一、享保年中、深川拾萬坪鑄錢有レ之。同年大坂并仙臺南部ニゐ鑄錢有レ之由、引請之ものハ不二相知一。

一、元文年中、左之通鑄錢有レ之。

龜戸　三木彦右衛門。

拾萬坪　井筒屋五郎左衛門。橋本平七。千田庄兵衛。丹波屋五郎兵衛。

小梅　野州屋。南部屋。但、名不二相知一。

三十三間堂　鼠屋。但、同斷。

京都　長島屋忠七。

野州足尾　橋本平七。千田庄兵衛。丹波屋五郎兵衛。

大坂高津浦口。紀州　秋田　日光　甲州　佐州。

但、此分引請等不相知（地所不相知。）

右之通御座い。以上。

申五月

根津權現社祭禮

廿二日辛巳（○正德四年（紀元二三七四年）九月○辛巳、三正綜覽。）根津權現社（○市內本鄕區。）祭禮有リ。將軍家繼川。（○德川。）吹上上覽所（○市內麴町區。）ニ臨ミテ之ヲ覽ル。（○柳營日次記。正德四錄。間部日記。撰要。永久錄。續府內備考。武江年表。天享吾妻鑑。有章院殿御實紀。武州豐島郡駒込村古來傳聞記。）

後藤庄三郎役人　山本運八郎

根津權現社祭禮事蹟

根津權現社祭禮　根津權現社祭禮ハ、將軍家宣（○德川。）正德二年ニ計畫有リタル者トス。

十五日（○正德二年六月○中略。）

右之今度根津權現祭禮被仰出い間、右御用被仰付之。

右之段別當神主へも達書付如左、對馬守へ渡。

寺社奉行　松平對馬守（○禎近。）

町奉行　松野壹岐守（○助義。）

御勘定奉行　中山出雲守（○時春。）

根津神社

市內本鄕區根津須賀町現存スル所ノ者。

京都

（徳川家康）　長島屋忠七。

野州足尾　橋本平七、千田庄兵衛、丹波屋五郎兵衛。

大坂（高麗橋口）　紀州　秋田　日光　甲州　佐州。

但此分引請等不相知。

右之通御座候以上。

申五月

（徳川庄三郎役人）　山本運八郎

根津權現社祭禮

廿二日辛巳（○正德四年、紀元二三七四年、九月○辛巳、三正線覽。）根津權現社（○市內本郷區。）祭禮有り。將軍家繼川（○慈香寺殿。）吹上上覽所（○市內麴町區。）ニ臨ミテ之ヲ覽ル。（○柳營日次記。正德四錄。岡部日記。續豐島郡駒込村古來傳聞記。武州府內備考。武江年表。天享永久錄。）

根津權現社祭禮事蹟

根津權現社祭禮ハ將軍家宣（○德川）正德二年ニ計畫有リタル者トス。

十五日（○正德二年九月○中略）

右之今度根津權現祭禮被仰出ゆ間右御用被仰付之。

右之段別當神主へも達書付如左對馬守へ渡。

（寺社奉行）　松平對馬守（○乘祐。）

（町奉行）　松野壹岐守（○助義。）

（勘定奉行）　中山出雲守（○時春。）

根津權現祭禮之儀被仰出ゆ。支度出來次第、來年九月よりも可被申付ゆ間、其旨住心院伊吹左門へ可被申渡ゆ。

——柳營日次記

十五日〇正德二年六月。根津權現祭禮行ふべしと仰出され、寺社奉行松平對馬守近禎、町奉行松野壹岐守助義勘定奉行中山出雲守時春、其事奉はるべしと令せらる。

——文昭院殿御實紀

根津權現祭禮被仰出

正德二辰年九月十六日喜多村彦右衞門殿ニ〆、此度根津權現御祭禮被仰付ゆ。依之山王明神御祭禮出し不申町々ゟ被仰付ゆ間、其旨相心得、町人共ゟ申聞、絲り物いか樣之物差出可申旨、二色宛書付、差出可申旨被申渡ゆ。

組合町々　南鞘町。南塗師町。松川町壹丁目貳丁目。鈴木町。因幡町。

同月十八日〇正德二年九月。因幡町も相加り申度旨願ゆニ付、都合六ケ町組合ニ相成ゆ。

南傳馬町む猿之出し出し可申旨、同月〇正德二年九月。廿二日帳面ニ認差出ス。南鞘町外五ケ町む、二色帳面ニ認、同月〇正德二年九月。廿三日差出ゆ。

覺

一、出し吹貫　壹本。

花籠太鼓打唐人裝束。

一、屋臺　拍子方八人。

殷昌期

西王母人形三ツいつきも金入装束。

一、警固　三拾人。

但、黒羽織着。

一、町人上下着　貳十人。供奴四十人。

右之通可仕哉奉窺ゆ。

一、出し吹貫　壹本。

上ゑ猿うつ不をそゝさせ作り、本ニ笹のかゞり物、太鼓打猿之装束。

一、屋臺　拍子方八人。

うつ不猿の狂言人形三ツ。

内

大名ゑ昆沙門。

猿引ハ鐘馗。

小猿ハ小鬼。

一、警固　貳拾人。

但、黒羽織着。

一、町人上下着　三十人。供奴六十人。

右兩様之内、何ゝニゟも被仰付次第奉願ゆ。以上

南塗師町月行事　十郎
南鞘町月行事　太右衛門
松川町月行事　玄賀
名主　新右衛門
鈴木町月行事　長兵衛
因幡町月行事　市郎兵衛
名主　源七

――撰要永久録

正徳二年辰九月

正徳二壬辰六月十六日ゑ、山王の御格式ゑ御祭禮○根津權現社。の義被仰付ゆよし。

同く十七日、當所の御代官清野與右衛門様より被仰渡ゆゑ、今度根津權現御祭禮の義被仰出ゆ、就夫、御社御裏門より本郷境木戸際まで道法相改ゆゑ、繪圖ゑゆいさし差上、勿論祭り出しゆハゝ、其由緒別紙ゑ書上可申旨、被仰付ゆゆへ、則御宮ゟ近邊道の程相改メ、繪圖ゑ仕立、同く廿日ゑ差上ゟ。但し、御裏門より本郷六丁目木戸際まで、十町十九間あり。別紙ゑ上ゟ。書付乃寫左ゑ記ル。

乍恐以書付申上ゆ

駒込片町名主年寄共申上ゆ。此度根津御社御近邊繪圖致し、差上可申旨、被仰付ゆゆニ付道程相改メ、繪圖仕立差上ゆ通相違無御座ゆ。右根津御社往古より駒込片町鎮守殿　昌　期

之御社ニゐ御座いニ付、右拙者共先祖之者共、右御社之御正體素盞烏尊之御宮殿、同御本地十一面觀世音藥師彌陀尊之後光臺座之御再興、并御厨子共ニ修補仕、差上來りいニ付、拙者共ニ至り、代々修補仕、差上申い間、先之御別當宥確之御代迄、右之通修補仕い。其上只今迄御庭祭禮ゝ申、隔年ニ相勤い儀も、拙者共勤初申い。

右之通、當町之儀、乍恐御氏子地ニゐ御座い間、只今之御祭禮、隔年ニ勤來り申い。以上。

正德二年辰六月廿一日

駒込片町名主八左衛門
年寄六右衛門印
同次郎左衛門
同利兵衛
同三左衛門
同勘兵衛

清野與右衛門様
清野半三郎様　御役所

右之書付、御勘定頭様ゐ御上ケ被成い由、御役所ゐて被仰い。依之別當殿迄御尋之節間違も有之いゐゑ如何ニい間、右之寫致し、如此書上い旨、案内申入置可然旨、名主八左衛門申之、則右之寫廿四日ゐ御別當ゐ六右衛門持參致し、御別當住心院僧正之御院代法泉院ゐ右之旨申達、則書留被成いニ付、罷歸ル也。

——武州豐島郡駒込村古來傳聞記

然ルニ家宣ハ是年（正德四年。）九月中旬ヨリ病ニ罹リ、十月十四日ヲ以テ薨シ、三年五月七日山王根津神田三社ノ祭禮執行年度ヲ定メテ、根津社祭禮ヲ午年（正德四年）執行ニ決ス。四年九月廿一日之ヲ執行セントシ、雨天ナルニ由リ廿二日之ヲ行フ。

廿二日（正德四年八月。）

御書付、

藤堂和泉守（高敏。）　榊原式部大輔（政邦。）
立花飛驒守（鑑任。）　松平長門守（前田利興。）
石川宗十郎（總慶。）

來月廿一日根津權現祭禮ニ付、山王權現祭禮之節、長柄神馬乘馬等被出い面々有之い間、此度右之衆中よりも、心々に長柄神馬乘馬等被差出い樣、家來呼寄可達い。

長柄七八十本程。
神馬乘馬共四十疋程。

——柳營日次記

一、廿一日（正德四年九月。中略。）

藤堂和泉守　榊原式部大輔
立花飛驒守　松平長門守
石川惣十郎

根津祭禮之節中合、長柄八十本馬四疋被差出候樣ニト、被申渡之。

一、右ニ付、町奉行ヨリ與力十騎同心三十人宛出シ候樣ニ被申渡之。

殷昌期

廿二日〇正德四年八月〇中略。來月廿一日は根津權現の祭祀なれば、そのとき長柄七八十本、神馬乘馬とも四十疋ばかり、各心にまかせて出すべしと、藤堂和泉守高敏、榊原式部大輔政邦、立花飛驒守鑑任、松平長門守利興、石川宗十郎總慶に仰下さる。

——有章院殿御實紀

言渡之覺

一、當九月廿一日〇正德四年。根津御祭禮練物番附札板、長七八寸、幅五六寸程、厚五六分、兩面けつ〻ゐ、壹組ゟ壹枚つゝ、來ル廿五日月行事持參可申ゐ。書付出來、廿九日ニ可相渡ゐ間、是又月行事請取ニ可參ゐ事。

八月廿三日〇正德四年。

右之通り喜多村ニあ月行事ゟ被申渡ゐ。

一、當九月廿一日〇正德四年。根津御祭禮有之間、練物之品々、幷人形之裝束、御供ニ罷出ゐもの共まで、御定之外、結構成衣類等用ゐ義、無用可仕ゐ。先達あ書上之外、練物出ゐ義、是又堅無用可仕事。

一、御祭禮御道筋之義、根津惣門ゟ下谷茅町通榊原式部大輔殿前、石川惣十郎殿屋敷西脇通りゟ、植村土佐守殿屋敷後護持院通り村上能登守殿屋敷前脇ゟ井上遠江守殿屋敷前ゟ元飯田町橋を渡り、飯田兩町側町屋通り田安御門ゟ入、竹橋御門を出、大手ゟ免くり、大腰懸之後より辰之口通り、土屋相摸守殿屋しき前より大名小路、松平土佐守殿屋敷北脇ゟ鍛冶橋御門ゟ出、南鍛冶町通りゟ通町、北ゟ日本橋ゟ土手根通り御旅所、夫ゟ日本橋を渡ゐゐゝ、直ニ通町筋達橋ゟ出、本多信濃守殿前ゟ上野通、石川惣十郎屋敷前ゟ下谷茅町通り、根津御本社。

一、右道筋ゟ掛りゐ町々、道橋木戸矢來等、惡敷所む修復可仕ゐ。尤其町々ゟ續キゐ横町ニあ此旨可相心得事。

右之通町中不殘入念可被相觸ゐ。以上。

八月廿八日〇正德四年。

町年寄　三人

覺

一、當九月廿一日〇正德四年。根津御祭禮ニ付、見物之者共行義猥無之樣、見物可仕ゐ。幷見物ニ參り所無之もの共む、神輿御通之道筋ゟ猥ニ罷出ゐ義、堅可爲無用。若相背者於有之む、御捕被成重あ御穿鑿可有之事。

一、御祭禮之節、道筋之町々人留之義む、山王御祭禮之格式ニ被仰付ゐ之間、御道筋横町ゟ通りゐ矢來之口馬乘物自由ニ通りゐ樣可申付ゐ。尤棧敷高懸申間敷事。

一、町中火之用心之義、御祭禮之內む、取分入念、無油斷可申付事。

午〇正德四年。九月

右奥書例之通ニあ、九月十三日樽屋殿ゟ御觸出し、同十五日連判帳ニ認メ、同所ゟ納。

午○正德四年。九月十七日喜多村ニあ名主月行事ニ被申渡、

一、當九月○正德四年。廿一日根津御祭禮練物繰出し之義、廿日夜八ツ時より上野仁王門前仲町通り永井播磨守殿屋敷角根津門前通り三ツ辻まそ榊出い間、其跡ゟ順々繰出し、元飯田町田安門前ニ明六時ニ參着相詰い樣被仰付い。先達あ相渡しい番附札面之通、段々相心得、廿日夜四時致出宅、右廣小路上野通本多信濃守殿屋敷前之內、相詰可申旨、被仰渡い間、町々名主月行事肝煎共、油斷不仕繰出し、與力衆同心衆差圖次第、間違無之樣可仕い。尤初あ之御祭禮ニあ有之間、御供ニ可罷出い警固屋體之役人共、急度申渡、前後猥ニ無之樣、別あ可申付旨、被御渡い間、此旨町中可被相心得い。以上。

——正寶事錄

午○正德四年。九月十六日

廿日○正德四年九月○中略。

根津祭禮、雨天ニ付明廿一日延引之旨、寺社奉行町奉行へ達之。

廿一日○正德四年九月○中略。

祭禮○根津權現社。延引たりといへ共、御初尾金三枚御進納、御目付鈴木伊兵衞持參之。

——柳營日次記

廿一日○正德四年九月。根津權現の祭祀なれば、目付して金三枚進薦せらるゝよべ雨ふりければ、祭祀をばのべらる。

——有章院殿御實紀

今日雨降い ニ付明日之御祭禮相延い。明廿一日之天氣晴い得とも、明廿二日祭禮有之い。其次も前日天氣晴次第、翌日〳〵御祭禮有之旨、被仰渡い間、其旨組合町々早々可申通い。以上。

九月廿日○正德四年。

○正德四年九月廿二日半陰半晴、及晡景快晴。

一、今日根津權現祭禮有之。但、昨廿一日可有之處、一昨廿日雨天ニ付あ延引及今日。

但、當年より初あ有之。

一、五時過祭禮上覽所ニ渡御。

一、月番之外、老中越前守○問部詮房。中務大輔○本多忠良。若年寄中御側衆兩人參上。其外御小性、御小納戸衆相越、何も服紗上下着用之。醫師衆も相詰。

但、山城守○戸田忠眞。雖爲服中、其構無之相越。神輿通い節ゟ、差控筈也。

一、寺社奉行大目付町奉行御目付も相詰。

一、祭禮ニ付、

一、一位樣ゟ

〈御檜重一組。

殷昌期

町年寄三人

——正寶事錄

鯛　一折。
月光院様ゟ
御檜重一組。
干鯛　一箱。
法心院様ゟ
御檜重一組。
蓮淨院様ゟ
同斷。
右之通御錠口より被進之。御目錄越前守請取之及披露。御使被下物ハ無之。
一、祭禮ニ付左之通御文使ニ而被進之。御目錄ニ不及。
養仙院様ゟ
御行器二荷。
一種　一荷。
松姫君様ゟ
同斷。
竹姫君様ゟ
同斷。

一、根津ゟ御初穂黃金三枚、昨廿一日御目付持參。
一、同所ゟ御初穂五百疋宛二通、御納戸ゟ大奥ゟ廻之。
但、此間女中衆より申來付ル也。
一、御三家より祭禮ニ付ル御檜重一組鯛一折充被獻之。　——間部日記
○正德四年九月廿三日四時過ゟ雨○中略。
一、根津祭禮今年初ル之ニ付ル、老中越前守中務大輔若年寄ゟ爲御祝義、御肴一折宛獻上之。　——間部日記
廿二日○正德四年九月。
根津權現當年初ル祭禮ニ付爲上覽吹上へ被爲成。右ニ付老若相越、御先へ越前守○間部詮房。中務大輔○本多忠良。御側衆井上遠江守○正長。青山備前守・北條對馬守・久貝因幡守相越。
辰中刻上覽所へ出御、寺社奉行松平石見守・町奉行松野壹岐守○近禎。大目付松平右見守○明教。稻葉多宮○正房。相詰。
○助義。御目付稻生次郎左衞門・鈴木伊兵衞・加藤右近助、永田彌左衞門。
神輿押。
同　柴田三左衞門組共。
御徒頭中山主水組
御弓頭松平權之助
御徒頭諏訪兵部組共。
同　菅沼圖書組共。
上覽所東西之方。
上覽所左右。
殷昌期

同所明地。

右之外勤仕ゆ。此外御徒目付御小人目付町奉行之與力同心勤之。

右ニ付左之通被献之。

御檜重一組 鯛一折ツヽ。

廿六日○正德四年九月。

寺社奉行 松平對馬守○近禎。　町奉行 松野壹岐守○助義。

御勘定奉行 中山出雲守○時春。　水野因幡守○忠順。

御三家

同 林藤四郎 組共。

根津權現祭禮初ゟ無滯上覽も被遊御機嫌ニ思召い。何ぎも前方より右之御用被仰付

——柳營日次記

——正德四錄

廿二日○正德四年九月。根津權現祭祀ニ付爲上覽吹上ゟ被爲成。

一、廿二日○正德四年九月。今日根津祭禮ニ付吹上上覽所へ御成。

右祭禮始テ上覽ニ付御三家ヨリ以使者御檜重一組鯛一折宛被差上之。

一、御用掛り

村瀨伊左衛門○房矩。　稲葉多宮○正房。　加藤右近○明敎。

廿二日○正德四年九月。

御檜重壹組。鯛一折。

——天享吾妻鑑

水戸中納言殿使者 鳥居瀨兵衛

同。

同。

右ゟ根津祭禮初ゟ被遊上覽ゆニ付指上之於躑躅間謁河内守。○井上正岑。

——正德遺錄

紀伊中納言殿使者 松平九郎左衛門

尾張中將殿使者 山村甚左衛門

廿二日○正德四年九月。根津の祭を吹上の御覽所にならせたまひて見給ふ。よて三家より檜重鮮鯛を献ず。この祭禮ことしを初とす。日本橋の邊に旅所を置れ、目付村瀨伊左衛門房矩稲葉多宮正房加藤右近明敎、この事つかさどり、町奉行よりは與力十騎同心三十人出し、藤堂和泉守高敏はじめ先に命ぜられし諸大名長柄井に人數馬等を出し、神輿をば、徒頭中山主水勝豐柴田三左衛門勝富組子ひきゐて護送す。ねりものは、府内の市井よりのこらず出すべき旨、兼てふれられしかば、各思ひ〳〵の作り物よそひ、府内ひきめぐること連日にいたりぬ。江府はじまりてよりこのかたいまだあらざる壯觀なりしが、この日かぎりにて絶たり。今も世に傳へて寶永祭といふはこの事なりとぞ。

——有章院殿御實紀

九月廿二日○正德四年。根津權現祭禮、江戸町中より練物出る。廿一日なりしが雨天成し故、今日に延たり。今年にはじまり、一年にして止たり。番數五十番、町數百五十四町なり。其時の番付は、曲亭漫筆といへる書に出たれば、こゝに略し、その道筋のみしるす。憑門より茅町通西川家脇神田明神、裏門通り元飯田町、田安御門を入り、竹橋を出、龍の口、大名小路鍛冶橋御門出、南かぢ町通りより通り町北へ、日本橋四日市土手通り御旅所、夫より日本橋渡り、通り町、筋通橋より上野通り石川家前茅町より本社へ歸興ありしとなん。

——武江年表

根津權現祭禮儀式

一、正德四午年二月御祭禮被仰出、同年九月執行、寺社御奉行松平對馬守殿諸事御掛。

一、神輿渡御之通筋、根津ゟ松平備後守中屋敷、茅町、七軒町、榊原式部大輔屋敷下通（池之端辻）、練物看板を掛、陣屋を構、先供押の□、町年寄手代練物を繰出ス。町人出ス練物、町與力廿騎、同心廿騎、雪より上野廣小路ゟ次第を屯し、祭日寅ノ上刻より牽出ス。板倉甲斐守石川惣十郎屋鋪裏門、湯島天神下、神田明神東門前、昌平橋太田備中守、三井甲斐守、松平伊豆守、松平對馬守、稲葉丹後守屋鋪前、神田御門通、護持院裏、小笠原右近將監屋敷裏通、飯田町前の橋より、田安御門上覽場より、竹橋、出平川御門、橋前大手へ掛り、御橋の上ゟ神輿居ル。（一二三宮に社家三人馬上ゟ下り、奉幣天下安全を祈。）夫より大下馬ヒ後ロ。久世大和守、松平紀伊守、龍の口を過き、土屋相模守屋鋪表門前、大名小路、松平土佐守屋敷を右、町奉行所前を左ゟ、鍛冶橋御門、河岸、鍛冶町壹町目二町目通町、四ケ市旅所ゟ神輿を入、善盡美をたくして神膳を献備ス。（旅所役人社家八木修理、祭服を着す。神膳ハ役ゟ依を青物町本材木町ゟ）奉る。則別當社僧法樂神主奉幣、天下太平常盤堅盤と祝ス。事終て神輿歸御。道筋日本橋ゟ通町、神田筋違橋御門、本多信濃守屋鋪、上野通り、石川惣十郎屋敷表門前、天神下七軒町、茅町宮永町を過根津ニ歸御。

一、祭禮當日廿二日、祭禮場所順見に御目付加藤右近、稲葉多宮□ノ下刻根津迄來ル。御徒目付成瀨又八、藤本權兵衞。

一、當日廿二日、田安御門の内ニ於て御目付加藤右近、稲葉多宮、鈴木伊兵衞、其外御徒目付、祭禮之式指圖有之、次第ニ上覽場ニ通ル。

一、先供警固、町與力十騎（麻上下、御用鎗）、同心一組（羽織袴）。

一、次、太鼓。（持人白張、着三人。）

一、次、御幣。（持人白張、着手代り外ニ壹人。）

一、次、榊。（持人白張、着三十人。町人、麻上下ニて警固。）

一、次、榊守護社家木戸主税。（衣冠乘馬、白張着六人、侍三人を供、）

一、次、山王社家千勝縫殿衣冠。（白張着六人、侍二人供。）

一、次、山王社家千勝數馬衣冠。（右同斷。）

一、小旗四拾本左右ニ（大傳馬町南傳馬町）兩町ゟ出ス。其外花出シ練物家臺等差出シ、町名左之通、

壹番　大傳馬町壹丁目貳町メ鹽町。

貳番　南傳馬町壹町目貳町目三町目。

三番　小傳馬町一町目貳町目三丁目上町下町。

四番　宮永町下谷七軒町天神切通町。

五番　本郷駒込淺香町同追分町。

六番　駒込片町。

七番　濱松町壹町目貳町目三町目。

八番　濱松町四丁目新網町同代地。

九番　宇田川町同横町神明町。
拾番　露月町芝居町。
拾壹番　芝口壹丁目東側同貳丁目。
拾貳番　芝口三町目源助町。
拾三番　兼房町備前町和泉町鍛冶町。
拾四番　伏見町善右衞門町久保町太左衞門町。
拾五番　南小田原町壹丁目貳丁目。
拾六番　南飯田町上柳原町南本郷町。
拾七番　船松町壹町目貳町目十軒町明石町。
拾八番　木挽町壹町目貳丁目三丁目四町目。
拾九番　木挽町五町目六町目七町目。
廿番　筑波町山城町喜左衞門町佐兵衞町寄合町。
廿壹番　惣十郎町內山町。
貳拾貳番　加賀町八官町。
貳拾三番　瀧山町森山町。
貳拾四番　鑓屋町勘左衞門屋敷休伯屋敷。
貳拾五番　尾張町壹町目元地裏川岸同貳丁目裏川岸。

貳拾六番　南八丁堀一町目二町目三町目五町目。
貳拾七番　靈巖島濱町同川口町深川中島町同北川町。
貳拾八番　本郷壹町目貳丁目。
貳拾九番　本郷三町目四町目。
三拾番　本郷五町目六町目。
三拾壹番　平右衞門町茅町壹町目同松永町。
三拾貳番　茅町貳丁目瓦町天王町。
三拾三番　淺草旅籠町壹町目貳丁目新旅籠町森田町。
三拾四番　馬喰町一町目貳丁目三丁目四丁目。
三拾五番　横山町壹丁目橋町四丁目。
三拾六番　横山町貳丁目三町目元柳原六町目。
三拾七番　村松町新和泉町北側彌兵衞町。
三拾八番　元大坂町甚左衞門町庄助屋敷長五郎屋敷。
三拾九番　鐵炮町龜井町神田九軒町。
四拾番　神田佐柄木町南佐柄木町。
四拾壹番　松田町上白壁町下白壁町。
四拾貳番　橋本町三町目四丁目岩本町江川町。

四拾三番　通旅籠町本濱町橋町壹丁目貳丁目三丁目。
四拾四番　神田紺屋町壹町目貳町目同横町三町目
四拾五番　神田塗町同四軒町龍閑町大和町。
四拾六番　松屋町幸町比々谷壹町目。
四拾七番　炭町金六町與作屋敷水谷町貳町目。
四拾八番　南槇町同會所道壽屋敷祐德屋敷正木町。
四拾九番　南塗町同鞘町松川町壹丁目貳丁目鈴木町因幡町。
五拾番　南鍛冶町壹町目貳丁目疊町。

從是神輿。

一、長柄五十筋一行。柳原式部大輔立花飛騨守、松平長門守、石川憲十郎より出ス。
一、次、獅子太鼓二ツ二行。持人八人。南傳馬町ゟ人足出ス。
一、次、獅子雌雄二頭二行。人足廿四人。南傳馬町ゟ出ス。
一、次、田樂四人二行。左右かつこさゝら。貳人ツゝ。南傳馬町ゟ出ス。
一、次、社家吉田將監。衣冠。獅子頭守。先供三人着。供六人青侍。馬上。
一、次、鉾三本。三座ノ次第和久ニ乘。一行、白張着。人足兩傳馬町出ス。
一、次、社家月岡主計。衣冠。神田社家。鉾ノ守護。供白張六人役町ゟ出ス。馬上。
一、次、社家早川監物。右同神田社家。

一、次、社家南寶讃岐。○右同斷。
一、次、御神馬三疋。飾馬。藤堂和泉守ゟ馬出ス。牽役人白張着。壹疋ニ四人宛。笛持白張着壹人宛。
一、次、馬上ノ布衣二騎二行。鈴木右近。杉山左内。
一、次、一之御宮御太刀。社家宮間駿河。衣冠、馬、供白張。
一、次、二之御宮御太刀。社家森村伊織。同、同、同、同、
一、次、三之御宮御太刀。社家中山大和。同、同、同、
一、次、一之宮先乘社家宮川靱負。衣冠。青侍。供白張着六人。先供三人。
一、次、猿田彦二人二行。鼻高面鳥甲着。牛臂、金入鉾。南傳馬町ゟ人歩出ス。
一、次、素襖四拾人二行。人歩大傳馬町出ス。
一、次、御幣。持人足大傳馬町出。
一、次、造兒壹人。大傳馬町ゟ出ス。
一、大拍子。持人足三人。白張着。大傳馬町ゟ出ス。
一、次、一ノ宮神輿。神輿舁五十人。白張着。人足右同斷。
一、次、御膳板持貳人、枕木持人四人。白張着。人足右同斷。
一、次、社家馬乘、布衣二行、新井肥後。近藤大和。
一、次、二ノ宮先乘社家島田大藏。衣冠。青侍。白張着、供六人、先供三人。
一、次、素襖三拾人二行。人足、下船町、同、横町、堀留町、堀江町ゟ出ス。

并町人上下着貳拾人。右之町ゟ出ス。

一、次太鼓持四人。白張着。人足右同斷。

一、次大拍子持二人。右同斷。右同斷。

一、次御幣持二人。右同斷。右同斷。

一、次作り兒壹人。人歩右同斷。

一、次二ノ宮神輿。神輿昇五拾人。白張着。人足右同斷。

一、次御膳板持人貳人、枕木持四人。白張着。右同斷。

一、次社家馬乘二行、松永藤太夫、林和泉。

一、次三ノ宮先乘社家津守日向。衣冠、供六人、白張着。青侍。佃田處住吉神主ゟ出ス。

一、次素襖三拾人二行。人歩南傳馬町ゟ出ス。

一、次御幣持二人。白張着。右同斷。

一、次造兒壹人。右同斷。

一、次大拍子持三人。白張着。右同斷。

一、次三ノ宮神輿。神輿昇五拾人。右同斷。

一、次枕木持四人、御膳板持二人。白張着。人歩右同斷。

一、次社家馬乘布衣二行。神崎多宮、柳田繁喜。

一、次押社家外記。衣冠。馬上供。白張着六人。青侍先供三人。

一、社家秋元民部、茂木佐渡、神保宮内、山邊式部。各布衣。一行列に。

一、次馬上法師武者拾人。鎧ノ上白素絹白キ袈裟ニて頭を包ミ、馬口取香筥持三人宛、白張着。

後是別當供奉。

一、門前名主麻上下着。左右手代兩人。挾筥持、草履取、床控持、先供青侍三人三行。門前町役ニゟ出ス。

一、次白張着貳拾人二行。神領百姓役。

一、次素襖貳拾人二行。右同斷。

一、次小結拾人二行。

一、次大童子二人二行。太日帶。中啓持。

一、次中童子二人二行。中啓持。天冠着。

一、次小童子壹人。天冠被。中啓ヲ持。

一、次祝僧箱持二人。左右白素絹ヲ着。

一、次別當。手輿乘。輿昇拾六人。十德着。左右ニ布衣六人。手輿跡ニ、柳筥持壹人、退紅着。暈持壹人、袋入退紅着。草履取壹人、同斷。

從是神主供奉。

一、青侍三人三行。麻上下着。門前町役ニ出ス。

一、次白張着貳拾人二行。神領百姓役ニ出ス。

一、次素襖貳拾人二行。右同斷。

一、次、神主、轅、轅舁拾六人、十徳着。左右ニ布衣六人、内、暈袋入壹人、草履取壹人、對挾筥持二人。各白張着。

一、次、長柄鎗三拾本。藤堂和泉守出ス。

一、次、押警固町與力拾騎麻上下。同心羽織袴。御用鎗。

一、次、御徒頭柴田三左衞門・永田彌左衞門二騎、并兩組之御徒衆不レ殘、四ヶ市御旅所より根津迄神輿送り歸御之事。

一、根津神領百姓同門前町町人役ヨ依テ、神輿一基ヨ三人宛、麻上下、大小を着、三社左右ヨ別々に供奉ス。大傳馬町・南傳馬町・下船町・堀留町・同横町・堀江町町人共左右ヨ夫〳〵麻上下ニテ警固ス。

右之正徳年中御祭禮儀式之舊記抜書ニ御座い。

——續府内備考

覺

一、小籏貳拾本　貳十人。

一、吹貫壹本、但、たし猿。　牛車。牛貳疋。

一、吹貫綱引役人共　三十人。

内、貳人唐人出立。

一、警固　貳十人。

一、町人上下着御供　四十人。

一、同供之者。　八拾人。

右之通、根津御祭禮出し可レ申旨被仰渡、奉レ畏い。以上。

正徳四年午五月

月行事　南傳馬町　喜右衞門
同　杢兵衞
同　兵左衞門
名主　計
同　新右衞門
同　善右衞門

右之通帳面ニ認、五月十日〇正徳四年。喜多村彦右衞門殿ヷ差出ス。

覺

一、ゑし吹貫花籠太鼓打唐人裝束　壹本。

一、やたい、西王母人形三ツ何ぎも金入裝束　拍子方八人。

一、警固　但、黑羽織着。　三十人。

一、町人上下着。　貳十人。供奴士四十人。

根津御祭禮練物兩品書上申い内、右之通練物仕立出しい樣ニ被仰渡奉レ畏い。以上。

南塗師町月行事　作十郎
南鞘町同　太右衞門

正徳四年午五月

殷昌期

同年九月廿一日御祭禮無滯相濟ゐ。

同年九月。正德四 廿四日

右之根津御祭禮ニ出ゐ町々ゟ配符ニ付、今日罷出ゐ所、當廿二日根津御祭禮首尾能相渡り、何ぞ義練物等出來ゐ、御滿足ニ被爲思召ゐ旨、松野壹岐守樣被仰渡ゐ間、此段町人共ゟ申聞爲悦ゐ樣被申渡ゐ。

松川町同 玄賀

名主 新右衛門

因幡町月行持 市郎兵衛

鈴木町同 長兵衛

名主 源七

——撰要永久錄

〔參考〕 根津社古傳說

抑今いふ駒込と申ス所、そのゝミヱれるさ山とて林也。此むやしゝ乃うち根津大權現乃宮立ある所を、素盞烏の森とれゝしと也。むゝしゝ爲まとゞけのミこと此林へ駒茂あつ免給ひ、木々り繫せゞきしゝ、みこと御覽ありそ、駒こミゝさりゞみこととのりありしより、れるさ山をあゞさ免そ駒込林とれゝゝゝるゞ、末に至り此所を田ゝ耕し畠りくさきりそ、人〳〵の住とこ孤とゞせしより、駒込村と名つゝゝゝ。今駒込の名あるとこ孤ゝ皆れるさ山の跡ゞり。やまと爲けのみこゞ其ころれるさ乃森り鷺むゞゞ

り爲とゞるを御覽ゞりそみこととのり給ふ。

鉾双止草示、素盞烏乃林乃將鷺獨者不寐與競示皃。

是ゝやまとゝけのみことむしひ免と申に御ゞゝをこひゝのバせ給ひそ、斯ミこととのりありしと申傳へ爲るゞり。

れゝゝさの森根津大權現乃御社御神躰ゝ、素盞烏の尊ゝて、御本地ゝ十一面觀世音菩薩と崇め奉ゝゝれつ頃の勸請といふ事茂ゞゝに。素盞烏乃尊根乃國より皇祚延長國豐民安茂守ゞんと此土へ現ゞ給へば、根乃神と申にこゝ孤りそ、根津權現と崇免奉ゝゝゝりと申傳へ侍る。又素盞烏山と申にゝ、根津乃宮林りてある爲し。素盞烏山と書ゝる故ゞりと申ゝさへ爲る。昔太田道灌入道持資といふ人、此林り入て、船板乃さめり楠乃大木を尋絲得給ひそ、杣人を入そ伐せ給ふゝ、怪我あやまちし氣を失ふそのゝ多ゞりゝゝゞとも、何乃こゝ孤もゞゞく大勢の人夫を懸そ、終日伐せゞきけるり、其夜のうちに木の切口もとの如くゝ愈合そ、あゞゞゝ小疵も見へさりゝゞ。道灌是茂見給ひ、不思議ゝおぼし召、神木さる爲きむ絲茂察し給ひ、林の中茂尋絲ゞゝゝり荒さる社ありゞ。ゝゝひ殿と見へしゝ、土民乃馬繫場とゞり馬糞山乃如く積ゞり、道灌是そと奥りいさり、社壇ゝ前ゝ蹲踞再拜し給ひ、神慮茂ゞさ免奉ゞゞ、御宮造營し給ふ爲き御祈願ありて、ゞ乃神木茂乞うゝゝ給ひ、ゞゝろうして後ゝくゞん乃楠を伐ゞゞゝるり、何の障ゞもゞく伐おゝせ、船を作ゞせ給ふとゞり。其楠乃切口差渡し二間ゝ餘りれると

申たさふ。太田持資入道道灌このとた右の祈願感就して、御宮造營し給ふなり。今千駄木といふところもこの林のうちにて、御薪山に成りしよりの名也と云へり。此造營の後百九拾餘歳を經て、萬治の頃、根津の社地御手洗ともに、太田備中守道顯入道殿御下屋鋪の内に入、其代地三崎といふ所へ行道の坂の下口左りの方野道の右角へ出し、此ところへ御宮を移し奉る。このところそののち又本鄕麟祥院隱居所に成りし故、則その鄰へ代地出て、御迁宮ありし也。しかるに其頃備中守殿御やしたへ社地を入、御手洗を泉水に用ひ、御なし候の跡へ遊山所を建給ひしに、不思議やたちまち火燃出て燒失ひたり。そのうへ道顯殿ふした乃靈夢の告有しかば、驚たおそきて、かの宮地の跡へ元のごとく根津のなしろを建給ふ。その社今に絕にあり。其靈夢の樣は、子孫までなゝ候へしとの御事也とぞ申たさへしなり。

右の所替のとたまで、御社に別當といふ事もなかりしに、駒込村きりひらきさる百姓の中に、青木六右衛門行安禪門、古老のものなれば世話して每年二月ごとに赤飯やうのものを調へ、神前に備へ奉り、參詣の氏子に戴かせるを以て祭りとしたりたるに、御宮所替あるべた年の五月五日、節句の事なれば、いつもの如く氏神參りせべしとて、岡田五郎兵衛・野口次郎左衛門・山下八左衛門・青木六右衛門うち連、御やし候へ參詣せしに、皆〳〵何となくらんものすごくさむ氣さちありけるに、なゝ凉したりてそとおもひ社壇を見れば、白た小蛇いつこより來るともなく御宮の雁木のうへにもさのはり、外へ頭を向屢々舌を出し居たり。皆々是を見てとひとしく、身の氣さち、何處ともなくおそれしくなりしかは、奇異のおもひをなし急いで歸りぬ。道すがら申せしは、倩々たそふるに、湯殿山立山等の山〳〵嶽〳〵にても、奥の院のことは秘して人に語らに、然るに今拜み奉候は眞しく御神靈にて坐にべし、さあらば我等ごときの賤しきものども乃不淨の口を以てとり沙汰すべき事にあるべからに、おして穢し奉らば如何なる御とがめもあづからん事計りがたし、必に口外に出す事はなかれと戒しめ、堅く申合せける。六右衛門申すやう、御神靈の現れ玉はしまに事は外のことにてある可らず、我等俗人不淨の身を以て御供など備へ、兎角穢なしさる別當のなきゆへ、御神靈あらはれさせ給ふと思ひ合されたり、此うへは別當を附きあるべし、されば山臥と申ても不淨のものなればよき出家をたのむべしと申合せ、目のあたりにこは本鄉四丁目藥師別當昌泉院然るべからんとて、同した十五日に六右衛門參りて昌泉院に對面し、右の次第を賴みけるに、よろこび請ひ給ふにより、則來る二十一日に御社へ御出あるべしと申合せて歸りぬ。さて皆〳〵へ申にやう、二十一日には件んの御神靈拜ませる樣子別當殿へ申明し然るべからん、一つには別當の義なり、二つには宮たとめ麁略なきためなれば、夫にたき皆々十九日より二十一日まで垢離精進すべしとて、合、程なく二十一日になりしかば、昌泉院清英法印御社へ來られけるあいだ、皆々待うけ一禮をおはり、其うへにて御神靈を

拜ミ奉りし事皆一同ゐ申演しとこ孤り、清英聞給ひ、大きゐ感心しそ、深く貴敬の色見へし。さそい色々神前茂莊嚴し、修法勤經丹誠茂ぬきんで給ひ、別當ゐかり給ふ。

右い寛文年中根津御社御縁記あまきたるとたゐ、青木六右衞門行安居士、則別當清英法印をづ紜給ふりより、古來乃聞傳へ申演さる趣きかり。

別當清英乃のさまいく、我別當りかりつるうへゑ、神靈茂拜まれさせ給へと、誠情茂抽んで祈しあい、神靈白たゐ小蛇と現し、宮ゐ柱茂あらみ拜まれさせ給ふりより、我ことば茂發しそ靈驗貴たゐ事疑ひなし、猶〳〵衆生ゐ紜おひをかなへ、愛民納受茂ゑきたまへ鳴呼尊し〳〵、本居り歸居ゑましませと、感乃餘りゐ眼茂閉ゑきば、その間ゐゐづくともうせ給ひしとなり。

又曰、伊賀伊勢乃大守藤堂和泉守高久殿、一とせ九死一生乃病惱ゐそ異癘以乃外ゐて、諸〳〵の名醫その術茂失ひしゐ依て、清英法印へ御祈禱乃驗茂御賴ありゐる間、清英一つ乃意願發し異癘本復し給いゝ、則高久殿氏子ゐおし、大般若經六百卷おさめ奉ゐ度し、此願望成就をべくんば、神靈茂あらいし給へと丹心ゐ祈をゑきば、むさして神靈茂拜し、高久殿御病氣ゐちまちゐ平復に。是ゐよりそ根津へ祈願乃おもむたゐ述ゐれば、高久殿仰せゐゑ奉納乃義ゑいふゐ及いに、氏子乃事我壹人ゐ限る度あらず、江戸屋敷并ニ在國乃家臣殘らに氏子さるべしを御約束ありそ、一チ〳〵御願滿給ふと也。

根津所替ゐとたゐ御神體からびり三社乃御本地佛以上四つ乃厨子り入、駒込片町年寄役の者共別當昌泉院ゐをとへ、もり行奉り、此序茂もつそ拜み奉ゐ。

根津大權現御神體素盞烏尊（廊の類の切ゐて幾重もつゝみ、孝のやうなるものゐて卷付をあり。）

根津御本地佛十一面觀音菩薩（御長九寸、彩色はげ木地なり。定朝の御作、輪光後ゐ鏡あり、周雲のほり物。）

左脇山王大權現御本地藥師如來（御長五寸五分、座像、蓮華作り付、定朝の御作、輪光さいたきはげ白くなる。）

右脇八幡大菩薩御本地阿彌陀如來（御丈八寸、立像、籠惡心の御作。）

右ゐ通りおゐみ奉ゐ。殊乃外古びそこ紜ましゐに故ゐ、再興をべきむ紜申あいせ、遂り六七年茂をたそ再興し奉ゐ。おそれ多たゐよりそ御身ゐゑ手をつけ申さに、後光臺坐并ニ御厩子むゐりを修補し奉り、則厨子ゐ御戸びらゐ年寄役のそのども銘々の名をまるす。終りゐ寛文三癸卯年二月吉日再興清英代と書記せり。このとたゐ清英縁起茂記し給ふ。

明暦年中御やし孫御遷座ありし年、六右衞門行安清英法印へ申をやう、御神ゐさ免乃さめゐゑ、神樂茂奏し湯花を献し奉ゐ度しとて、則行安禪門神田明神の社家乃内月岡五もより御神樂御湯花茂献し奉ゐ度し然ゐべらん、今よりのち乃御神叟ゑ、所の者ど左衞門り對面して、神樂湯立の事をゑのミしゐ、太夫と申巫壹人からびゐ社人五人茂連來、我身ともゐゑ七人ゐて根津の舞殿りおゐて十二座のかぐら茂奏し、御湯立茂献したてまつる。是より毎年春ことりおこをゐ事かく、清英より四代目乃御別當

宥雄の御代寶永三戌の二月まで相はたゝ先しの就御造營内所りて致しかゝし堂御別當のゝまふ故やゝぬ。御庭はつりとて、氏子殘催ふし、御神寔はとめゝる事を、右御湯立乃むじ免、毎年駒込片町乃そのどものみはとめゝりしの寶永三戌年御宮御造營ありし明はゝ亥の九月二十一日、駒込片町乃外の氏子もはつり殘出しゐり。是より以後隔年りする也。

元祿十六年末り從甲府様御宮造營あり。同く九月五日り御遷座有しかり。これゑ御歳四十二乃御厄除御祈禱乃御爲なりと風聞ありし也。

同く十元祿六年。九月中別當宥雄仰せらはゝゑ、今度御供所建中にゐはき、少く臺所のやうなる事をも付申ゝたよし御祿ぢひありしゐはたゝ名主八左衛門・年寄六右衛門・次郎左衛門・三右衛門・利兵衛・勘兵衛申あいせ、御手傳いゝし、是殘造はゝ。則宥雄の御師匠

同年十元祿六年。九月根津御社御神體素盞尊乃御厨子白木乃御宮殿、

右高サ一尺、前幅六寸、奥行四寸、但し正面ニ鏡あり。此うし孫へ三寸ゐどのきもぬ作り、てふつぢひいさうゐゐ物金めつきなり。ゑび錠。

根津御本地十一面觀音は御厨子後光臺座。

山王御本地藥師如來は御厨子後光臺座。

八幡御本地阿彌陀如來の御厨子後光臺座、

右御厨子、各來迎柱組物ぬはを入レ、ゐりそ乃金箔さゐしき、上中下八さうかかもの打、ゑび錠ともり。

右乃通り修補し奉り、則御厨子戸びらの裏ゐ、

武州江府豐島郡駒込惣鎮守　根津大權現御神體

元祿十六年辛未歳九月昌泉院宥雄代

前之再興者寛文三癸卯清英代

施主

山下八左衛門

青木六右衛門印

野口次郎左衛門

岡田三左衛門

奥田利兵衛

岡田權兵衛

右御厨子ノ筆者武州ノ二字ハ青木六右衛門書之。二三年以來手震ヒ候ニ付、殘ル文字ハ岡田三左衛門書之。

三社御本地佛之御厨子扉裏書付同前各記之。

右岡本權兵衛儀、此ノ度何角働キ致シ、其上金一兩出シ、皎月院ヲ以テ施主入リノ願ヒ有之ニ付、右ノ通リ加入ス。

寶永元申歳甲府様被爲成御養君、同十二月五日西之御丸ゑ被爲成入御候。同二年乙酉四月御宮御造營之儀被仰出、社地之儀若君様元御殿跡ゑ被仰付、御普請惣御奉行

若御老中稲垣對馬守様承之由、是ゟよりそ同く二十八日ゟ御祝儀として、

御神酒柳樽一荷。

御初尾青銅壹貫文。

右八左衛門、六右衛門、次郎左衛門、三左衛門、利兵衛勘兵衛、御供所へ持參、をかハち皎月院まそ是を上ゟ。

御普請御手傳淺野土佐守様、又藤堂備前守様、又御門前町屋ゟ成り候所地形築立、毛利飛驒守様、同く五月朔日御釿始、同三日御鍬始、同三年戌ノ十一月晦日御棟上、同十二月三日の子の刻御辻宮。

右五月三日御上棟の時、地鎮乃御祈禱あり、大般若經轉讀則ち御經を社地の隅に埋む。

寶永三戌年根津五百石被仰付、伊奈半左衛門様御代官所武州足立郡飯塚村極月田村彌兵衛新田上新田高六百三拾石、内三拾石ゑ込高也。右御知行高被仰渡ゑ五百石ニ成、如此六百三拾石之御帳面、伊奈半左衛門様ゟ別當宥雄に渡る。其節宥雄ゟ御願有しい、年貢取立之樣子、當分不知案内ニい間、當年ゑ其元御役人衆に被仰付、御心入を以御取立被下い得之由申上ふゟ。是ハ六右衛門其先年伊奈半左衛門様子御聞被成度由ニて、被相招御對談申ハゟ依て也。願之旨、尤之由ニ付、則其所之百姓共半左衛門様に被召呼、御吟味之上、又右之高ゟ御加入七百石之高五百石之積りニ收可申旨被仰付、則右之場所相渡り候由也。

同年三〇寶永年。十一月昌泉院宥雄當戌ニ二十歳ゟしそ若年ゟきい、右御宮之御別當之格式權僧正之昇進成り難きゟよりそ、東叡山より別當上させらはゝ旨被仰付、則富士別當本郷四丁目心光寺住寺ニ被仰付、同月〇寶永三年十一月。二十一日東叡山御院家之よし住心院權僧正於御城、右別當ニ被仰付ハよし。同〇寶永三年。十七日ニ御宮請取有りと也。

同〇寶永三年。十二月十五日ゟ名主年寄共御祝儀之目錄上、如左。

奉獻

御最華青鳥二十眼

名主　駒込片町　山下八左衛門

年寄　青木六右衛門

同　野口次郎左衛門

同　岡田三左衛門

同　奥田利兵衛

岡本權兵衛

當御社御氏子地駒込片町ニ、拙者共儀代々住居仕候、依之年恐前廉御宮御正體并御宮殿三社御本地佛御厨子等、拙者共先祖之者奉寄附、最御再興之儀、拙者共代々奉修補指上、其外御庭祭禮等迄古來無怠慢勤來候者共而御座候。年恐此度御造營之御儀ニ付、目錄之通奉獻候。

右之通持參、御院代セイシヤウ院に懸御目、罷り歸る。

右目錄之内ハ岡本權兵衛茂加ハる事ゑ、再興之施主ゑるゆへ、山下勘兵衛ゑ施主ゑて無之といへども、年寄仲間なるゆへ加之。

——武州豐島郡駒込村古來傳聞記

大久保忠方等屋鋪受領

十月十五日癸未○正德四年(紀元二三七四年)○癸未、三正綜覽。小田原○相模國。城主大久保忠方○加賀守。小川町邸○市内神田區。ヲ賜フ。外ニ是日○正德四年(紀元二三七四年)十月。預地ヲ爲シタル者有リ。○屋敷書拔。

大久保忠方等屋鋪受領事蹟

大久保忠方等屋鋪受領事蹟　屋敷書拔ニ據ル。

正德四甲午年

十月十五日渡。松平伯耆守上屋敷之内

一、同所○小川町。七千貳百八拾八坪九合

一、木ニ但建家立具疊長屋土藏植木石共。十月十五日頂。岡部甚之助上ケ地

一、青山宿貳百九拾四坪

○一木抹消。

十月廿一日頂ケ。小菅藤兵衛上ケ地

一、三田元御屋敷六拾坪

大久保加賀守○忠方。

大島肥前守組小普請比留勘右衛門○政武。

酒井式部組新御番神谷清三郎○福藝。預地。

伊藤刑部左衛門支配二丸火之番宇田川幾右衛門

大草善三郎支配與御小人上野八郎兵衛預地。

屋鋪受授

十一月朔日己亥○正德四年(紀元二三七四年)○己亥、三正綜覽。屋鋪受授有リ。外ニ若干屋鋪是月○正德四年(紀元二三七四年)。受授ス。○屋敷書拔。

屋鋪受授　正德四年十一月屋鋪ノ受授ヲ見タル者左ノ如シ。

正德四甲午年

十一月朔日渡。元御厩伴藤右衛門御役屋敷上ケ地之内

一、赤坂御門内三百坪宛

一、木ニ建家立具疊長屋植木共。

但、兩人御役宅ニ渡ス

十一月朔日頂。元御厩伴藤右衛門御役屋敷上ケ地御殿

一、赤坂御門内貳百拾八坪

○一木ニ木書無之寫ニテ書拔。

十一月九日頂。長屋跡松木正貞上ケ地

一、權田原元御屋敷之内拾六坪

十一月十七日預。明地御殿

一、番町六拾六坪

○一木ニ木書無之寫ニテ御書拔。

十一月廿九日渡。元御厩附庇

一、權田原元御屋敷内四坪五合

○一木抹消。

但、御借渡。

十一月廿三日預。五兵衛上ケ御長屋

一、三田元御屋敷之内三坪

○一木抹消。

紅葉山十四日御靈屋附玄甫　飯塚

同　岩波清達

紅葉山十四日御靈屋附玄甫　飯塚

同　岩波清達預地。

御小間使杉浦平次郎

仕丁之者塚本平藏

西丸火之番松野七九郎

役名不知佐々與左衛門預地。○實政

法心院樣附玉田忠四郎支配小野利左衛門

御數寄屋御廷方村田惠齋支配萩新六郎預地。

——屋敷書拔

飯塚玄甫

岩波清達

杉浦平次郎

塚本平藏

松野七九郎

佐々實政

小野利左

萩新六郎

附記　新金銀貨ニ關スル諭達

〔附記〕　新金銀貨ニ關スル諭達

去頃新金銀通用之法被仰出、數通之御書付を出さゝ、就中諸國兩替を業としい輩ニて別ゑ之御書付有之い所、商人等みゑりニ新金銀之品を評論し、兩替之增歩を望、剩

武家ニおゐて新金銀を不被用ハ故世之通行相滯由申なしハ事等其風聞ハ急度御穿鑿を遂らき其御沙汰可有之事ニハたいへとも當時御法事打續赦宥之御沙汰茂有之就ゐ暫ク其事ニ不及ハ此後ニ至ゐて寂初御書付之次第ニ違背しハ事有之ニおゐてハ其罪を正さき重犯之科行むるゐき事ニハ間或む法ニ背そ兩替之增歩を出させ或む無故諸物之直段を高くしハ等之事むいふニ不及何事ニよりに金銀之通行を相妨ハもの之事申出ハ者ハ宜敷御褒美之事有ゐくハ若差あさる所之難義ニよりて新金銀之增歩を出又ハこきら違法之事を存ハゐ申出ニ不及後日ニ至りて相顯るゝニおゐてハ其罪科茂犯人ニ同しらるへき者也。十一月〇正德四年。

右御觸、午〇正德四年。十二月朔日喜多村ニゐ寫物。町中連判。

——正寶事錄

柳營日次記廿九日〇正德四年十一月出ハ御書付」トシテ、本令ヲ載セ、末ニ「右町奉行へ渡之」ト記ス。

〔參考〕柳營日次記正德四年十一月晦日ノ條云フ、

申渡覺

町人　野島新左衞門

新左衞門事、今度被仰付ハ新金引替之法可被改由條數を以願書差出ハ依之其存寄之趣、委細ニ遂詮義ハ處ニ、申す處共一々無其謂事ニハ。寂初金銀之事被仰出ハ時、御書付を以、何事ニよらず金銀通用相妨ハ事を御制禁ハ然ル ゐ無謂事共申出し、新金之通用相妨之上ハ急度嚴科ゐ行むるへくハといへとも、當時御法事打續赦宥をも御沙汰ハ間別儀を以死罪を宥められ、永く遠流ニ行むれハもの也。

十二月二日庚午〇正德四年(紀元二三七四年)〇庚午、三正綜覽。屋鋪渡有リ。外ニ是月〇正德四年(紀元二三七四年)十二月。若干屋鋪ヲ受授ス。〇書拔。

屋鋪受授

屋鋪受授事蹟

村松友政
京極高或
大谷木季貞
松平忠尙
水野半内
小林善五兵
伊藤武兵
海野半九郎

屋鋪受授　正德四年十二月受授スル所ノ屋鋪ヲ列示ス。

十二月二日渡。能勢甚四郎上ケ地之內
一芝新堀端貳百五拾坪　吹上御花畑奉行　村松彦四郎政。友
十二月二日預。能勢甚四郎上ケ地割殘
一芝新堀端四百五拾坪　京極若狹守預地。或。高
十二月四日渡。御藏衆御役屋敷跡割殘
一淺草鳥越四百坪　表御祐筆　大谷木安左衞門預地。貞。季
十二月四日預。御藏衆御役屋敷跡割殘
一淺草鳥越四拾坪　表御祐筆　大谷木安左衞門預地。
〇一木抹消。
十二月十一日渡。松平伯耆守上ケ屋敷割殘
一小川町三千三百拾七坪壹合　吹上御花畑杖突　水野半内拜借地。尙。忠
十二月十三日渡。小菅茂兵衞上ケ地
一本ニ但建長屋立其土藏植木共。
一三田元御屋敷內六拾坪　同〇吹上御座敷方　小林善五兵衞
十二月十五日渡。佐藤源四郎上ケ地
一青山御手大工町裏七拾貳坪　同　伊藤武兵衞
同日渡。腰塚清左衞門上ケ地
一同所七拾四坪　同　海野半九郎
同日渡。御焰硝藏跡割殘之內
一千駄ケ谷御焰硝藏跡八拾坪　吹上御花畑下役　海野半九郎預地。
十二月十五日預。御焰硝藏跡割殘
一千駄ケ谷御焰硝藏跡貳拾五坪貳合

市橋信直
本庄道章
細川興榮
附記處罰

十二月十七日預。細川長門守上ゲ屋敷
一元誓願寺前千貳百拾七坪
○一本林清。十二月廿一日渡。雨宮勘兵衛支配所之内
一關口臺貳千五百坪
但本所三ツ目屋敷差上ゆ爲代地是迄自分抱屋敷之内ニあ元坪之通拜領。
十二月廿四日渡。伊奈半左衛門支配所
一同所○北本所。中之郷大川端千七百七拾七坪餘
但是迄抱屋敷柳原拜領屋敷差上ゆ爲替地被下。

〔附記〕處罰

廿三日○正德四年十二月○中略。

御燈筒奉行加藤八郎右衛門組同心久津源助事。

屋敷之内を入請之者ニ借し置ゆ所ニ所々より出入金之事ニ付源助方へ相屆候所店請無之不埒成者ニ店借し置其上并家守も欠落ゆへ共是又兼あ請人も取置不申大分之金子引請ゆニ付難義ニ及ゆ故傍輩とも度々異見をも申ゆ得共相用ひに引請金之事ニ付身上不相成御奉公も難相勤躰ニ仕おしゆ事重疊不屆ニ付流罪ニ行ふその也。

右町奉行松野壹岐守○助義。於宅御目付二人立會申渡之。——正德四錄○柳營日次記同。

寺社異動
寺社異動事蹟

是年○正德四年(紀元二三七四年)。寺社ノ異動若干有リ。○屋鋪渡預繪圖證文。地子帳。御朱印地寺社帳。除地古跡寺社帳。

寺社異動 正德四年寺院ノ異動有リタル者ヲ擧グ。

市橋下總守○預地。信直。
本庄宮内少輔○道章。
細川長門守○興榮。
——屋敷書拔

神田明神社 修理。
神田明神社○略。中
本社○略。中
公儀より初ゑ御造營元和三巳年出來、○略。中正德四午年御修復。
——續府内備考

稲荷社及西福寺 社地交換。
古跡除地
一境内六百三十坪
内除地四百五坪。年貢地二百廿五坪。
外年貢地六十坪稲荷ノ社跡境外ニ有之。
右傳通院領染井村西福寺此度作事願出候處境内ニ有之稲荷ノ社并除地年貢地之坪數共不分明ニ付寺社方被致吟味候處古來ゑ有來境内除地三百四十五坪傳通院領年貢地二百八十五坪都合六百三十坪ニ罷成候然處境外ニ西福寺抱之稲荷社在之候此除地六十坪在り來り候寶永七寅年右境外之稲荷社境内年貢地之内ニ引移申度旨願出本多彈正少弼○忠晴。勤役ノ節被差免候尤境外稲荷ノ社跡ニゑ家作等堅ク仕間鋪旨證文被申付候由因茲見分之者指遣被致吟味候處相障儀も無之ニ付境外稲荷之除地六十坪と境内年貢地六十坪と願之通振替ニ被申渡候依之境内除地年貢地右之通ニ罷成候尤境外稲荷之社跡ハ年貢地ニ罷成候旨證文被申付寺社方御帳面被相直候段、

西ケ原長福寺末
染井村
眞言 西福寺

殷昌期

寺社奉行衆連印之斷手紙ヲ以被申越候。猶又右之場處遂見分候處、相違無御座候ニ付、正德四甲午年七月申上候處、其通可仕旨被仰渡候。因茲境外稻荷之除地六十坪張消、境內之除地高ヱ書載張紙仕候。

除地古跡寺社帳之內、

駒込西ケ原長福寺末　眞言宗　西福寺ト有之處ヱ張。

——除地古跡寺社帳

護持院

護持院　預地ス。

圖○略。

神田橋外　護持院上ケ地　坪數貳千百八拾四坪。樹木雜木有之。

東南　土手。護持院。　西北　護持院泉水、土手、道。

東南　三十八間。五十六間。　三尺七寸。　西北　三十九間。五十六間。　貳尺三寸

神田橋外護持院境內裏之方就御用地被召上、則護持院ゟ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、幷植木樹木共ニ相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

護持院役者　日輪院印　月輪院印

正德四甲午年二月廿四日

嶋田佐渡守內小倉半內。渥美茂左衞門。

右立合相改預レ之。

——屋鋪渡預繪圖證文

勸勝寺

海藏寺

勸勝寺　來リ移ル。

金杉山勸勝寺　東本願寺末　芝金杉。

本寺抱地之ノ內二百八十四坪。

起立之儀ハ、建長五癸巳年三月日、武藏國足立郡內植村ニ為開基仕い。開基法名俗名等相知不申い。其後正德五壬辰年足立郡ゟ當所ゟ引移申い。尤古ハ當寺地古跡御年貢地二百八拾四坪有之い處、寬文年月勸勝寺故障之儀有之、一旦廢寺同樣ニ罷成地所之義ハ、淺草本願寺抱地ニ相成、勸勝寺義ハ、本山抱寺ニ相成、右貳百八拾四坪之內勸勝寺外四ケ寺ゟ切坪ニ為住居被申付、當時ハ五十七坪勸勝寺地所ニ為御座い。乍恐御年貢之儀ハ、今以勸勝寺ゟ相納申い。

——續府內備考

海藏寺　借地。

右南品川海藏寺境內東之方ニ有之、借地百姓家拾壹軒、拾四年以前巳年○元祿十四年。阿部飛驛守勤役之節借地ニ差免、右之借地四年巳前卯年○正德元年。迄ニ年季明い處、其砌永代借地之儀、本多彈正少弼○忠晴。方へ願置いニ付、年季明い訴何方へ茂不申出い。其內彈正少弼御役御免故、願不相叶依之借地之譯、寺社方帳面ニ無之い間、今度相改四年巳前卯年○正德六年。五月より來る丑○享保六年。五月迄中年拾年季借地仕度旨願出いニ付、遂吟味い處、相違無之ニ付、申付い由、森川出羽守○俊胤。印形之斷手紙を以て申越い。依之正德四甲午年七月阿部豐後守殿○正喬。へ申上い處、其通爲仕い樣被仰渡、御張紙指上之。

——地子古跡寺社帳

東叡山末牛込戸塚村天台　寶泉寺

寶泉寺

寶泉寺　貸地ス。

一、境内六千九百十二坪（除地）

右寶泉寺境内東南ノ方ニゐ表口七間裏行十八間并地面百三十坪ノ處當午（正德四年）四月ゟ辰年（享保九年）四月迄中年十年季ニ、大島肥前守組飯田六平エ借シ申度旨、寺社奉行所エ相願候故、遣見分被致吟味候處ニ、障儀無之ニ付、往來ゟ引込、九尺ニ七間む道ニ取、殘ル地面有來ル百姓屋并ニ家作致候樣ニ被申付候旨、森川出羽守（俊胤）方ゟ印形ノ斷手紙ヲ以被申越候。飯田六平儀も、借地ニ致家作住宅仕度旨書狀差出候ニ付、猶又右ノ場所遂見分相違之儀無御座候ニ付、正德四甲午年四月申上候處、其通可仕旨被仰渡、張紙仕候。

北方除地古跡寺社帳之内　牛込東叡山末天台宗戸塚村稲荷別當寶泉寺ト在處ヘ張。

——除地古跡寺社帳

西藏院

西藏院　貸地返付ヲ受ク。

一、境内貳千貳拾五坪（御朱印拜領地）

右境内西之方明地ニゐ地面五百坪之所、六年以前寶永六丑年より（享保四年）亥年迄中年拾年季ニ御代官竹村太郎右衞門へ借し置い處、依願當春御役儀御免被遊い。依之右地面入用無之ニ付、家作む太郎右衞門方毀取、地面む地主へ相戻申度旨、西藏院一札を以

下谷金杉武州淵江領吉祥院末新義眞言宗　西藏院

願出い。太郎右衞門儀ゑ、此旨使者書狀を以て申越い。猶又土井伊豫守（利意）印形之斷手紙を以て申越いニ付、正德四甲午年十一月十六日申上い處、其通り爲仕い樣ニ被仰渡い。

——御朱印地寺社帳

感應寺

感應寺　貸地ス。

右感應寺境内三萬四千三百九拾三坪餘有之内、境内裏北之方明キ地之所、東西へ間口九間貳尺南之方へ裏行貳拾壹間三尺、地面貳百坪餘之所黃檗派闇翁と申出家へ、當午年（正德四年）四月より辰年（享保九年）四月迄中年拾年季ニ借シ、則貳拾坪之家作仕、表之方へ壹間之入口を明け、借し地限裏之方垣結切、地内より通路無之樣ニ仕、右闇翁住宅爲仕度旨、寺社方へ願出いニ付、見分之もの被差遣之、被致吟味い處ニ、相障儀無之ニ付、願之通り差免、尤町ケ間敷作事又借し等仕間敷旨證文被申付之旨、土井山城守印形之斷手紙を以て申越い。感應寺并ニ闇翁ゑ罷出、寺ケ間敷家作等曾ゐ以仕間鋪旨一札差出い所ニ、名主ゑ相障儀無之、勿論寺ケ間敷體も相見いハヽ早速注進可仕旨證文差出い。依之右之場所遂見分い處ニ、相違之儀無御座いニ付、正德四甲午年四月相窺い處、其通ニ爲仕い樣ニ被仰付いニ付張紙仕い。

——御朱印地寺社帳

淨光院

淨光院　願勝寺ト改稱ス。

宮地（除地）千五百二拾坪

境内（年貢地）百四十三坪

上尾久村八幡別當淨光院事新義眞言宗　願勝寺

殷昌期

正定寺

右八幡本社其外作事願出ゐ處、寺社方帳面淨光院と記有之ゐ付、改號之儀遂吟味ゐ處、正德四午年願勝寺之寺號其節之寺社奉行松平對馬守○禮。近。ゟ差免請ゐ趣ヲ以、寺傳之古記差出ゐニ付、猶取調ゐ得共、年古キ儀ニゐ書留等難相分、上尾久村ハ東叡山領ニ付、田村權右衞門をも相尋ゐ處、寛延三午年御勘定奉行ゟ相渡ゐ同村檢地帳ニ、寺屋敷四畝廿四歩願勝寺と有之、右之内三畝廿一歩ノ分ハ、堂敷寺敷廟所敷ノ分年貢免除、其餘ハ年貢相納來ゐ由申立、寺社方古本帳ニハ淨光院幷願勝寺之兩號共不相見ゐ得共、寛政度差出本末帳ニハ願勝寺と認有之觸頭共をも相尋ゐ處、今般同寺申立ゐ正德四午年寺號差免請ゐ由之書留ハ無之ゐ得共、翌未年同寺持八幡祭禮之砌口論有之怪我人出來いゑし、觸頭共添簡を以奉行處ニ檢使願出ゐ節之書留ニ願勝寺と有之、其後延享度幷天明度奉行所ニ差出ゐ本末帳控淨光院之條ニ、正德四午年願勝寺と可改旨寺社奉行ゟ申渡有之ゐ段認加有之、然ル上ハ同年改號いゑしゐ段無相違、右以來願勝寺と唱來ゐ事之由申立事實疑敷次第も不相聞ゐ付、改號之儀ハ承屆、其段御屆申上寺社方帳面張紙仕ゐ旨、土屋采女正ゟ印形ノ斷以手紙申越ゐ依之嘉永三戌年三月廿四日申上、御帳面張紙仕ゐ。

正定寺　轉移。

——除地古跡寺社帳

當山起立、慶長十八癸丑年其頃神田元岩井町邊ニ罷在ゐ由。寛永甲申年右地御用地ニ相成、同年下谷ニ替地被下置ゐ。右地亦々御用地ニ相成、正德四年當地三十三間堂跡ニゐ九百坪餘替地被下置ゐ。

——文政寺社書上

正定寺　新堀端ニアリ。淨土宗芝增上寺末、普照山受光院ト號ス。慶長十八年神田元岩井町ニ起立シ、寛永九年新寺町ニ遷リ、正德四年今ノ地ニ移轉ス。

——府内誌殘編

本寺增上寺。淺草新堀。淨土宗。普照山受光院正定寺○中略。

市街異動

市街異動事蹟

高輪北横町

高輪臺町

市街ニ異動若干有リ。

○府内備考。屋鋪渡預。繪圖證文。屋敷書拔。

市街異動　正德四年市街ニ異動有リタル者ヲ擧グ。

高輪北横町　町方支配ニ入ル。

高輪北横町

一、當所往古之儀、同所北町ゟ申上ゐ通ニ御座ゐ、町名之儀ハ、同所北町横町ニ有之ゐニ付、北横町と唱申ゐ。元御代官御支配ニ御座ゐ處、正德四午年町方御支配ニ相成、享保十六亥年七月大岡越前守様○忠相。御番所ニゐ家作御改御免被仰付ゐ。

——府内備考

高輪臺町　町方支配ニ入ル。

高輪臺町

一、當町内起立之儀ハ、同所北町ニゐ申上候通ニ御座候、町名之儀ハ、下高輪之内高輪ニ有之ゐニ付、臺町とも唱候由。尤御代官御支配ニ御座候處、正德四午年町方御支配ニ相

成、享保十六亥年家作御改御免之儀、大岡越前守様御番所ニゟ被仰付候。

――府内備考

赤坂新町

赤坂新町　堀浚役屋鋪上地ヲ名主預トシ、別ニ役屋鋪ノ割渡ヲ爲ス。

圖○略。

赤坂　御堀常浚御役屋鋪上ケ地　坪數六百坪。

南東　道。　西　道。　北　十九間。

南東　道。　西　道。　北　十九間。

貳十六間四尺。　貳十貳間五尺、十貳間四尺。

同　赤坂御堀常浚御役屋鋪上ケ地　坪數百五十坪。

南東　道。　西　北　笠五右衛門。坊主衆町屋。

南東　道。　西　北　五間。三十間。

赤坂御門左右御堀溜池迄常浚請負人、今度被召上、則右役地同所新町四町目之内ニゟ貳ケ所之地面當分拙者共ニ御預ケ被成、四方間數坪數御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年六月廿七日

赤坂新町名主總左衛門　名代　長右衛門　印

同所月行事　七左衛門　印

同所月行事　次郎助　印

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改預レ之。

圖○略。

赤坂新町　赤坂御堀常浚役屋鋪　坪數六百坪。

南東　道。　西　道。　北　十九間。

南東　道。　西　道。　北　十貳間四尺、十貳間五尺。

貳十六間四尺。　貳十七間一尺。

赤坂御堀常浚役屋鋪　坪數百五拾坪。

南東　道。　西　北　笠五右衛門。坊主衆町屋。

南東　道。　西　北　五間。三十間。

四谷喰違土橋ゟ赤坂御門際迄御堀幷赤坂御門ゟ溜池内藤右京亮殿屋敷際龍ノ口ゟ虎之御門際迄御堀常浚爲役屋敷赤坂新町[　]貳ケ所御渡被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年八月十七日

請負人　松本屋　源[　]

請負人　山路屋　忠[　]

宗質證人　山路屋　喜兵衛[　]

嶋田佐渡守内小倉半内。湿美太左衛門。朽木彌五左衛門内山瀬又次郎。

右立合相改渡レ之。

棟梁、平野善三郎。中村半治。吾孫子丈助。

覺

一、御役地ニ有之い古築石大小五百十八本、拙者共兩人ハ御預被成、相違無御座御預り申い爲後日仍如件。

正德四甲午年八月十七日

嶋田佐渡守内小倉半内。渥美太左衞門。朽木彌五左衞門内
山瀨又次郎。
右立合相改預之。

請負人 松木屋 源右衞門印
山路屋 忠次郎印

棟梁、平野□。中村□。吾孫子丈助。

覺

一、先年水野對馬守様御普請奉行御勤被遊い節、私亡父治兵衞ニ御預ケ被成い石、赤坂常浚役地ニ差置い處、方々之就御用相渡申い趣、則別紙書付之通御座い。尤御用ニ付御渡しい節請取人手形取置申い。此度常浚外石五百拾八本差上ケ申い。以上。

正德四甲午年八月十七日

近江屋 治三郎印

御普請御奉行様以下奉行中

——屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

一、赤坂新町七百五拾坪（八月十七日渡。）

但、御堀常浚請負人役屋敷ニ渡ス。

請負人 松木屋 源右衞門
同 山路屋 忠次郎

——屋敷書拔

四谷天龍寺脇同厩跡　年寄預トス。

圖○略。

四谷天龍寺脇　鹿窪淺右衞門上ケ地割殘　坪數百七拾六坪。

東西道。南東宿谷善太夫上ケ地。西御厩跡。北西山上甚十郎。
南東八間一尺五寸。西貳十壹間四尺。北貳十壹間三尺。

四谷天龍寺脇鹿窪淺右衞門殿上ケ地割殘り、拙者ハ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年二月十五日

嶋田佐渡守内小倉半内。
右立合相改預之。

棟梁、中村三左衞門。吾孫子丈助。安川清兵衞。清水喜兵衞。
服部勘右衞門。

年寄 武兵衞印

圖○略。（朱）三月五日（○正德四年）預替ル。

四谷天龍寺脇　御厩火除ケ場跡　坪數三千八拾壹坪。

殷昌期

南東　井上遠江守。百性地。　西南に戸田能登守。北横田備中守。
東　七十九間。　西方南に六十四間。　南東十四間五尺。　北九十貳間壹尺。

同　御厩跡割殘　坪數四百拾九坪。
東　御書院番組。　南　井上遠江守。　西　道。　北　松平杢之丞。
東　十八間五尺五寸。　南　貳十貳間三尺。　西　道。　北　貳十貳間一尺。

四谷天龍寺脇御厩火除ケ場跡、并御厩跡割殘、拙者共兩人ゟ御預被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面貳ヶ所、并並木共相違無ㇾ御座ㇾ御預申ゝ爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

御代官所雨宮勘兵衛支配所千駄ヶ谷村
年寄　武　兵　衛印
同所
名主　源　兵　衛印

正德四甲午年三月朔日

嶋田佐渡守内小倉半内。渥美茂左衛門。
右立合相改預ㇾ之。

圖○略。（朱）五月廿二日（○正德四年）預替ル。

四谷天龍寺脇　御厩跡割殘り　坪數貳千四百拾九坪
東　宿谷善太夫、上ヶ地、鹿窪淺右衛門上ヶ地。
　　山上甚十郎、御書院番組與力。
西　道。　南　松平杢之丞。　北　栗原仁右衛門。
東　百六間五尺。　南　貳十四間。　西　百六間壹尺。　北　貳十貳間壹尺。

四谷天龍寺脇御厩跡割殘り、并火除場割殘り、拙者共兩人ゟ御預被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面并に並木共、相違無ㇾ御座ㇾ御預り申ゝ爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

御代官雨宮勘兵衛支配所
年寄　武　兵　衛印
名主　源　兵　衛印

正德四甲午年三月五日

島田佐渡守内小倉半内。渥美茂左衛門。
右立合相改預ㇾ之。

圖○略。

四谷　御厩跡割殘　坪數貳千百拾九坪。
東　鹿窪淺右衛門上ヶ地割殘、山上甚十郎。
東　御書院番組與力。　西　道。
北　南　御厩跡割殘之内栗原仁右衛門預り地。
　　松平杢之丞。
東　七十三間四尺。　南　貳十四間三尺壹寸。　西　九十三間貳十貳間壹尺。　北　貳十貳間。

同　御厩火除場跡割殘り　坪數千八拾壹坪。
東　南へ戸田能登守。　道。　百姓地。　西方南へ井上遠江守。　北
東　四十壹間。　南　十四間五尺。　西方南へ四十貳間。　北四十九間。

四谷天龍寺脇御厩跡割殘り并火除場割殘、拙者共兩人ゟ被ㇾ成御預ヶ、四方間數坪數右御繪圖之面、并並木共、相違無ㇾ御座ㇾ御預申ゝ爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

御代官雨宮勘兵衛支配所
年寄　武　兵　衛印

正德四甲午年五月廿二日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。　名主　源兵衞印

右立合相改預レ之。

圖○略。

四谷　御厩火除場跡割殘　坪數千八拾壹坪。

東南　道。百姓地。　西北　戸田能登守。井上遠江守。

東南　四十壹間。十四間五尺。　西北　四十九間。四十壹間。

同　御厩跡割殘　坪數千四百十九坪。

東南　山上甚十郎、御書院番組與力。御厩跡割殘り之内栗原仁右衞門預り地。　西北　道。松平杢之丞。

東西　六十三間三尺六寸餘。　南北　貳十貳間壹尺。

四谷天龍寺脇御厩跡割殘り、并火除場割殘、拙者共兩人ゟ御預ケ被ニ成四方間數坪數右御繪圖之面、并並木共、相違無ニ御座一御預り申ゝ。爲後日仍如件。

御代官雨宮勘兵衞支配所　年寄　武兵衞印

名主　源兵衞印

正德四甲午年五月晦日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。

右立合相改預レ之。

圖○略。

四谷天龍寺脇　蔭山數馬組與力上ケ地　坪數三百坪。

東南　近藤與兵衞上り地。百姓畑。　西北　道。栗原仁右衞門。

東南　九間三尺。十五間。　西北　十五間。貳十四間三尺。

四谷天龍寺脇蔭山數馬殿組與力上ケ地、拙者共兩人ゟ御預ケ被ニ成四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無ニ御座一御預り申ゝ。爲後日仍如件。

御代官雨宮勘兵衞支配所　年寄　武兵衞印

名主　源兵衞印

正德四甲午年五月晦日

朽木彌五左衞門内山瀨又次郎。

右立合相改預レ之。

棟梁、平野善三郎。服部勘右衞門。吾孫子丈助。清水喜兵衞。

——屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

二月十五日預。鹿窪淺右衞門上ケ地割殘

一、四谷天龍寺脇百七拾六坪

五月晦日預。藤山數馬組與力上ケ地

一、四谷天龍寺脇三百坪

年寄　武兵衞預地。

名主　源兵衞

年寄　武兵衞預地。

——屋敷書拔

内藤宿

内藤宿　上ケ地ヲ名主預トス。

殷昌期

圖○略。

内藤宿　鵜殿源之丞上地割殘　坪數百三拾坪餘。

東南　新道。山下杢右衞門。　西北　溝口右近上ヶ地。

東西　十三間四尺六寸餘。
南北　九間貳尺九寸。

内藤宿鵜殿源之丞殿上り地割殘、拙者共兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四年八月廿七日

名主　源兵衞印
年寄　武兵衞印

朽木彌五左衞門内八田長左衞門。長尾茂左衞門。
右立合相改預レ之。

宇野小兵衞。吾孫子丈助。原五郎左衞門。中村半治。市川孫左衞門。
服部勘右衞門。

——屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

八月廿七日預。鵜殿源之丞上り地割殘
一、内藤宿百三拾坪餘

名主　源兵衞
年寄　武兵衞

十月廿六日預。夫橋六左衞門上ヶ地
一、内藤宿貳百拾六坪

千駄ヶ谷村名主　源兵衞　預地。
年寄　武兵衞　預地。

角筈村　上地名主預。

圖○略。

角筈村　井上遠江守上ヶ地　坪數貳千坪。

東南　雨宮勘兵衞支配所百姓地畑。　西北　同上。麟祥院領百姓地畑。

東南　三十五間四尺。五十壹間四尺。　西北　三十七間三尺、七間。四十三間四尺、六間四尺。

四谷角筈村井上遠江守殿上ヶ地、拙者共兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并北之方境小杉並木共、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

正德四甲午年三月朔日

御代官雨宮勘兵衞支配所組頭　五右衞門印
名主　傳右衞門印

嶋田佐渡守内小倉半内。湯美茂左衞門。
右立合相改預レ之。棟梁七人。

——屋鋪渡預繪圖證文

正德四甲午年

三月朔日預。井上遠江守上ヶ地
一、四谷角筈村貳千坪

御代官雨宮勘兵衞支配所名主　傳右衞門
組頭　五右衞門　預地。

——屋敷書拔

——屋敷書拔

白山前町千川屋鋪

白山前町千川屋鋪　上收シテ名主預トシ、尋デ上水請負人ニ再給ス。

一、當町往古ヨリ小石川村百姓地ニ有之ヨシ處、年代不知元余語古庵拜領町屋鋪ニ相成、其後拜領替有之ヨシ哉、右上り地跡ニヲ、東西ハ南之方ニヲ貳十間貳尺、北之方ニヲ拾壹間五尺、南北ハ西之方ニヲ十五間五尺、東之方ニヲ十四間貳尺、此坪貳百拾三坪之場所、元祿九子年中千川上水請負人太兵衛ヨリ申者拜領仕ヨシ處、其後上水御差留ニヲ、上ヶ地ニ相成、正德四甲午年二月廿七日小石川御殿地上水請負人役屋敷上り地ヲ相唱、白山前町名主六之丞ハ御預地ニ罷成居ヨシ。其後年代不知右太兵衛儀、根津惣門前橋三ヶ所新規修復共自分入用ヲ以相勤度段願濟之上、又々元地拜領仕、夫ゟ引續當時迄、金七拜領仕罷在ヨシ。

——府内備考

圖略。

小石川指ヶ谷町　小石川御殿地上水請負役屋敷上ヶ地　坪數貳百拾三坪。

外ニ下水坪十七坪五合。

東　御六尺町屋。　西　道。
南　伏屋修理。　北　道。

東南　貳十四間貳尺五寸。　西北　十五間壹尺五寸。

小石川指ヶ谷町ニヲ、小石川御殿地上水請負役屋鋪上ヶ地、描者ハ御預ヶ被成、四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ヨシ。爲後日仍如件。

正德四甲午年二月廿七日

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改預之。

小石川指谷町名主六之丞印

圖略。

小石川根津惣門前橋三ヶ所請負役屋鋪　坪數貳百拾三坪。

外ニ下水坪十七坪五合

東　御六尺町屋。　西　道。
南　伏屋修理。　北　道。

東南　十四間貳尺五寸。　西北　十五間壹尺五寸。

小石川指ヶ谷町ニヲ、小石川御殿地上水請負役屋鋪上ヶ地、今度根津惣門前橋三ヶ所請負爲役屋鋪、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ヨシ。爲後日仍如件。

正德四甲午年三月廿二日

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改渡之。

上水請負人　千川徳兵衛印
千川［　］

小林久左衛門組　鈴木［　］

右之通立合相違無御座請取申ヨシ。以上。

殷昌期

伊勢崎町

正德四甲午年

一、小石川指谷町貳百拾三坪。三月廿二日渡。小石川御殿地上水請負役屋上ケ地

外ニ下水坪拾七坪五合共。

但、根津惣門前橋三ケ所請負爲役屋敷渡ス。

高林又兵衛組 村井 ――屋鋪渡預繪圖證文

上水請負人 千川徳兵衛 千川太兵衛 ――屋敷書拔

伊勢崎町　道河岸附替。

深川伊勢崎町

○上略。町内河岸地無之不辨ニ付、地所借請い者無之、地主一同迷惑被致い處、正德三巳年十二月町内一圓類燒ニ付、地主衆被申合、銘々御拜領屋鋪之内表五間通引去り往還道ニ仕、只今迄之往還道五間之所ゟ河岸ニ被致度、同四年午二月右御頭方ゟ御役名知き不申大久保大隅守様ゟ被差出い御願書左之通、

覺

一、拙者共支配川船方手代十三人同心六人之拜領屋鋪、深川伊勢崎町ニ有之い處ニ、去巳十二月類燒仕い前々ゟ町屋ニゟ借家ニい得共、屋鋪前ニ河岸無之い故、輕キ町人之外借りい者無御座い。同町ニゟ屋鋪前と河岸附い。此度屋鋪前ニ河岸を附藏抔相建いハヽ、宜町人も借り、助成ニも可罷成い。往還道之代ニゟ、銘々屋鋪之内を道幅五間通往還道ニ可仕い間、可罷成義ニ御座いハヽ、被仰付被下置い様ニ、右之者共相願い。輕き手代同心類燒ニ付、身上讀兼可申い。何卒町奉行衆ゟ被仰達願之通被仰付い様仕度奉存い。

二月○正德四年。

秋山彦太夫　曾根五兵衛　久保田佐次右衛門

前書之通御願書被差上い處、町御奉行中山出雲守様○時春。ニゟ御吟味之上、同年○正德四年。四月十二日御勘定御奉行伊勢伊勢守様○貞敷。ゟ川舟方御手代御頭秋山彦太夫様ゟ、願之通被仰付、道河岸附替出來申い。

――府内備考

屋鋪受授

五年乙未○正德二三七五年。○紀元正月十三日庚戌○庚戌、三正綜覽。若松○岩代國。城主松平正容○肥後守。ニ、和田倉用屋鋪○市内麹町區。ヲ預ク。外ニ是月○正德五年(紀元二三七五年)正月。若干屋鋪ヲ受授ス。○寛政呈譜。文露叢。天享吾妻鑑。屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。正德遺錄。

屋鋪受授事蹟

松平正容

屋鋪受授　正德五年正月受授スル所ノ屋鋪ヲ列擧ス。

正容○正四位下。中將。肥後守。始正信。始名重四郎。○保料(松平)

一、同○正德。五年乙未正月十三日、居屋敷狹い由被聞召、家中之者共差置い様被爲思召、和

股昌期

松平信庸

大久保忠方
久世重之

田倉御用屋敷被成御預之旨、以井上河内守（○正岑。）被仰出候。享保十三戊申正月十六日右屋敷御用付差上い節、追ゟ相應之屋敷有之いた、可被成御預之旨、被仰出い。

信庸（初政信。信憲。從四位下。侍從。紀伊守。幼名九十郎。後豐前守ト改。○松平。）

一、同（○正德。）五乙未年正月十九日屋敷無之由被聞召、家來差置い下屋敷可被下い間、場所見立可相願之旨、於御用部屋間部越前守（○詮房。）申聞之い。右場所白山御殿地跡奉願い處、同（○正德五年正月。）廿五日願之通於同所七千坪被下之旨、井上河内守殿被仰渡之い。

——寛政呈譜

一、十五日（○天享吾妻鑑記事、日不明。○正德五年正月。）屋布狹候ニ付和田倉御用屋布御預、松平肥後守（○正容。）下屋布被下、小川町屋敷隣ヲ賜フ、大久保加賀守（○忠方。）深川靈岸嶋前一萬坪餘、久世大和守（○重之。）白山御殿ノ跡七千坪松平紀伊守（○信庸。）

——甘露叢（○天享吾妻鑑同。）

圖（○略。）

和田倉御門内　松平肥後守（○正容。）御預り屋敷　坪數貳千七百貳拾坪。内、建長屋貳百坪。

東南　道、大番所、和田倉御門。　西　御堀。　北　土手、外御堀。

東　五十四間貳尺。　南　五十三間三尺。

同　表通東南折廻し長屋　西　四十九間。　北　五十四間三尺。

東の方こけらふき長屋。（桁行貳十四間半。梁間貳間半。二階造。）

同　こけらふき平長屋。（梁二間半。桁間十壹間。）

南之方こけらぶき長屋（桁行四十五間。梁間貳間。二階造。）

和田倉御用屋鋪、今度松平肥後守ゟ御預ケ罷成、御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、并表通り東南折廻し御長屋立具植木等迄、御目錄ヲ以相違無御坐請取申い。勿論裏之方土手少ゑ切込申間敷い。爲後日仍如件。

正德五乙未年正月十五日　　松平肥後守内　多賀谷彦八印

島田佐渡守内小倉半内。渥美太左衞門。

右立合相改渡之。

平野善兵衞。中村三左衞門。宇野小兵衞。原五郎左衞門。
安川清兵衞。清水喜兵衞。

和田倉御用屋敷建長屋立具植木目錄

一門　扉　但、ムクロ。錠鎖有。共。　三　枚。

一戸　貳十貳本。

一、植　木　七十七本。

以上。

未（○正德五年。）正月十五日　　松平肥後守内　多賀谷彦八印

和田倉御門内　和田倉御門附地面　坪數三百貳拾六坪。

東　御堀。　西　土手、松平肥後守御預り屋鋪。
南　道、和田倉御門。　北　御堀。

和田倉御門桝形之後明地、今度御門附ニ罷成、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪

殷昌期

圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

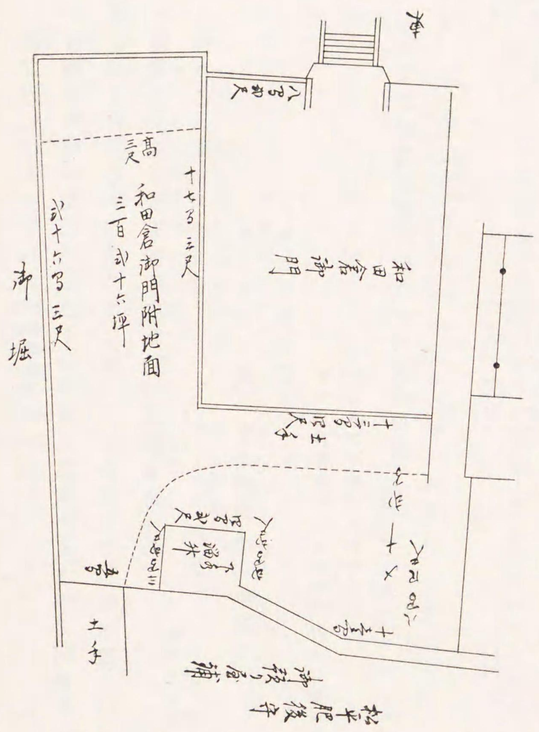
正德五乙未年正月十五日

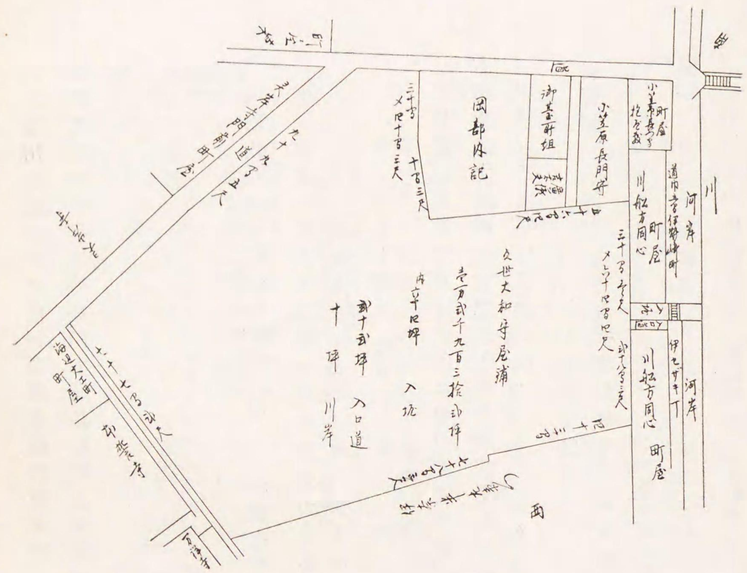
和田倉御門當番板倉甲斐守内
名倉治部右衛門印

島田佐渡守内小倉半内。渥美太左衛門。

右立合相改渡ヒ之。

平野善三郎。中村三左衛門。宇野小兵衛。原五郎右衛門。安川清兵衛。





深川海邊新田之内　久世大和守
○重之。屋鋪　坪數壹萬貳千九百
三拾貳坪。
内、六拾四坪　入堀。
貳十貳坪　入口道。
拾　坪　川岸。

深川海邊新田之内野嶋新左衛門上り地、今度久世大和守拜領仕、御渡し被ヒ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、並植木石等迄、御目錄ヲ以相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德五乙未年正月廿六日

久世大和守内
木村正右衛門印

朽木丹後守渡レ之。

山瀨又治郎。渥美太左衛門。

棟梁七人。

右之、深川海邊新田之内伊奈半左衛門支配所ニあ壹萬貳千九百三拾貳坪、久世大和守殿御拜領地ニ御渡被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之通境目等相違無御座ㇾ哉。後爲日仍如ㇾ件。

伊奈半左衛門内
加藤治右衛門印

圖○略。

小石川　松平紀伊守○信庸。屋鋪　坪數七千坪。

東　松平石見守組道中方與力同心組屋鋪。
南東　松平紀伊守預り。なだれ、道。　西　御殿地跡割殘。　北　道。
東　三十六間、三尺、三十五間。　西　三十九間、三尺、四十五間三尺。
南　五十貳間、三十五間、十四間。　北　九十五間。

小石川御殿地跡割殘り之内ニあ、今度松平紀伊守屋鋪拜領仕、御渡被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ㇾ哉。後爲日仍如ㇾ件。

松平紀伊守内
關口善之丞印

正德五乙未年正月廿九日

朽木丹後守渡ㇾ之。
長尾茂左衛門。渥美太左衛門。
宇野小兵衛。中村半治。服部勘右衛門。安川清兵衛。原五郎左衛門。

圖○略。

小石川　中山吉左衛門屋鋪　坪數貳百三坪。

東　篠原左太夫、高橋惣左衛門。　西　道、永江傳右衛門。
南東　道。　北　高橋惣左衛門、永江傳右衛門。
東　十貳間貳尺。　西　八間四尺、三間三寸。
南　十八間四尺。　北　十一間五尺、七間一尺。

小石川元御殿跡近所大原甚五左衛門上ヶ地、拙者拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ㇾ哉。後爲日仍如ㇾ件。

表御臺所人
中山吉左衛門印

正德五乙未年正月廿九日

朽木丹後守内山瀨又治郎。長尾茂左衛門。島田佐渡守内
小倉半内。
平野善三郎。中村三左衛門。宇野小兵衛。原五郎左衛門。
安川清兵衛。

——屋鋪渡預繪圖證文

正德五乙未年

一、和田倉御門内三百貳拾六坪　正月十五日渡。和田倉御用屋敷之内御門桝形後明地

但、和田倉御門附地所ニ渡ス。正月十五日預。和田倉御用屋敷上ヶ地

一、和田倉御門内貳千七百貳拾坪

和田倉御門番板倉甲斐守内
名倉治部右衛門

一、深川海邊新田壹萬貳千九百三拾貳坪　正月廿六日渡。伊奈半左衛門支配所之内野島新左衛門上ヶ地

一、小石川御殿跡七千坪　正月廿九日渡。御殿地跡割殘之内

松平肥後守預地。

一、小石川元御殿近所貳百三坪　正月廿九日渡。大原甚五左衛門上ヶ地

久世大和守

一、小石川御殿地跡貳千拾五坪　正月廿九日預。屋敷續東南折廻し割殘、崖なだれ

松平紀伊守預地。
表御臺所人
中山吉左衛門
松平紀伊守預地。

（未）此證文相見ゑ不申ゆ。

松平和泉守様中屋敷

中屋敷

一、正德五乙未年正月二十七日本所中屋敷差上度願出ノ處、許容。二月六日本所奉行へ引渡。

——子爵松平家回答○尾藩。

右歷世年譜抄錄。

廿八日○正德五年正月○中略。

大久保加賀守○忠方。

右願之通深川屋敷差上ケ、小川町屋敷坪增し被下旨、於芙蓉之間、河内守○井上正岑。傳之。

——正德遺錄

信庸○松平。同○正德。五乙未年正月廿九日小石川敷地七千餘歩ヲ賜フ。

——松平家譜○龜岡藩。

舊龜岡藩主松平家舊江戸邸宅沿革調

一、正德五年正月廿九日

小石川白山御殿跡ノ鋪地七千餘歩ヲ賜フ。

——子爵松平家回答○龜岡藩。

藩邸給收調

位置	坪數	給與年月	返收年月
右田○和倉。添邸	二千七百五十坪餘	正德五年正月	明治元年月日不詳

——屋敷書拔

屋鋪受授

二月三日庚午○正德五年（紀元二三七五年）○庚午、三正綜覽。屋鋪受授有リ。外ニ若干屋鋪是月正○

——子爵松平家回答○龜岡藩。

德五年（紀元二三七五年）二月。受授セラル。○屋鋪渡預給圖證文。屋敷書拔。

屋鋪受授事蹟

安間庄助

太田彦右

大久保忠方

鈴木儀右

山崎又兵

渡邊奥右

屋鋪受授　左記各屋鋪正德五年二月受授セラル。

正德五乙未年

二月二日渡。齋藤長左衛門上ケ地

一、四谷右京町貳百八拾壹坪

二月三日渡。西興一左衛門上ケ地割殘

一、小石川牛天神下貳百坪。

一、木ニ、但建家立具疊長屋塗垂共。

二月十一日渡。松平伯耆守上ケ屋敷割殘

一、小川町三千三百拾七坪壹合

一、木ニ、建長屋立具土藏火之見所植木共。

但、本所高橋下屋敷差上、爲ニ代地拜領。

二月廿一日渡。村松彥四郎上ケ地并松尾彌三郎上ケ地割殘之內

一、權田原元御屋敷內七拾坪宛

御勘定安間庄助

土圭之間御番太田彦右衛門

大久保加賀守○忠方。

吹上御花畑下役鈴木儀右衛門

山崎又兵衛

渡邊奥右衛門

——屋敷書拔

圖○略。

小石川牛天神下　太田彦右衛門屋鋪　坪數貳百坪。內、建家七拾坪。

東南　中山牛之助。　西道。　南道。　長坂次郎兵衛。　北道。

東　十三間三尺、六間。　西　貳十四間貳尺。五寸。

南　六間五尺。　北　十三間貳尺。

股昌期

濱町太田彦右衞門屋敷差上、小石川牛天神下、西與一左衞門屋鋪割殘御引替奉願い處ニ、願之通拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋塗垂等迄、御帳面ヲ以相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德五乙未年二月三日

土圭之間御番太田彦右衞門内　村田清八印

島田佐渡守内渥美太左衞門。朽木丹後守内長尾茂左衞門。
大久保下野守内栗田忠右衞門。
右立合相改渡ル之。

平野善三郎。中村三左衞門。吾孫子丈助。原五郎左衞門。

圖略。

小川町　大久保加賀守。忠方。代地　坪數三千三百拾七坪壹合。内、建長屋七百七拾五坪。

東南道。西北道。大久保加賀守。
東南百四十貳間。九十六間壹尺。北西十七間三尺。

本所高橋際ニ有大久保加賀守下屋敷差上い爲代地、於小川町松平伯耆守殿上ケ屋敷割殘り、今度加賀守拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建長屋土藏立具火見所植木等迄、御帳面ヲ以相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

正德五乙未年二月十一日

大久保加賀守内　大久保又右衞門印

朽木丹後守渡ル之。

山瀨又治郎。長尾茂左衞門。

平野善三郎。中村三左衞門。宇野小兵衞。安川清兵衞。市川孫左衞門。

圖略。

權田原　山崎又兵衞屋鋪　坪數七拾坪。

東南道、割殘。鈴木儀右衞門。
西北諏訪市郎左衞門。

同　鈴木儀右衞門屋鋪　坪數七拾坪。

東南三尺六寸。三間一尺三寸。
西北五間貳尺七寸。八間貳尺、六間五尺。

東南割殘。渡邊奥右衞門。
西北道。山崎又兵衞。

同　渡邊奥右衞門屋鋪　坪數七拾坪。

東南割殘。中根庄左衞門。
西北道。鈴木儀右衞門。

東南四十五間六寸。五間貳尺六寸。
西北五十五間壹尺。五間壹尺三寸。

權田原元御屋鋪之内村松彦四郎殿上ケ地、并松尾彌三郎殿上ケ地割殘之内ニ有、今度拙者共三人拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、銘々請取申い。爲後日仍如件。

正德五乙未年二月廿一日

三浦十右衞門・村松彦四郎支配吹上御花畑下役　鈴木儀右衞門印
同　山崎又兵衞印
同　渡邊奥右衞門印

朽木丹後守内長尾茂左衞門。島田佐渡守内小倉半内。
大久保下野守内栗田忠左衞門。
右立合相改渡レ之。

平野善三郎。中村三左衞門。原五郎左衞門。清水喜兵衞。

圖○略。

權田原　松尾彌三郎上ケ地割殘り　坪數四拾八坪。
東　小川林古、根岸佐右衞門。
西　山崎又兵衞、鈴木儀右衞門、渡邊奥右衞門。
南　櫻井伊左衞門。北　道。
東西　十間五尺。
南北　五間。四間。

權田原元御屋敷之内松尾彌三郎殿上ケ地割殘、拙者三人ゟ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、御預り申ゟ爲後日仍如件。

正德五乙未年二月廿一日

同　山崎又兵衞印　同　渡邊奥右衞門印
三浦十右衞門・村松喜四郎支配吹上御花畑下役　鈴木儀右衞門印

朽木丹後守内長尾茂左衞門。嶋田佐渡守内小倉半内。
大久保下野守内栗田忠左衞門。
右立合相改預レ之。

平野善三郎。中村三左衞門。安川清兵衞。清水喜兵衞。

新入市街年番組合

新入市街年番組合事蹟

十一日戊寅（○正德五年（紀元二三七五年）二月○戊寅、三正綜覽。）府下各名主會合シテ、新ニ町奉行支配ニ入リタル市街ノ年番組合設置ヲ勸誘ス。（○正寶事錄。）

新入市街年番組合　正寶事錄ニ據レバ左ノ如シ。同時ニ公役人足請負賃銀增額等ノ議ヲ決ス。

一、今日（○正德五年二月十一日。）如例年、惣名主寄合仕ゟ段、昨日三御番所樣ゟ御屆申上、淺草藤屋ニゟ惣寄合勤方諸事談合有之、右席ニゟ左之義談有之ゟ。

但、當日會料上下ニゟ三百五拾文、并年番組合下役壹人ニ付百五拾文ツヽ。

一、先前ゟ御支配之町方ニて、同役中年番相定諸事申合等仕來ゟ。新御支配之御町ニて左樣之義無御座ゟ樣及承ゟ。諸事御觸事御申合、并ニ中繼等、ゟはゟ之ゟ免ニも御座ゟ間、被仰合向寄ニゟ年番組被成ゟ。及御相談ゟ。御組合極ゟ迄て、先此筋ゟ觸口可仕ゟ。以上。

新御支配之方ゟ觸口

一、深川筋觸口　靈岸島組合
一、本所筋　日本橋北之中組合
一、赤坂麻布筋　大芝組合
殷昌期

一、市ヶ谷四ツ谷筋　　神田組合
一、牛込小石川淺草筋　　淺草組合
右之通新御支配之方ゟ掛合之談有之ゝ。幷公役人足請負之義左之通申出ゝニ付、判談有之ゝ。

口上之覺

一、從前ニ御町御用人足賃銀貳匁貳分ニ相極、拙者御請負仕來りゝ所ニ、人足賃銀、錢相場近年以來、高直ニ罷成、損金仕、何とも勤兼及難義申ゝ間、壹人前ニ付御增被遊可被下ゝ。尤毎度卯七月御願仕、貳匁貳分ニ相極御請負仕ゝ節、錢四貫四五百文之相場ニ付壹人前ニ百六拾文ニ當りゝ故相勤來ゝ所、近年錢高直ニ罷成、壹人前漸々百文ニ當り兼ゝ、損金仕來、難義仕ゝ間、右之旨奉願ゝ。以上。

未〇正德五年二月　　本石町壹丁目　駿河屋覺左衛門

御年番衆中様

口上書を以奉願ゝ

一、私義拾ヶ年以來、御疊藏御用人足請負仕來ゝ間、右年數之内、御急用之時分、或ハ出火御座ゝ、人足拂底成時分も、町方ゟ請取ゝ賃銀ニ倍々增銀仕、雇出し、少ハ御用向無御手支、首尾能相勤來ゝ。依之年々損金等御座ゝ得とも、拾ヶ年以來之家業ニ御座ゝニ付、無怠大切ニ相勤來ゝ。然ル所ニ去年春中他之ものニ右之請負被爲仰付ゝ段被仰渡、私義數年不調法不仕、大切ニ相勤來ゝニ付、兼ゝ褒美ハ可奉願ハ存罷在ゝ所ニ、不寄存家業ニ相離レゝ段、行當至極迷惑仕ゝニ付、是非ニ御願可申上ハ奉存ゝ所ニ、左ゝ得ハ、各様大分御苦勞ニ被成譯ヶ具被爲仰聞ゝ。然上ハ達ゝ御訴訟申上ゝハヽ、各様御心ニ障申義ニ付、隨御意、新請負方へ相渡し申ゝ。神妙ニ被思召ゝニ付、少し之内相休罷在ゝハヽ、追付前々之如ハ、私へ被爲仰付可被下旨、御ほうひ之御意、去春惣御寄合之席、各様御一同ニ被爲仰渡ゝ。依之只今相勤申ゝ請負直段、壹人ニ付三匁貳分餘ニ相當り申ゝ。此度奉願ゝ、壹人ニ付貳匁七分ニゝ、御請負奉願上ゝ。尤壹人前ニゝ少々宛ニ御座ゝ得共、年中御爲ニハ可被成樣奉存ゝ。殊ニ數年御馴染之私義ニ御座ゝ間、右願之通被仰付被下ゝハヽ、難有可奉存ゝ。以上。

正德五年未二月十一日　　駿河屋　勘右衛門
　　平田屋　長右衛門

御年番衆中様

前ニ有之覺在衛門願之義、增錢遣可然、幷右勘右衛門、長右衛門願之義ハ、願之通申付可然段、相談有之ゝ。

末ノ、同〇正德五年二月廿一日
御納戸御用人足請負人駿河屋覺左衛門右ニ有之願之義、今日年番寄合之上致增錢、賃錢百貳拾五文ニ極メ遣、右之段町々ゟ可申渡旨、組合廻狀出ス。

同〇正德五年二月廿七日
御疊人足請負之義、年番寄合之上、先達ゝ惣寄合ニゝ相談之通當時之請負人小島屋庄

七松村屋平右衛門、右兩人ゟ相止來三月朔日（正德五年。）ゟ駿河屋勘右衛門ゟ申付、尤賃錢貳匁七分、小判六拾目、端銀ゟ時之錢相場ニゟ可遣段、町々ゟ可申渡旨、組合廻狀出ス。

同（正德五年）三月右ニ付、駿河屋勘右衛門、平田屋長右衛門ゟ、組合年番ゟ左之通證文差出申ゟ。

差上申證文之事

一、此度御疊屋御用人足、拙者共ゟ被爲仰付ゟ、忝奉存ゟ、然上ゟ、平生御用向隨分大切ニ相勤可申ゟ、并御城内御用向不及申上、如何樣之急御用之節、又ゟ大御用之節、何程之大割ゟりとも、少ゟ無手支、急度相勤、一切直出抔仕間敷ゟ、勿論御城内ゟ不及申上、何方之御場所ゟ成共、無札人足、不見屈人足、一切差出申間敷ゟ、住所相知、慥成人足吟味仕、差出し可申ゟ、冬向大雨大風之節、其外出火等何樣之義出來ゟ共、無手支、急度御用向大切ニ相勤可申ゟ、御城内出入之御札之義、御疊藏御奉行樣ゟ毎朝請取、毎晩相改、無相違、急度納申ゟ樣ニ可仕ゟ、惣ゟ於御藏御用向ニ疊人足御役當りゟ御町内ゟ、少ゟ御苦勞掛不申ゟ樣ニ、相勤可申ゟ、賃錢之儀、壹人ニ付貳兩七分ツヽ、小判六拾目、錢時之相場ニゟ請取申筈ニ御請負申處實正也、爲後日仍如件。

御疊藏御用人足請負人　駿河屋勘右衛門　判
右同斷證人　平田屋長右衛門　判

正德五年未三月

御年番樣

末ツ、同年（正德五年）九月二日當二月請負取放しゟ庄七、平右衛門儀、大分致損金ゟ旨を以、松野壹岐守樣御番所ゟ御訴訟ニ罷出ゟ旨ニゟ、昨日樽屋ゟ年番名主被呼、委細御尋之趣被申渡ゟニ付、左之通書付差出ゟ。

御疊人足之義、町々ゟ差出しゟ得共、間違等ゟ御座ゟゟ、御手支ニ被成ゟニ付、壹ヶ年ニ兩度も名主寄合仕賃金吟味仕、下直ニ請負ゟもの申付、相勤來りゟ處、去午年（正德四年。）庄七、平右衛門ゟ申もの賃銀下直ニ仕請負申度段相願申ゟニ付、人足壹人ニ付銀貳匁四分ツヽニ相定、增願等仕間敷段爲致證文、午（正德四年。）四月廿七日ゟ申付ゟ處、一兩月相勤、錢相場高直ニ相成ゟ間、賃銀增吳ゟ樣、度々相願申ゟ。尤增願等仕間敷段、證文取置ゟ得とも、人足差出し不申ゟ得ゟ、御手支ニ相成ゟ間願之通壹人ニ付百五拾文宛、同八月八日ゟ增願仕、當二月迄相勤申ゟ。然ル處、毎年之通名主共寄合仕、諸事吟味ゟ處、御疊人足之義、前々請合仕ゟ勘右衛門ゟ申もの、人足壹人ニ付銀貳匁七分ツヽニゟ請合申度段、書付差出申ゟニ付吟味仕ゟ得共、庄七、平右衛門請合ニゟ壹人ニ付三拾錢宛程も下直ニ御座ゟ。町々困窮之節ニ御座ゟ得ゟ、少成とも下直成ニ可申付處ニ、壹人ニ付三拾錢も下直ニ御座ゟ得ゟ、町々勝手ニゟ罷成ゟ間當二月ゟ勘右衛門ニ申付、無滯相勤申ゟ。此度庄七、平右衛門去年請合之節大分損金仕ゟ樣ニ御願申上ゟ段、難心得奉存ゟ。右人足之儀ゟ、毎年吟味仕、下直ニ請合ゟ者ニ申付ゟ義ニ御座ゟ。以上。

正德五未九月二日

殷昌期

未○正德五年。三月十三日

一、深川分同役年番之義、靈岸島組合年番ニ加り相勤申度旨願ニ付、則當年ゟ加ハ相勤ゆ。

屋鋪受授

三月朔日丁酉○正德五年○丁酉、三正綜覽。屋鋪受領者有り。外ニ是月○正德五年（紀元二三七五年）三月。屋鋪ノ受授若干。○寛政呈譜。柳營日次記。天享吾妻鑑。甘露叢。屋鋪渡預絵圖證文。屋敷書拔。正德五錄。正德遺錄。

屋鋪受授事蹟

伊藤重澄

屋鋪受授　正德五年三月中左ノ各屋鋪受授ヲ見ル。

重澄○新十郎。伊藤。

正德五未年三月朔日於麻布三軒家屋敷拜領。

——寛政呈譜

青木武右

一、權田原元御屋敷内四拾貳坪五合

三月十八日預。小澤田嘉上ゲ地

山根元四郎

一、權田原元御屋敷内九坪

三月廿一日渡。兩角利右衛門上ゲ御長屋并空地共

○一本ニ六坪、外ニ空地三坪。

月光院樣御廣敷番

青木武右衛門

預地。

御廣敷御小人

山根元四郎

但、御借渡。

京極高榮

一、橋場村貳千坪

三月廿五日渡。豐島郡鰐田領萬年長十郎元御代官所之内

但、本所猿江村屋敷差上ゆ爲代地被下。

京極加賀守○高榮。

鳥居包重

一、麴町六町目裏四百三坪

三月廿六日渡。植溜明地割殘

但、青山宿屋敷差上爲代地拜領。

役名不知

鳥居金左衛門○包重。

寺石清右

三月廿八日渡。高野十助上ゲ地長屋并空地共

一、權田原元御屋敷内六坪七合五勺

○一本抹消。

月光院樣仕丁

寺石清右衛門

——屋敷書拔

圖○略。

麴町　鳥居金左衛門○包重。屋鋪　坪數四百三坪。

東南　高岡市清、增池久務。西北　道。道。

東南　十九間貳尺。十七間。

貳十三間貳尺。北西　貳十壹間壹尺。

青山鳥居金左衛門屋鋪差上、爲代地麴町六町目裏植溜明地割殘、願之通金左衛門拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

鳥居金左衛門内

長谷川平藏印

正德五乙未年三月廿六日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。朽木丹後守内長尾茂左衛門。大久保下野守内小嶋十郎左衛門。

右立合相改渡ヲ之。

宇野小兵衛。中村半治。原五郎左衛門。

圖○略。

麴町六町目裏　坪數三百三拾六坪五合。

東南　紅葉山御坊主衆。西北　道。道。

殷昌期

東京十七間半。南貳十壹間貳尺。西十五間半。北十九間半。

麹町六町目裏植溜此度鳥居金左衛門殿拜領ニ付、今日各御出、間數坪數御改、御渡被成、右繪圖傍示杭之通慥ニ請取申い。仍如件。

正德五未年三月廿六日

萩野仁兵衛殿
阿部彦太夫殿

島田佐渡守内 渥美太左衛門印
朽木丹後守内 長尾茂左衛門印
大久保下野守内 小嶋十郎左衛門印

——屋鋪渡預繪圖證文

酒井忠眞
柳澤吉里

廿一日○正德五年三月。

一、酒井左衛門尉○佐カ。○忠眞。幸橋屋鋪、松平甲斐守○柳澤吉里。神田橋屋鋪と入替被仰付之左衛門尉名代酒井因幡守○忠隆。甲斐守名代柳澤備後守。○信君。

——柳營日次記

廿一日○正德五年三月○中略。

酒井左衛門尉○忠眞。幸橋屋敷、松平甲斐守○柳澤吉里。神田橋屋敷ト入替被仰付。

——正德五錄

廿一日○正德五年三月。

就頓居屋敷御用ニ付被召上之、酒井左衛門佐居屋敷被下之。

松平甲斐守○柳澤吉里。

榊原政邦
池田繼政
柳澤時睦

松平甲斐守屋敷ヲ入替ニ被仰付之旨。

右於芙蓉之間老中列座、豐後守○阿部正喬。申渡之。

三月○正德五年。小○略。中

一、屋敷替被仰付之。

幸橋酒井左衛門佐屋布ヘ。
神田橋松平甲斐守屋布ヘ。
同所ノ内七千坪、上屋布ニ被下。
同明地ノ内足地ニ被下。
濱町牧野備後守屋布ノ内。

酒井左衛門佐○忠眞。

——正德遺錄

松平甲斐守
酒井左衛門佐
榊原式部大輔○政邦。
○池田繼政。○文露叢松平伊豫守○綱政。
松平大炊頭
○文露叢柳澤○繪圖證文刑部少輔○經睦。
松平式部少輔○柳澤時睦。

——天享吾妻鑑○文露叢同。

一、正德五年三月廿一日幸橋内之邸を献納し、神田橋内松平甲斐守か邸一萬三千貳百五十六坪。を賜はる。

郡山藩

一、神田橋内上屋敷

下賜　元祿二年正月十一日　水野隼人正忠直屋敷。三千百貳拾坪。
同　元祿二年二月十八日　隣地ニテ松前備前守政信跡。三千八百三坪。
同　元祿九年七月六日　住宅南ノ方大路ヲ神田御殿の地を添てトアリ。

殷昌期

——伯爵酒井家回答○國岡藩

同　元祿十三年八月二日　神田御殿跡南續。七千四百三拾七坪。

一、神田橋外屋敷

下賜　元祿十四年十月十五日　小笠原右近將監清遙上ヶ屋敷。貳千三百六十坪。

同　寶永四年六月十二日　東隣ニテ。千八百八十四坪。

正德五年三月廿一日願ニ付神田橋（内外不明）屋敷差上トアリ。

一、幸橋内上屋敷

下賜　正德五年三月廿一日神田橋代地トシテ。坪數不明。

返上　享保十六年四月日不明。七百十四坪丈、新道用地トシテ。

爾後明治ニ至ルマテ變更ナシ。

——伯爵柳澤家回答。○郡山藩。

屋鋪受授

四月二日丁卯

○正德五年（紀元二三七五年）四月。受授ス。○屋鋪渡預絵圖證文。屋敷書拔。正德五錄。正德遺錄。柳營日次記。榊原家譜。子爵榊原家回答。細川家記。

屋鋪受授事蹟

吉見安兵

屋鋪受授　正德五年四月受授ノ屋鋪ヲ列記ス。

圖○略。

三田　吉見安兵衛御長屋　坪數六坪。

東　空地。南　御長屋。伊藤清三郎。西　空地。北　倉橋清吉。

東西　貳間。南北　三間。

三田元御屋鋪之内林九兵衛上ヶ御長屋、拙者願之通、拜借御長屋ニ御借渡被ㇾ成、四方間數坪數、右御絵圖之面、相違無御座請取申い爲後日仍如ㇾ件。

法心院樣御廣敷御小人　吉見安兵衛印

正德五乙未年四月二日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。

右立合相改渡ㇾ之。

平野善三郎。宇野小兵衛。原五郎左衛門。市川孫左衛門。

圖○略。

三田　松村清兵衛上ヶ地　坪數八拾壹坪。

東　道。南　島田安右衛門。西　神谷八右衛門、山田市右衛門。北　島田源太郎。

東南　五間七尺。北　十四間。西　五間五尺。

三田元屋敷之内松村清兵衛上ヶ地、拙者ニ御預被ㇾ成、四方間數坪數、右御絵圖之面、相違無御座御預り申い爲後日仍如ㇾ件。

御廣敷添番　嶋田源太郎印

正德五乙未年四月二日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。

右立合相改預ㇾ之。

平野善三郎。宇野小兵衛。原五郎左衛門。

島田源太郎

圖○略。

濱町　松平刑部少輔○柳澤經隆。屋鋪　坪數四千四拾坪餘。内、十五坪貳合下水坪。

柳澤經隆

股昌期

東　新道。牧野備後守。北西　牧野備後守上ヶ地割殘。
南　牧野備後守主家、道。北西　坊

六十六間五尺。五十間三尺。
東南　四十六間、貳十八間。北西　貳十七間五尺、貳十壹間貳尺。
北　十九間一尺六寸。

神田橋御門之內松平刑部少輔屋鋪就御用ニ差上、爲代地濱町牧野備後守殿上ヶ地之內ニ而、元坪ニ五百坪之增坪ニ而、刑部少輔拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并番所壹ヶ所立具植木、目錄ヲ以御改御引渡し、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

松平刑部少輔內　吉原儀兵衛印

正德五乙未年四月十八日

嶋田佐渡守渡レ之。小倉半內。

平野善三郎。服部勘右衛門。安川清兵衛。

圖○略。

濱町　金子八太夫○正。屋敷　坪數三百五十七坪壹合。

東南　道。西北　道。長谷川佐太夫。神保吉右衛門。

東南　貳十間四尺。十七間四尺。西北　貳十間四尺五寸。十七間一尺五寸。

濱町太田彥右衛門殿上ヶ地、金子八太夫拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

金子八太夫內　高橋佐平治印

正德五乙未年四月十八日

朽木丹後守內長尾茂左衛門。島田佐渡守內小倉半內。大久保下野守內栗田忠左衛門。

右立合相改渡レ之。

中村三左衛門。宇野小兵衛。安川清兵衛。中村半治。

圖○略。

神田橋御門之內　酒井左衛門佐○忠眞。屋敷　坪數壹萬三千貳百五十六坪。

內、建家四千六百貳十五坪。

東南　割殘。新道。西北　隅　神田橋御門。北　土手外御堀。

東南　五十六間三尺。百貳十九間五尺、五十五間貳尺。北西　七十間三尺、十貳間。百四十八間一尺、十四間壹尺。

幸橋御門之內酒井左衛門佐殿屋鋪差上、神田橋御門之內、松平甲斐守殿上ヶ屋鋪之內ニ而、左衛門佐屋鋪拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具、疊長屋土藏植木石等迄、御帳面ヲ以て相改相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

酒井左衛門佐內　石原平右衛門印

正德五乙未年四月十八日

山口三郎左衛門印　坂部宇兵衛印

嶋田佐渡守。朽木丹後守。大久保下野守渡レ之。

山瀨又治郎。長尾茂左衛門。小倉半內。

平野善三郎。中村三左衛門。宇野小兵衛。原五郎左衛門。

安川清兵衛。

池田綱政

圖○略。

神田橋御門之内　松平伊豫守○池田綱政。　添地　坪數八百六拾五坪。

東ハ北へ　土手外御堀。　西　酒井左衞門佐。
南ハ北ニ　松平伊豫守。　北　土手。
東　五十四間五尺。　西　五十六間三尺。
南　八間、三十壹間。

神田橋御門之内松平甲斐守殿上ケ屋鋪東之方割殘、松平伊豫守添地拜領仕、御渡被ㇾ成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、并稲荷宮壹ケ所共、相改、相違無ニ御座一請取申ゝ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

正德五乙未年四月廿一日

松平伊豫守内　大關新五左衞門　印

嶋田佐渡守渡ㇾ之。

小倉半内。渥美太左衞門。長尾茂左衞門。小嶋十郎左衞門。

棟梁七人。

圖○略。

青山　鳥居金左衞門上ケ地　坪數貳百五拾坪。

東　道。　西　戸島藤兵衞上ケ屋鋪。
南　道。　北　鳥居金左衞門預リ上ケ地。
東　十九間四尺。　西　十九間三尺。
南　十三間四尺。　北　十壹間五尺六寸。

同　鳥居金左衞門預り上地　坪數五拾坪。

東　道。　西　淺田又五郎。
南　鳥居金左衞門上ケ地。　北　小山長兵衞。

小山長兵

東　四間三尺。　南　四間。
南　十壹間五尺六寸。　北　十壹間三尺六寸。

貳口合　三百坪。

青山百人町近所鳥居金左衞門殿上ケ地、并預り上地共、拙者ニ御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無ニ御座一御預り申ゝ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

小普請方同心　小山長兵衞　印

正德五乙未年四月廿六日

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改預レ之。

間部詮房

圖○略。

濱町　間部越前守○詮房。　添地　坪數四千七百六拾五坪。内、拾四坪五合下水。

東　道。　西　新入堀。
南　牧野備後守。　北　入堀。
東　六十六間五尺。
南　六十三間三尺。　西　六十三間五尺。
南　六十九間貳尺。　北　八十三間五尺。

濱町間部越前守下屋鋪南隣牧野備後守殿上ケ屋鋪之内東之方割殘り、今度越前守添地ニ拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并番所立具植木石表通り塀共、御目錄ヲ以相改、相違無ニ御座一請取申ゝ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

正德五乙未年四月廿七日

間部越前守内　木内新右衞門　印

嶋田佐渡守渡ㇾ之。

小倉半内。吉田庄太夫。長尾茂左衞門。栗田忠左衞門。

中村三左衞門。宇野小兵衞、吾孫子丈助。原五郎左衞門。中村半治。
市川孫左衞門。服部勘右衞門。

水谷勝昌

正德五乙未年

一、三田元御屋敷鋪内九坪六合（四月二日渡。林九兵衞上ケ御長屋并空地共）

但、御借渡。○一木ニ外空地三坪六合。

一、三田元御屋敷之内八拾壹坪（四月二日預。松村清兵衞上ケ地）

一、小日向新小川町四百坪（四月十五日渡。久保七郎左衞門上ケ地之内）

一、濱町四千四拾九坪餘（四月十八日渡。牧野備後守上ケ地之内）

但、神田橋御門内屋敷御用ニ付差上、爲ニ代地一増坪ニ而被下。一木ニ番所一ケ所立具植木共。

一、濱町三百五拾七坪壹合（同日渡。太田斎右衞門上ケ地）

一、神田橋御門内壹萬三千貳百五拾六坪（同日渡。松平甲斐守上ケ屋敷之内一木ニ建家立具疊長屋土藏植木石共。）

但、幸橋御門内屋敷差上、爲ニ代地一被下。

一、同所八百六拾五坪（四月廿一日渡。同斷上ケ地割殘）

一、青山百人町近所三百坪（四月廿六日預。鳥居金左衞門上ケ地并預り上ケ地共。○一木ニ但、添地ニ渡。并稻荷宮一ケ所共。）

一、濱町四千七百六拾五坪（四月廿七日渡。牧野備後守上ケ屋敷割殘）

但、添地ニ相渡。一木ニ内十四坪五合下水坪。番所立具植木石共并表塀共。

屋鋪渡預繪圖證文

吉見安兵衞（法心院樣御廣敷御小人）

島田源太郎（御廣敷添番 預地。）

水谷又吉（表御右筆 ○勝昌。）

松本刑部少輔

金子八太夫（役名不知）

酒井左衞門佐

松平伊豫守（添地。）

小山長兵衞（小普請方同心 預地。）

間部越前守（添地。）

水野忠周

榊原政邦

松平輝貞

酒井忠音

一、濱町千六百拾六坪（四月廿七日預。牧野備後守上ケ屋敷割殘）

九日（○正德五年 四月○中略。）

松平刑部少輔（○柳澤經隆。）事、神田橋屋敷御用地ニ被召上、代地濱町牧野備後守（○成貞。）上ケ屋敷之内被下之。

廿九日（○正德五年 四月○中略。）

常盤橋之内松平甲斐守（○柳澤吉里。）松平刑部少輔（○柳澤經隆。）上ケ屋敷被下之駒込下屋敷可差上。

小川町酒井修理大夫（○忠音。）屋敷ト入替。

神田橋内松平右京大夫（○輝貞。）屋敷ト入替。

九日（○正德五年 四月。）

神田橋屋敷御用地被召上、替地濱町牧野備後守上ケ屋敷之内只今迄之坪數ニ五百坪增被下之。

右於御白書院緣頰老中列座大和守（○久世重之。）中渡之。

廿九日（○正德五年 四月○中略。）

殷昌期

水野出羽守（○忠周。預地。）

——屋敷書拔

榊原式部大輔（○政邦。）

松平右京大夫（○輝貞。）

酒井修理大夫（○忠音。）

——正德五錄

松平刑部少輔（○柳澤經隆。）

右ゟ松平甲斐守松平刑部少輔上ヶ地屋敷之内被下之。駒込之下屋敷可差上之。

右ゟ酒井修理大夫屋敷ゟ入替。

右ゟ松平右京大夫屋敷ゟ入替、并預り地添被下之。

右之通被仰付之旨、老中列座、大和守○久世重之。傳達之。席浪之間有之、名代酒井内藏助。○忠眞。

——正德遺錄

九日○正德五年四月。

一、松平刑部少輔神田橋屋鋪御用地ニ被召上、代地濱町牧野備後守上り屋鋪之内被下之。

廿九日○正德五年四月。

常盤橋之内松平甲斐守松平刑部少輔上ヶ屋敷被下之、駒込下屋敷可差上由。

小川町酒井修理大夫屋敷と入替。

神田橋内松平右京大夫屋敷と入替。

榊原式部大輔
松平右京大夫
酒井修理大夫

——柳營日次記

右之通屋鋪替被仰付之。

正德五年乙未四月廿九日、神田橋内屋鋪家作トモ賜リ、千駄木屋敷上地ス。

拜領上屋敷
神田橋内

——榊原家譜○高田藩。

一、七千八百四拾坪餘

正德五乙未年四月廿九日神田橋内松平甲斐守上ヶ屋敷家作共拜領。

寛保元年酉十月十五日被召上、小笠原右近將監へ十一月廿三日引渡。

——子爵榊原家回答

一、三月十一日○正德五年。麻布今里村之内ニゐ被求置候屋敷之儀ニ付、御用番之御老中阿部豐後守殿○正齋。ゟ御伺被置候、四月晦日御留守居御呼候ゐ、豐後守殿より御渡被有候書付、

麻布白銀今里村之内ニゐ被求置候百姓屋敷、今度町人百足屋吉兵衛と申者望候付ゐ遣度之旨被相伺候可爲勝手次第候。以上。

——細川家記

附記
通貨町觸手續

〔附記〕通貨町觸手續

三日○正德五年四月。

金銀錢之儀付ゐ町觸ゟ、町方へ掛りゆ筋之儀ハ、御用懸り之面々と申談可相勤ゆ。

大目付中　川淡路守
御目付丸毛五郎兵衛
御勘定奉行水野因幡守
町奉行中山出雲守○時春。
村瀨伊右衛門

今度金銀錢之儀付ゐ町方へ掛ゆ向む、中山出雲守被仰付ゆ間可和談ゆ。

稲生次郎左衛門　御勘定吟味役　萩原治左衛門

——柳營日次記

本所奉行更任

九日甲戌（○正德五年紀元二三七五年）四月○甲戌、三正綜覽。

本所奉行小笠原長之○外記。大久保忠宗○左衛門。

罷メ書院番川口平宗○茂右衛門。小姓組曾根長之○源藏。之ニ代ル。○正德五錄。柳營日次記。天享吾妻鑑。柳營補任。寛政重修諸家譜。

本所奉行更任事蹟

本所奉行所更任　相傳ス、

九日○正德五年四月○中略。

永々相勤ゆ付御免。

代り被仰付。

一、四日○正德五年四月○中略。

一、御役御免。

本所奉行

同

御小姓組戸田肥前守組小笠原外記○長之。

御書院番松平伊勢守組大久保伊左衛門○忠宗。

同大岡土佐守組曾根源藏○長之。

同三浦肥後守組川口茂右衛門○平宗。

——正德五錄○柳營日次記同。

小笠原外記

大久保伊左衛門

一、本所奉行被仰付之。

本所築地奉行

正德五未四月九日同（○御小性組）大岡土佐守組

同日御書院番三浦肥後守組

川口茂右衛門

曾根源藏

——天享吾妻鑑

平宗○初宗建。主膳。式部。茂右衛門。

大久保○忠宗○跡

曾根源藏

小笠原○長之○跡

川口茂右衛門

——柳營補任

十二月○元年。綜　御書院番に復す。○中略。正德五年四月九日より本所の奉行をつとむ。享保二年四月二日これを辭し、この日死す。

長之○源之助。曾根。源藏。兵部。喜内。

七月二十一日○寶永三年。　御小性組に列し、○中略。四年○正德。四月九日より本所奉行をつとめ享保四年四月三日この役を廢せらるゝにより、これをゆるさる。

——寛政重修諸家譜

附記　救助願再提出

〔附記〕救助願再提出

殷昌期

前年全府民ヨリ救助願ヲ提出シタルコト、上記ノ如シ、而モ願ミラレザリシヲ以テ、是年四月十日十二月十四日再之ヲ提出セシモ、廿七日ニ至リ却下セラル。

一、近年諸式高直ニ罷成、惣町中困窮仕ゐニ付、舊冬名主共御救御願申上ゐ得共、御當地町人ニ不限、國々所々共不作仕、一統之困窮ニ付、御救之義不被仰付ゐ間、如何とも渡世ゐ樣ニ御意之趣、委細ニ名主共爲申聞ゐニ付、借家店かり裏々之ものまで相互ニ申合、朝夕共粥雜水或ハ粮ニいゑしゐ物給ゐへ共、穀物等諸式共ニ高直ニ罷成、只今ニ至り裏々苧ニおよびゐ者多、難義至極仕ゐ。先年も御救御拜借米被仰付ゐ得ハ、早速諸色下直ニ罷成ゐ。右之段被爲聞召、御慈悲を以、惣町中如何樣とも御救被爲遊被下ゐ樣ニ、乍恐奉願上ゐ。以上。

惣町中家主共申上候。

正德五年未四月

右書付を以四月十日（正德五年。）松野壹岐守樣、同十二日坪内能登守樣、同十四日中山出雲守樣、其後ハ、右之順に御訴訟被出ゐ。

惣町中訴訟人　家持　共

末ツ。同（正德五年）四月廿七日今日壹岐守樣御番所御内寄合ニ右願人共被召出、惣町中之者共困窮ニ付、御救之義相願ゐ得共、惣町人共、金銀之直違仕ゐ故之義ニ有之ゐ間、御救之義御取上無御座段、被仰渡ゐ。

——正寶事錄

幣制令達兩替屋等組合設置

廿一日丙戌（正德五年（紀元二三七五年）四月○丙戌、三正綜覽。）貨幣通用ニ關スル令達有リ。兩替屋其他ヲシテ組合ヲ設置セシム。廿五日庚寅（正德五年（紀元二三七五年）四月○庚寅、三正綜覽。）ニモ同ク令達ス。○正寶事錄。柳營日次記。正德五錄。天享吾妻鑑。

幣制令達兩替屋等組合設置事蹟

幣制令達兩替屋等組合設置　左ノ如ク傳フ、

覺

元祿以前ハ、於江戸表ニ銀、小玉之銀通用有之處ニ、近年ニ至テハ、小玉之銀其數をくなくゐ故其代として專らゑ小錢を以て通用ゐニよりて、錢之相場をいふニ不及小判切賃等も年々高直ニ至り、諸人之難義ニ及ひゐ。依之今度之新銀ハ別ゑ小玉之數を增、こまかに吹出さゝゐていへとも、今ニ至りて新銀小玉之通用、古來之ごとくニハ無之由相聞ゐ。自今以後ハ、金壹兩餘之端銀、又ハ乾字金壹分之代或ハ町屋敷等之地代、宿代、或ハ諸職人之手間料、飯米料、諸商賣物少分之代銀專らニ小玉銀を相用ゐ樣仕、金高ニ及ゐ事ニ至テハ、金銀相應ニ相交、通用ゐ樣、町中大小諸職人、諸商人、相互ニ急度此旨を可相心得者也。

四月（正德五年。）

覺

一、新金銀追日世上ニ流布しゐといへとも、いまゝ諸國ニ行渡らゝ。就中東國筋ニおゐてハ、金通用之事ニゐ處、新金ハいまゝ遣ひ馴をゐ故ニ、當分ハ乾字金を以通用之由相

聞、江戸町中諸商賣物請込い問屋とも、おの〳〵其荷主共方ゟ相達、新金銀通用之事ニおゐて、少しも損失無之い子細を相心得い様ニ仕、自今以後諸商賣物之代として相渡い金銀ハ、第一ニ新金銀を差遣しい様可仕事。

一、自今以後ハ、商賣之品ニ隨ひ、問屋仲間ニゟ各組合を立置、一組ニ壹人宛月行事を相定メ、其月行事之者ゟ組切之仲間ゟ集りい元祿以來之金銀を取集、日々引替所ゟ差出し、新金銀と可引替之事。

一、諸問屋組合切ニ、其人別町所付、并月行事之者をも、委細ニ帳面ニ記し、引替所ゟ渡し置、毎月其帳面ニ引合、所之様子を相改、若懈怠之事有之ニおゐてハ、其組之月行事ハいふニ及ハず、組合之もの共、可爲越度事。

右之條々、急度可相守之者也。

四月〇正德五年。

覺

一、新金銀追日世上ニ流布し、通用い。就中新金ハ、江戸表計ニゟ吹替らき、兩替屋等ハ、金銀之通用を以て家業としい所ニ、去年以來、彼者共金引替之次第不審之様子度々ニおよひ、殊ニハ乾字金引替之數ハ小分之事ニい。自分以後ハ、江戸町中之兩替屋錢屋共、或ハ其ことより、或ハ其町切ニ成共、仲間組合を立置、組合切ニ毎月壹人宛月行事を相定、月行事之ものゟ、組合切ニ日々集りい元祿金乾字金取揃、引替所ゟ差出し、新金と可引替事。

一、其一組日々引替之金高ハ、組合人數多少ニ應し、定數を申付い間、一組金高之内、元祿金乾字金半分宛相交、可引替之。若元祿金之集り方ハく、又ハ少も集らさる時ハ、乾字金計ニゟも、定數之通差出、可引替之。組合之者共、家名町所付、月行事之者之事等ノ委細帳面ニ記し、引替所ゟ渡し置、日々引替之様子、可遂吟味い之間、おの〳〵其旨を可相心得事。

一、最初御定金銀增割之外ニハ、ゟつかゟ過分之事ニ及い類、惣ゟ何事ニ不寄、金銀通用之妨ゟ仕出しいもの有之いハ、其主人手代ハいふニ及ハず、月行事組合之者まで、其罪科遁るゟからさる事。

右條々急度可相守之。新金銀被仰付い初ニ、兩替等之家業としいそのともゟハ、別ゟ被仰出い趣も有之い上ハ、自今以後、違犯之輩於有之ニハ、御宥免之御沙汰ハ不可有者也。

四月〇正德五年。

覺

一、新金銀追日世上ニ流布通用い。就中新金ハ、江戸表計ニゟ吹替らき、兩替屋共ハ、金銀之通用を以家業としい處ニ、去年以來、兩町之兩替屋共、金引替之次第不審之様子度々ニ及ひ、殊ニハ乾字金引替之數ハ少分之事ニい。自今以後ハ、兩町之兩替屋とも組合を立置、月行事壹人宛を定免て引替之事を取計、毎日ニ兩町之者共ゟ新金ニ引替之金高

三千兩ゟ五千兩迄之間を以其内元祿金乾字金半分宛相交可引替之。若元祿金集り方もくなき時む、元祿金む集り次第ニ仕其餘む乾字金を差加へそ定數之通ニ可引替之。若又急用ニ就そ定數より多く引替い義む、望次第可爲事。

一、此度江戸町中之兩替屋錢屋又む諸商賣もの之問屋共ゟも、元祿金乾字金相交、日々ニ引替ニ來りい人別之金高等委細ニ帳面ニ記置い様ニ申渡しい間、兩町之兩替屋共ハ別ゐ無懈怠引替い様ニ可相心得事。

一、最初御定金銀增割之外ニむつかニゐも新古金銀之直違を仕出し、又む小判切賃等過分之事ニ及い類、惣ゐ不依何事ニ、金銀通用之妨を仕出しいもの有之いハ、其主人手代むいふニ及むに、月行事組合之者共まて、其罪科遁るゐらさる事。

右條々可相守之。新金銀被仰付いい初ニ、兩替家業之輩ハむ、別して被仰出い趣意有之い上む、違犯ものニおゐそハ、自今以後、御宥免之御沙汰む不可有い間、急度其旨を可相心得もの也。

四月（正德五年。）

右む未（正德五年。）四月廿一日、中山出雲守様御番所ハ名主共被仰渡い上、右御書付、奈良屋ニゐ寫もの。町中連判。同（正德五年四月。）廿六日同所納。

此御觸之内、兩町ゟ御座いむ、駿河町本兩替町之事ニ御座い。

右ニ付、昨廿四日淺草ニゐ惣名主寄合相談之上、左之窺書相認、今日喜多村まて年番名主差出しい得む、請取被置い。

以書付申上い

一、兩替屋之義、家業同意ニ仕い者、并少々商物賣溜等取集兩替や仕、身體輕者御座いニ付、輕重之分ケ帳面ニ記し、差上申度い。此段奉窺い。

一、諸問屋兩替屋錢屋之組合之義、支配切ニ組合いゐむ、右之者共町内ニ壹人貳人有之い町々む、組合人數不足ニ御座いニ付、隣町申合、組合申い様ニ仕いハゝ、人數多引替之勵ニも可罷成と奉存いニ付、此段御伺申上い。

一、前々ゟ極い問屋之外ニ、仲間ハ義入不申問屋御座いハゝ居所隔被在い共、此類一所ニ組合可申義ニ御座い哉、奉窺置い。　以上。

未（正德五年。）四月　　北南年番共

喜多村ニゐ年番名主へ被申渡

町々諸問屋ニゟ組合有之い者、此度金銀引替ニ付、十仲間を除其外組合來りい問屋、町々之組合之内ハ入い共、又ハ一組切ニ成共、其組合之心次第可致、尤も兩替屋錢屋諸問屋大商人帳面、左之趣ニゐ三冊ニ認來ル六日（正德五年五月。）同所ハ差出い様被申渡い。

覺

一、何町　　兩替屋誰印

錢屋誰印

一、何町
　右町内ニて大商人無御座ハ。
一、何町
　右町内ニて、兩替屋錢屋無御座ハ。
右一組町數合何町。
　兩替屋錢屋商賣何拾人。
　内、本兩替屋何人。
　　錢屋何人。
　　商賣人何人。
右之通、町々兩替屋商人一組切ニ仕、月行事之義て、壹町ニ壹人づゝ、壹ケ月切ニ相勤可申ハ。組合町々之内、人數無數御座ハ所て其町續之人數へ交り、順々月行事相勤可申ハ。以上。

未〇正德五年五月　　商賣人誰印
　　兩替屋誰印
　　錢屋誰印

何町
何町
名主誰印
何町

未ツ。同正德五年五月十日
右帳、兩替屋諸問屋大商人并其町々名主致印形、喜多村ハ年番名主差出しハ得て、貳通ハ請取被置、壹通て追ゟ差圖次第引替所ハ可差出旨、被申渡ハ。
　此兩替屋錢屋諸問屋大商人之帳、年番ニゟ相認、尤度々寄合、筆墨紙蠟燭物書諸入目、
　右町人共人別割ニいゟしハ。
未ツ。同〇正德五年五月十五日
右出來有之ハ、組合名前帳壹冊、引替所ハ差出しハ様、喜多村ニゟ被申渡ハニ付、則年番之下役ニ爲持差遣し、尤引替所ゟ請取書付取り參りハ。
廿五日〇正德四年五月。五　　――正寶事錄
一、阿部豐後守〇正喬。被相達ハ書付、大目付中川淡路守相觸。
覺
一、新金銀追日世上ニ流布し通用ハ。其中東國筋ハ金通用之事ニハ所、新金未諸國在々ニ行渡らに、其上只今迄遣ひ馴ハ故ニ、多分ハ小形金を以通用之由ニハ。去年被仰出ハ新金銀通用之次第ハ、萬事ニ付少も損德無之たゟ之御沙汰ニハへて、御觸書之旨を相守、新古金之撰ひなく相用もゟき事ニハ處、小形金計之通用ニかゝよりハ事ハ、遠國之者共其子細を不相心得ハ故と相見ハ間、村々名主組頭等ハ云ニ及て、大小之百姓とも又は諸商賣人、此旨を相心得ハゟ、元祿金小形金共ニ有合次第ニ新金ニ引替ハゟ、通

用い様可仕事。

一、此度江戸中ニあ諸國在々商賣物共請込い問屋共ゟ町奉行所ゟ被相觸元祿以來之金銀之集り次第ニ引替所ゟ差出之新金ニ引替い様、荷主共方ゟ新金銀通用之次第、何も損失無之い子細を相達し、商賣物之義ハ、第一ニ新金銀を可相渡由申渡されい間、諸國村々大小之百姓共并諸商人等其旨を可相心得事。

一、諸國在々ニ於諸商賣物之代又ハ小判之切賃等をハし免、何事ニ不依、新古金銀割增、御定之外ニ纔ニても新金銀ニあ之値段を差加へい歟、又ハ元祿金小形金を貯置引替さる者いニをいてハ、後日ニ相聞い共、當人之事ハ云々不及、名主組頭迄も、曲事之御沙汰有ゑき事ニい間、一村限りニ大小之百姓諸商賣人迄、能々共旨を可相心得事。

此度御料所御代官ゟ相觸候。私領ニ於ても此趣を可被申渡い。以上。

四月〇正德五年。

——柳營日次記〇正德五錢、天享吾妻鑑同。

是月〇正德五年(紀元二三七五年)四月。辻番ノ制ヲ定ム。〇享保撰要類集。天享吾妻鑑。有章院殿御實紀。

辻番制

辻番制事蹟

傳フ、

正德五未年四月。

壹萬石以下辻番

條々

一、辻番之儀晝夜無懈怠可相勤、雖爲夜番所之戸明置、不寢番をいさし、請取之場所切ニ見廻之、若狼藉者又ハ手負たる輩、惣あ不審成者於來ハ、出向留置之品組合被申屆、屋敷ニより御目付衆ゟ申達可得差圖い。縱廻場ニて無之い共、近所候ハヽ、早速罷出取計、其上ニあ廻場之番人ゟ可相渡事。

一、喧嘩辻切等有之節も、右同前可相心得事。

一、辻番人數、壹萬石以下ハ組合ニあ相勤い分ハ晝貳人夜四人ニあ可相勤事。

附、壹萬石以上組合無之辻番相勤い面々ハ請負之者共ニ渡番ゟ仕間敷事。

一、奉行人御目付衆夜廻り之面々申渡候御法度之趣不可違背事。

附雜說先々ゟ不可申觸事。

一、荷物積來い船、河岸端ゟ有之辻番より改之、御定之日數之外不可差置事。

附、御堀ゟ塵芥捨させ申間敷い。若辻番下知を不用、塵芥捨い者有之ハ、主人を承可屆置事。

一、辻番所ニ男女當座之宿も不可借、惣あ番所前ニ人不被集置、并衣類諸道具何ゟて茂

一、切預り置、并辻番所ニあ見苦敷物商賣仕間敷事。

一、辻番之者、六十歲以上貳十歲以下不行歩もの、病人、一切不可置事。

一、辻番人仲ケ間申合、諸事無油斷相勤可申候。若不慥成者有之い、ハ、組合之内月番ゟ急度可申斷事。

一、突棒さすはゟ棒續松早繩挑灯、番所ニ可差置。鑓長刀ハ可爲無用事。

一、江戸中端々長屋其外小家等かとの衣類もぢりまてからみ取、又ハ門長屋かとのゝかゝ物ハつしゆ由、ケ様之義并長屋下等ハ立やをらひ、不審ニ相見ゆ者有之ゆハゝ、心を付不可油斷事。

一、江戸中往還之輩、於道路頻ハ煩出、又ハ酒ハ醉行留ゆ節、町醫ニ任ゆ儀、如前々堅く可爲停止候。侍小路町屋敷之前ハりといふとも、其所ニ暫留置之令介抱、正氣付ゆ上可遣之。若一日も一夜成共於不得快氣ハ、其所之支配方まて申斷可受差圖、縱正氣ゆ上ニも行歩不叶時ハ、其者之住所承届使を差越、迎之者招寄相渡可遣之事。

右之趣、於致違背ハ、後日聞ゆ共、可爲曲事者也。

正德五未年四月

この月（正德四年五月）萬石より已下辻番所の令仰くだされしは、各所辻番の事晝夜をこたらずつとむべし夜も戸をひらきおき、不寢番をなすべし、あづかる所の地時々見めぐり、もし狼藉のもの、あるは疵からぶるものかすべてあやしきさまの者を見ば、出むかひとゞめ置、速に組合のもとにいひやり、各邸より目付に告て、指揮をうくべし、たとへあづかる地にあらずとも、近邊ならば、すみやかに出あひて事をはからひ、主管の番人にをくるべし、喧嘩口論辻切等ある時も、前に同じく心得べし、辻番人數萬石より以下の組合にてつとむるは、晝二人夜四人なるべし、但萬石以上組合なき辻番は、うけ負のもの渡番にすることあるべからず、奉行目付より夜廻りのともがらに示せし旨そむ

くべからず、荷物をつみ來し船、河岸につなぎをく時、辻番よりこれをあらため、定制日限の外、とゞめ置べからず、番人は六十歳以上、二十歳以下、行歩に堪ざるもの、病あるもの、一切置べからず、つく棒さすまた、早縄を番所にそなへをくべし、鎗長刀はもちふべからずとなり。

六月（正德五年）

一、辻番所へ御條目出ル。一萬石以上ノ辻番也。

條々

一、辻番ノ儀晝夜無懈怠可相勤、雖爲夜中、番所ノ戸ヲ明置、不寢番ヲ致シ、請取ノ場所切々見廻之、若狼藉者又ハ手負タル輩物ヲ不審成者出來ハ、出向留置、早速支配ノ役人ヘ申屆、其屋布々々ヨリ御目付中ヘ申達可得差圖、ゆ縱廻リ場ニテ無之候共、近所ニ候ハ、早速罷出取ハカラヒ、其上ニテ廻リ場ノ番人ヘ可相渡事。

一、喧嘩辻切等有之節モ、右同前ニ可相心得事。

一、辻番人數、一萬石ヨリ一萬九千石迄ノ高ニテ相勤候番人、晝三人、夜五人ニテ可相勤事。

附リ、一萬石以上組合無之辻番相勤ゆ面々ハ、請負ノ者ニ渡番ニ仕間布事。

萬石ヨリ以上ノ高ニテ相勤候番人、晝四人、夜六人ニテ可相勤事。

附リ、雖爲組合、相定ノ人數ノ通、可相勤ゆ事。

一、奉行人御目付中夜廻リノ面々、申渡い御法度ノ趣、不可違背事。

附リ、雜說先々ヘ不申觸事。

一、荷物積木舟河岸端ニ有之、辻番ヨリ改之、御定ノ日數之外、不可差置事。

附リ、御堀ヘ塵芥捨サセ申間布候。若辻番ノ下知ヲ不用候ハヽ、主人ヲ可被屆置事。

一、辻番所ニ男女當座ノ宿モ不可借置、惣ゐ番所前ニ人集不可置、并衣類諸道具、一切預リ不可置候事。

一、江戸中端々長屋其外小屋等抔ノ衣類ヲモヂリニテカラミ取、又ハ門長屋抔ノカナ物ハヅシ候旨、ケ樣ノ儀、并長屋下等ニ立休ヒ、不塞ニ相見ヘ候者有之ハ、心ヲ付不可有油斷事。

一、江戸中往還ノ輩、於道路俄ニ煩出、又ハ酒ニ醉行留候節、町送リニ仕候儀、如前々堅ク可爲停止候。侍小路町屋布ノ前タリト云モ、其所ニ暫ク留置之、令介抱、正氣付候上、可遣之。若一日モ一夜成共、於不得快氣ハ、其所ノ支配方迄申斷、可受差圖候。縱正氣付候上ニテモ、行步不叶時ハ、其者ノ住所承屆使ヲ差越、迎ノ者招寄、可相渡申候事。

右之趣、於致違背ハ、後日ニ相聞候ハヽ、可爲曲事者也。

正德五年未四月　奉行

屋鋪受授

五月三日戊戌（○正德五年（紀元二三七五年）○戊戌、三正綜覽。）屋鋪替有リ。外ニ若干屋鋪ノ受授是月（○正德五年（紀元二三七五年）五月。）ニ在リ。（○柳營日次記、正德五錄、寬政呈譜、屋鋪渡預繪圖證文、屋敷書拔。）

——天享吾妻鑑

久松備後守（○定持。）
牧野能登守（○成熙。）
近藤彦九郎（○用連。）

——正德五錄（○柳營日次記同。）

賣鋪受授事
屋

屋鋪受授

正德五年五月中、左ノ各屋鋪受授セラル。

三日（○正德五年五月。）

一、屋鋪替被仰付い面々、

小川町三好助次郎屋敷ト入替リ。

六番町山角六郎左衞門・榊原萬五郎屋敷三方替。

飯田町安藤頼母屋敷ト入替。外之坪も被下之。

久松定持
牧野成熙
近藤用連
柴田康完
安部信興
岡野敬明

康完（幼名吉之助。後酒之丞。後但馬守。柴田丹後守。）

同（○正德。）五乙未年五月三日、丹後守義酒之丞と申い節、永田町屋敷千七百六拾七坪之內千貳百七坪、安部兵部（○信興。）い殘五百六拾坪と、右兵部本所三ツ目千坪之屋敷を足坪ニ仕、岡野孫四郎（○敬明。）い、右孫四郎愛宕下佐久間小路貳千百九拾五坪之屋敷酒之丞い、三方相對替奉願い、通被仰付い。

敬明（初愛千代。岡野孫四郎。）

年月不知、御留守居松前伊豆守支配之節、愛宕下佐久間小路拜領屋敷ト、大久保淡路守支配柴田源之丞、永田町拜領屋敷內切坪相對替奉願、正德五未年五月三日願之通被仰付之。

——寬政呈譜

正德五乙未年

殷昌期

榊原政邦
酒井忠音
浦村三右
水越與左
小島平内
屋代粂右
平野升元

一、神田橋御門内七千八百九拾五坪（五月十五日渡。松平甲斐守上ヶ屋敷割殘松平刑部少輔上ヶ地共一本ニ、但、建長屋立其疊共）

一、同所八千七百五拾六坪（五月十八日渡。松平右京大夫上ヶ屋敷并御預地其外共。）

一、權田原元御屋敷内四坪五合（五月十九日渡。林八兵衛上ヶ御長屋）

但、御借渡。

一、權田原元御屋敷内貳拾貳坪（五月十九日渡。山田半助上ヶ地）

但、小屋地ニ御借渡。

一、下谷根津元御屋敷内四拾五坪（五月廿三日預。伊澤久節小屋地上ヶ地）

一、小石川元御殿近所四百坪（五月廿六日渡。水野浦次郎上ヶ地）

但、麹町屋敷御用地ニ被召上ゆ爲替地被下。

圖○略。

權田原御長屋　浦村三右衛門　四坪五合。

東西　南北　壹間　三間。　東　空地。　南　岡本權内。　西　道。　北　岩瀨庄治郎。

權田原元御屋鋪之内御下男林八兵衛上ヶ御長屋、拙者願之通御借渡被成四方間數坪數右御繪圖之面、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

榊原式部大輔○政邦。
酒井修理大夫○忠音。
法心院樣附御下男組頭　浦村三右衛門
一位樣御廣敷附御下男組頭　水越與左衛門
羽太傳左衛門組御切手同心　小島平内
御蔵所頭岡田理左衛門支配　屋代粂右衛門
小普請松前伊豆守組　平野升元

——屋敷書拔

正德五乙未五月十九日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。

右立合相改渡レ之。

原五郎左衛門。市川孫左衛門。中村半治。

法心院樣附宮川清九郎支配御下男　浦村三右衛門　印

圖○略。

權田原　水越與左衛門小屋地　坪數貳拾貳坪。

東　鎌田武兵衛。　南　秋山忠右衛門。　西　久野金五右衛門。　北　道。

東　五間貳尺五寸。　南　四間壹尺。　西　五間四尺。　北　四間。

權田原元御屋鋪之内山田半助上ヶ地、拙者願之通小屋地ニ御借渡被成四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

一位樣御廣鋪附山内惣右衛門・石川新右衛門支配御下男組頭　水越與左衛門　印

正德五乙未年五月十九日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。

右立合相改渡レ之。

原五郎左衛門。市川孫左衛門。中村半治。

圖○略。

下谷　伊澤久節小屋地上ヶ地　坪數四拾五坪。

東　道。　南　三浦宗閑。　西　道。　北　屋代粂右衛門。

殷昌期

南東 四間。十壹間四尺。 北西 三間五尺。十壹間四尺。

下谷根津元御屋鋪之内伊澤久節小屋地上ヶ地、抽者共兩人ニ御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座ニ御預り申ㇾ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

羽太傳左衛門組御切手同心 小島平内印清

御臺所頂岡田理左衛門支配 屋代久米右衛門印清

正德五乙未年五月廿三日

嶋田佐渡守内小倉半内。

右立合相改預ㇾ之。

平野善三郎。宇野小兵衛。原五郎右衛門。

圖○略。

小石川 平野升元屋鋪 坪數四百坪。

東南 加藤鐵次郎。前田孫兵衛。 西北 空地。北 梶源藏。

東西 十七間壹尺三寸。 南北 貳十三間壹尺五寸。

糀町平野升元屋鋪御用地ニ被ㇾ召上ㇾ爲ニ替地一、小石川元御殿近所水野浦次郎殿上ヶ地拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相改、相違無ニ御座一請取申ㇾ。爲ニ後日一仍如ㇾ件。

小普請松前伊豆守組平野升元内 富澤元右衛門印

正德五乙未年五月廿六日

島田佐渡守内渥美太左衛門。朽木丹後守内山瀨又次郎。

大久保下野守内小嶋十郎左衛門。

右立合相改渡ㇾ之。

——屋鋪渡預繪圖證文

奥御醫師 森宗乙

同 今井元昌

村上養純

平賀玄純

大八木傳庵

○正德五年五月五日陰霍過ㇾ晴。

一、屋敷被ㇾ下ㇾ之。

元飯田町河岸通町屋東南之角屋敷表口拾間、裏行貳拾間。

元飯田町東之方河岸通り町屋中屋敷表口拾六間裏行貳拾間。

右願之通被ㇾ下旨、於ニ御膳立間一、越前守○詮房。部申ニ渡之一。中務大輔○忠良。本多醫奥師 村上養記

○正德五年五月十八日晴中略○。

飯田町十六間裏行拾九間壹尺。西南角屋敷、表口

右同所河岸通東之方中屋敷、表口拾貳間壹尺裏行貳拾間。

右同所南之方中屋敷、表口拾三間裏行。

町屋敷被ㇾ下ㇾ之、處ニ見立可ニ相願一旨、於ニ同席一、同人申ニ渡之一。列座同前。

奥御醫師 村上養純

同 平賀玄純

同 大八木傳庵

殷昌期

○正德五年五月廿五日晴○中略。

一、添屋敷被下之。

屋敷狹ニ付隣小普請醫師平野升元上屋敷三百八拾坪添被下之旨、御膳立間ニおゐて、越前守申渡之。中務大輔列座。

奥御醫師 數原玄長院

——間部日記

附記、一 處罰

〔附記、一〕 處罰

六日○正德五年五月。

一、於評定所御仕置之覺

小普請松前伊豆守組 成海佐左衛門ゟ申渡之覺

先年其方娘ほち御奉公ニ被召出ゐ時、親類書ニも、佐左衛門親族之外ほち忌服相懸ゐ者無之由書出ゐ。然ルニ今度御留守居組與力篠原佐五左衛門病死之期ニ至ゐ、彼者事ハるち實父之由ニて忌服之事申上ゐニ依て、事之子細被相尋ゐ處ニ、四年以前るち事御奉公之品替ゐ時、佐左衛門支配迄ハ養女之由相斷ゐと相聞ゐ。然ニ又今度差出ゐ書付ニハ、最初養女ニ仕ゐ時、養父實父之差別を相立間敷ゐ由、佐五左衛門と約諾ゐニ付、養女之由む不申上ゐ處、ほち事佐五左衛門末期ニ及實父之由を申ゐ條、不屆之至り不及是非ゐ由ニゐ。其始ニハ娘之由を申、半バニハ養女之由を申、今ニ至テハ又るち實父之事を不可申上事之由を申、前後申所相違有之ゐ。其上御奉公も願ゐ上ハ、事之子細有體ゟ可申上事ニゐ。況や又忌服之事御定法も有之事ニて、實父之忌服不可請義も無之ゐ。然む急度其御沙汰可有之支ニゐ得共、今度御法會事濟ゐ御時節ニゐを以、其罪過を宥免られ、ほち事ハ御暇を被下、佐左衛門支ハ改易ゟ行むれゐ者也。

御留守居組 篠原藤助

右藤助養父佐五右衛門娘るち事、先年成海佐左衛門娘之由ニて御奉公ゟ差出、其親類書ゟも佐左衛門親族之外るち忌服懸りゐ者無之由書出ゐ。然ニ今度作五右衛門病死之期ニ至ゐ、實父の由相聞ゐ。佐五右衛門親類書ニむ、娘壹人手前ニ有之由ニゐ、佐左衛門方へ養女ニ差遣ゐ事む其支配ゟも不申達、藤助家督之後差出ゐ親類書ニも、佐五右衛門相談を以、ほち事ハ藤助實方之姪之由を書出し、其事之次第重々有體ニ無之事共ニゐ。佐五右衛門事既ニ死去ゐといへとも、藤助事も其罪科をハ遁るゐゐらにゐ。雖然今度御法會事濟ゐ御時節ニゐを以、御宥免之御沙汰としそ改易ニ行むれゐ者也。

右町奉行坪内能登守○定鎮。御目付中根半十郎立合、以書付申渡之。

——柳營日次記○正德五錄同。

附記、二 小玉銀賣所

〔附記、二〕 小玉銀賣所

末ツ五月九日○正德五年樽屋ニゐ年番名主ゟ被申渡。

殷昌期

一、此度馬喰町四丁目ニあ川口茂右衛門ヶ申もの、小玉銀賣所被仰付ゆ間、小玉銀入用之もの、右茂右衛門方ゐ參調ゆ様入念可相達段被申渡ゆ。　——正寶事錄

附記、三　金貨引替額

〔附記、三〕　金貨引替額

（末ツ五月十五日〇正德五年）喜多村ニあ年番名主ゐ被申渡。

一、引替金其組合より金三百兩ゑ五百兩迄之高之内引替可申尤十日目〳〵と引替、翌日其書付、組合之内月行事貳人名主貳人判行いゑし、喜多村迄差出しゆ様被申渡ゆ。　——正寶事錄

屋鋪受授

屋鋪受授事蹟

太田友位

六月五日己巳〇正德五年（紀元二三七五年）〇己巳、三正綜覽。屋鋪受授有り。外ニ是月〇正德五年（紀元二三七五年）六月。若干屋鋪ノ受授ヲ見ル。屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寛政呈譜。柳營日次記。正德五錄。天享吾妻鑑。子爵戸澤家回答。

屋鋪受授　正德五年六月左ノ各屋鋪ノ受授有リ。

圖〇略。

濱町　太田善三郎〇友位。屋鋪　坪數三百拾三坪。

東　長谷川善太夫。　南　鈴木小七郎。設樂喜兵衛、平岡三郎右衛門。

東　貳十間五尺。　南　十四間五尺五寸。　西　貳十壹間貳尺。　北　十四間五尺。

濱町成海佐左衛門殿上ケ屋鋪太田善三郎拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件

正德五乙未年六月五日

朽木丹後守内長尾茂左衛門。嶋田佐渡守内渥美太左衛門。
大久保下野守内小嶋十郎左衛門。
右立合相改渡之。

宇野小兵衛。市川孫左衛門。馬部勘右衛門。中村半治。

太田善三郎内　伊藤清右衛門印

牛込重矩

圖〇略。

目白台　牛込新七郎〇重矩。預り地がけなゞき　坪數四百七拾八坪。

東　牛込新七郎。　南　黑田源右衛門。　西　洞雲寺。　北　道。

東　三十九間。　南　三十六間。　西　三十七間五尺。　北　貳十間三尺。

目白台牛込忠左衛門拜領屋鋪續割殘りがけなゞきゑ之所先年御預り地、今度新七郎方ゑ稻葉若狹守方ゐ書出ゆ坪數相違仕ゆニ付、今度相改、御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如件。

牛込新七郎内　川村金右衛門印

正德五乙未年六月八日

嶋田佐渡守内渥美太左衛門。
右立合相改預之。

吾孫子丈助。安川清兵衛。市川孫左衛門。

股昌期

正德五乙未年

一、濱町三百拾三坪（六月五日渡。成海佐左衛門上ヶ屋敷）

一、目白臺四百七拾八坪（六月八日預。屋敷かけ出ざ地）

文化三寅年十二月十五日小出又五郎に預替。

一、駒込千駄木林近所壹萬坪（六月九日預。榊原式部大輔上ヶ屋敷）

一、芝新堀端屋敷前下水落口地所（六月廿六日渡。○一本林消。）

役名不知 太田善三郎

役名不知 牛込新七郎

松平甲斐守（預地。吉里。柳澤）

役名不知 岡田將監（預地。善譜。）

——屋敷書拔

柳澤吉里

岡田善譜

廿一日（○正德五年六月。）

一、小川町松平主計頭（○近鎭。）屋鋪、戸田大隅守（○忠周。）へ被下之。

一、淺草勝田備後守（○典愛。）屋鋪、松平主計頭（○近鎭。）に被下之。

一、永田馬場戸田大隅守（○忠周。）屋鋪勝田備後守（○典愛。）へ被下之。

戸田忠囿

松平近鎭

勝田典愛

——柳營日次記（○正德五年六月。）

○屋布替被仰付之。

松平主計頭屋布へ、

勝田備前守屋布へ、

戸田大隅守屋布へ、

戸田大隅守（○忠周。）

松平主計頭（○近鎭。）

勝田備後守（○典愛。）

——天享吾妻鑑

近鎭（初昭利。傳次郎。大學。大學頭。主計頭。○大給松平。）

正德五乙未年六月廿一日被召ゐ處病氣に付松平市之丞名代登城仕ゐ處、小石川居屋敷御用に付可差上旨、右爲替地下谷七軒町勝田備後守屋敷被下ゐ旨、於芙蓉之間御老中戸田山城守（○忠眞。）殿被仰渡ゐ。

麻布白銀屋敷（御殿跡地。○中略。）

一、同（○正德。）五年六月廿九日（○戸澤正庸代。）屋敷內ニテ南ノ方差上、東ノ方ニテ替地。（御記錄。）

——子爵戸澤家回答

戸澤正庸

附記 錢相場引下令幷ニ引下方法書上

〔附記〕 錢相場引下令幷ニ引下方法書上

正寶事錄云フ、

一、金引替之義、思召之外ニ無滯差出ゐ段、名主共致出情ゐ故ニゐ間御譽被置ゐ段、被成御意、先町人共爰出精ゐ間、御ほめ被置ゐ段申聞ゐ樣被仰渡ゐ。（末ツ。六月九日。○正德五年。）

一、錢相場殊之外高直ニゐ間、下直ニ成ゐ樣錢屋共に入念申渡ゐ樣可仕、若相背申そのも有之ゐハヽ、急度御吟味可被仰付段被仰渡ゐ。（末同。○正德五年。）七月十二日

右ニ付錢屋共に度々申渡、勿論致吟味ゐ得共、相下ケ不申、尤名主共不吟味ニ被思召ゐ段、喜多村彥右衞門殿被申渡有之ゐニ付、年番寄合判談之上、左之通書付彥右衞門殿迄差出しゐ。

以書付申上ゐ

昌　期

御錢御拂被仰付ハ得共、今以錢下直ニ相成不申ハニ付、下直ニ可相成品可申上旨、及度々錢屋共拙者共ニ被仰ハニ付、寄合彼是と相談仕ハ、相叶可申義御座ハ哉難計奉存ハヘとも、存寄之義申上ハ錢屋共ニ相障申義も御座ハ得と如何ニ奉存ハ得共、度々御尋之上ニ御座ハニ付、不及儀ニ奉存ハ得とも、存寄之段書上申ハ。此儀ニ付錢屋共舊悪之義ハ御座ハハヽ、此度と御救免被下置ハ様奉願上ハ事。

一、錢相場相立ハ場所

三河町貳丁目。　新革屋町。

日本橋新場。　本小田原町。

佐内町。

右五ケ所ニ為、日々之錢相場相立、端々迄是を追申ハ様ニ及承申ハ。神田組三田組せを仲間と、相場立ハを通達仕ハとも御座ハ。此儀と兩替町駿河町ハ為日々參相場申ハ様ニ及承申ハ。是ニ准し、新御支配寺社御支配迄相通し申ハ。此段相場為下直ニ相成ハハヽ、寺社御支配迄為一同准し可申と奉存ハ事。

一、錢下直ニ可相成儀と、只今迄之様ニ組合之錢屋共ハ御拂御座ハあと、惣町中錢屋共員數及申ハニ付、下値ニ成兼申ハ。錢屋御拂被遊ハあ為、御拂錢之外と、高値ニ御座ハ。此段と御拂錢下直ニ付利倍考、二三ケ月圍ひハあも損為不參ハと人々心得、買置ハ様ニ奉存ハ。此上せり札ニあ却あ高札之者へ御拂被仰付ハハヽ、高キ錢買置ハあと利倍ニ逢不申ハ間、御拂錢之外、買置ハ錢為段々拂申ハ様奉存ハ。依之重あ御拂被爲仰付ハハヽ、錢高知為不申ハ様又為こ之者共入札可仕旨、町御觸被仰付ハハヽ、町中錢屋其外商人も錢高難知レハ間、買置ハもの為をくかく可有御座と奉存ハ。ケ様之仕方ニ被成下ハハヽ、下値ニ為可相成と奉存ハ事。

錢下値ニ可相成筋申上ハ

一、錢相場高値ニ御座ハ義、銀通用以前之ごとく取引不仕、當前錢計働強ク御座ハ故ニ、乍恐奉存ハ間、小玉之銀町々ニ御拂被仰付、家主商賣人共ニ割合御拂、銀買上ケハハヽ、おのつから銀遣ひつよく相成可申ハ。然ル上ハ錢之働よとく罷成ハニ付、おのづから相場下値ニ可罷成様ニ乍恐奉存ハ間、小玉銀町御拂被爲仰付被下置ハ様ニ奉願上ハ事。

未（正德五年）七月

七月二日乙未（正德五年（紀元二三七五年））

屋敷書抜。寛政呈譜。

屋鋪授受　右ノ各屋鋪ハ正德五年七月中授受セラレタル者ニ係ル。

一則（藤兵衛。勘右衛門。横山。）

正德五年七月二日麹町屋敷御用地ニ被召上、建家共。爲代地小石川平岡十左衛門上り屋敷建家共被下之旨、小普請大久保淡路守傳之、七月六日御普請奉行朽木丹波守ゟ

町中　惣名主共

屋鋪授受領者有リ。外ニ若干屋鋪是月

近藤用連

小石川之屋敷請取之、七月九日麹町屋敷朽木丹波守ゟ相渡申い。

用連○左門。彦九郎。近藤。

正德五未年七月四日元誓願寺前拜領屋敷坪數貳千三百六十五坪之內、元飯田町坂下寄合賴母拜領屋敷坪數千五百坪と相對切坪替奉願、同年九月願之通被仰付、切坪殘地八百六拾五坪と元誓願寺前ニ殘置申い。

——寛政呈譜

圖○略。

內藤宿　油川五良太夫上ケ地割殘　坪數貳百五坪。

東　難波田熊之助。
南　上杉民部大輔抱屋敷。
北　伊丹小左衞門。
西　道。

東　四十間。
南　五間。
西　貳尺。
北　四十間。五間三尺五寸。

內藤宿油川五郎太夫殿上ケ地割殘、伊丹小左衞門○勝澄。ゟ御預ケ被ㇾ成四方間數坪數、右御繪圖之面相違無ㇾ御座御預り申い。勿論家作塀圍等仕間鋪い。爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

小普請大久保淡路守組伊丹小左衞門內　平田清兵衞印

正德五乙未年七月二日

島田佐渡守內渥美太左衞門。
右立合相改預ㇾ之。

清水喜兵衞。中村半治。

圖○略。

小石川新小川町　横山藤兵衞○一則。屋鋪　坪數五百貳坪。

寺田長右

東　松下左兵衞。
南　馬場源八郎、津田吉三郎。
西　白岩善八郎。
北　道。

東　十九間三尺。
南　貳十四間貳尺。
西　貳十間五尺。
北　貳十五間三尺。

麹町裏山王近所横山藤兵衞屋敷、御用ニ付建家共被ㇾ召ㇾ上、爲ㇾ替地ㇾ小石川新小川町平岡十左衞門上ケ屋敷藤兵衞拜領仕、御渡し被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏等迄、御帳面ヲ以て相改、相違無ㇾ御座請取申い。爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

小普請大久保淡路守組横山藤兵衞內　田邊文右衞門印

正德五乙未年七月六日

朽木丹後守內長尾茂左衞門。島田佐渡守內小倉半內。
大久保下野守內栗田忠左衞門。
右立合相改渡ㇾ之。

平野善三郎。宇野小兵衞。原五郎左衞門。安川清兵衞。中村半治。

圖○略。

權田原　勘兵衞上ケ地　坪數拾五坪六合。

東　道。
南　池谷仁兵衞。
西　寺田長右衞門。
北　道。

東　三間貳尺六寸。
南　四間三尺六寸。
西　三間貳尺貳寸。
北　四間三尺五寸。

權田原元御屋敷之內元御鷹部屋跡六尺勘兵衞上ケ地、拙者ゟ御預ケ被ㇾ成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無ㇾ御座御預り申い。爲ㇾ後日ㇾ仍如ㇾ件。

堀丹波守支配大奥仕丁　寺田長右衞門印

正德五乙未年七月八日

殷昌期

島田佐渡守内渥美太左衛門。
右立合相改預レ之。
平野善三郎、吾孫子丈助、清水喜兵衛。

圖○略。

江戸川大橋近所　下水落口。
東南　石野彌市郎、丸山兵左衛門。西北　道。
東西　五間一尺。樋長六間幅七寸。　土手。
江戸川大橋近所石野彌市郎○清廣屋敷前下水落口、願之通御渡被成、右御繪圖之面相違無御座、請取申い。右下水落口川端土手崩等有之いハヽ、其段御斷申上、手前ゟ可致修復い。爲後日仍如件。
正德五乙未年七月十一日
新御番石野彌市郎内　山本平内
島田佐渡守内渥美太左衛門。
右立合相改渡レ之。
宇野小兵衛、原五郎左衛門。

圖○略。

糀町　松前求馬○廣道屋鋪　坪數四百坪。
東南道。西北道。　千葉兵部。瀧川内匠。

石野廣清

松前道廣

東西　貳十間。
南北　貳十間。
糀町裏山王横山藤兵衛殿上ヶ屋鋪、今度松前求馬拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋塗垂植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座、請取申い。爲後日仍如件。
正德五乙未年七月十三日
奥御小性松前求馬内　佐藤市右衛門印
朽木丹後守内山瀨又次郎。島田佐渡守内小倉半内。
大久保下野守内栗山忠左衛門。
右立合相改渡レ之。
宇野小兵衛。服部勘右衛門。吾孫子丈助。市川孫左衛門。

圖○略。

下谷　三浦宗閑上ヶ地　坪數四拾三坪七合。
東南岸本良古。西北伊澤久節上ヶ池。
西南道。東北大下水外道。
東南十壹間四尺。西北同上。
西南三間四尺五寸。東北三間四尺五寸。
下谷根津元御屋敷之内三浦宗閑上ヶ地、拙者共ゟ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、御預り申い。爲後日仍如件。
正德五乙未年七月廿六日
羽太傳左衛門組西丸御切手同心　鈴木三郎兵衛印消
同組　早川太七郎印消

鈴木三郎兵
早川太七郎